平成 26 年度

事業報告書

社会福祉法人クムレ

平成 26 年度　社会福祉法人クムレ法人事業報告

はじめに

　社会福祉法人を取り巻く環境が大きく変動する中、クムレは「ともに育ち　ともに生きる」の理念の更なる追求の為、平成 26 年度も様々な取り組みを行いました。

　平成 26 年度の法人スローガンとして「あいさつで　心をつなぐ　笑顔の和」を掲げ、挨拶からはじまるコミュニケーションの実現を目指し、ご利用者・職員・地域の方と心が通い合うつながりを大切にしてきました。職員が挨拶に対する意識を変えることで職員間のコミュニケーションが活発化し、風通しの良い職場環境になり、それがサービスの質の改善やリスクマネジメントにもつながりました。

　人財育成に関しては、平成 26 年度は階層別研修、専門研修、事業所内研修、外部研修を実施しました。特に階層別研修では福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキストを活用し、職員が自ら歩んできた道を振り返り、福祉の仕事をしようと決めたときの思いや、日々の業務の中での印象に残る経験を通して、自らの将来像を描き、職業人生の意味を深め、その価値を高めることをねらいとして取り組みました。各階層において自分が何を期待されているのか、また自分は何が出来るのかをあらためて考える良い機会となりました。
　平成 27 年度新採用職員宿泊研修では 3 泊 4 日で行い、同期の仲間と絆を深めるために新たにウォークラリーを行いました。水島商店街の中をグループに分かれ、仲間と協力しながらゴールを目指しました。研修後の感想ではウォークラリーが仲間との心の距離が縮まり、絆が深まったという方が多数いました。

　地域公益活動に関しては、各事業部ともに地域清掃活動や地域のお祭りに参加しました。また、倉敷市障がい福祉課との連携によるすきっぷ教室への職員派遣、3 歳児健診へ職員派遣、1.6 健診要観察児フォロー教室への職員派遣を行い、障がい児と保護者への支援を行いました。
　新規事業として「ひろばにじいろ」が平成 26 年 3 月末竣工し平成 27 年 4 月 1 日に開所しました。目的は、0～18 歳の子どもの子育てに悩みを抱える保護者の方が気軽に立ち寄れて相談できる、垣根の低い場を提供することです。また運営は、職員ではなく地域の方、保護者、行政等様々な立場の方に参加していただける体制を作りました。

最後に、法人の運営に対しては、理事会・評議員会において審議し、法人運営へのご協力並びに貴重なご意見を賜りました。平成 27 年度もより良い法人運営を目指してまいりますので、ご協力をお願いいたします。

（法人事務局）

職員の状況

単位：人

	H27.3.31	H26.3.31	H25.3.31	増減
正　規	196	205	193	12
A	27	23	25	-2
B	141	150	160	-10
合　計	364	378	378	0

平均年齢 32.07 歳（正規職員）参考：　H26.3.31　31 歳
H25.3.31　36 歳
平均勤続年数 4.7 年（正規職員）参考：H26.3.31　4.2 年

設備投資

①小ざくら保育園
改修工事費　34,000 千円

②小ざくら３園
外壁・屋上防水工事　36,260 千円

③小ざくら夜間保育園
耐震診断手数料　1,500 千円

④あしたば
送迎用・公用車駐車場整備　　6,000 千円

⑤てとて（ひろばにじいろ整備費）
土地建物、備品取得費　　85,000 千円

資金調達

新たな借入はありませんでしたが、金利の見直しを行い、年間約 160 万円の利息削減を行いました。見直した事業所は、コトノハ・倉敷学園・小ざくら保育園・きらり水島です。いずれも、2006 年～2010 年の間に契約したものです。

新規事業

（1）ひろばにじいろ開設

平成 27 年 4 月 1 日開始した事業の内容は以下の通り。

① 事業名：指定特定相談支援・指定障がい児相談支援、地域子育て拠点
② 事業所名：てとて・小ざくら地域子育て支援センター
③ 住　所：〒712-8062　岡山県倉敷市水島北幸町 2-5
TEL　086-476-2016
④ 敷地面積：505.58 ㎡
⑤ 建築面積：118.95 ㎡
⑥ 延床面積：225.24 ㎡

人財育成

①リクルート活動

ⅰ.新卒者向け法人説明会
平成 26 年 6 月 14 日（土）
ⅱ.新卒者採用 1 次試験（夏期）
平成 26 年 7 月 6 日（日）
ⅲ.新卒者採用 2 次試験（夏期）
平成 26 年 7 月 13 日（日）
ⅳ.内定者懇親会
平成 26 年 10 月 11 日（土）
ⅴ.新卒者採用 1 次試験（秋期）
平成 26 年 10 月 26 日（日）
ⅵ. 新卒者採用 2 次試験（秋期）
平成 26 年 11 月 9 日（日）
ⅶ.内定式
平成 27 年 1 月 10 日（土）
ⅷ.新採用職員宿泊研修
平成 27 年 2 月 18 日（水）～2 月 21 日（土）

②　法人内研修

・階層別研修

マネジャー、サブマネ・チーフ、リーダー・キャップ、一般、新卒者職員のキャリアに応じ、必要な知識を身につけるため、それぞれ年２回実施している。

・専門研修

子育て、発達、自立（障がい分野・高齢分野）各事業で、業務を遂行する上で、必要な知識等の研修を実施している。

・各事業所内研修

専門研修との相互補完を目的とし、各事業所で計画した事業所単位の特性に応じた研修を実施している。

③　実践研究発表会

目的：日常業務の中の問題や課題を整理し、問題解決を行う自己研鑽及び発表の場とする。

日程：平成 27 年２月 15 日（日）10：00～16：10

参加対象者：全正規職員

発表：37 題（平成 25 年度 36 題）

（子育て支援事業部 11 題・発達支援事業部 12 題・
自立支援事業部　14 題）

④　５法人研修

目的：約半年に１回クムレを含む、友好５法人が、それぞれで行っている先駆的な取り組みについて発表し、自己研鑽及び双発の場とする。

ⅰ．日程：平成 26 年６月 30 日～7 月１日
会場：大阪自彊館（大阪府）

ⅱ．日程：平成 26 年 11 月 12 日～11 月 13 日
会場：こうほうえん（鳥取県）

④　韓国（韓国子ども財団　チャイルドファンドオブコリア）研修受け入れ

日程：平成 26 年 10 月 26 日～11 月１日

目的：例年行っている、韓国子ども財団との交換研修。平成 26 年度はクムレが受け入れ、日本での児童、障がい者、高齢者福祉事情の視察及び情報交換。

理事会・評議員会の実施

第１回：平成 26 年４月１日（火）
第１号議案　　役員改選に伴う理事長選任の件

第２回：平成 26 年５月 24 日（土）
第１号議案　　平成 25 年度事業報告の件
第２号議案　　平成 25 年度決算の件
第３号議案　　評議員選任の件
第４号議案　　小ざくら保育園　防水・外壁塗装工事業者選定の件
第５号議案　　小ざくら保育園　幼保連携型認定こども園移行の件
第６号議案　　あしたば駐車場　２期工事業者選定の件
第７号議案　　（仮称）ひろばクムレ新設に伴う不動産取得の件
第８号議案　　（仮称）ひろばクムレ新設に伴う工事業者選定の件
第９号議案　　公益財団法人ＪＫＡ補助車輌購入に伴う入札参加業者選定の
第 10 号議案　施設長任免の件
第 11 号議案　諸規程の改廃の件

第３回：平成 26 年９月６日（土）
第１号議案　　平成 26 年度第一次補正予算の件上期賞与支給について
第２号議案　　（仮称）ひろばクムレ新設に伴う不動産取得の件
第３号議案　　保育職員処遇改善臨時特例事業の件
第４号議案　　理事・評議員退任及び顧問選任の件
第５号議案　　定款変更の件
第６号議案　　諸規程の改廃の件
※橋本岳氏が、平成 26 年９月４日付で厚生労働大臣政務官に就任。
したがって、国務大臣、副大臣及び大臣政務官規範（抄）１国務大臣、副大臣及び大臣政務官の服務等（２）②公益法人その他これに類する諸団体については、報酬のない名誉職等を除き、その役職員を兼職してはならない、と定められており、理事・評議員を退任され、顧問に就任。

第４回：平成 26 年 11 月 14 日（金）理事会のみ
第１号議案　　小ざくら保育園内部・外部等改修工事業者選定の件

第５回：平成 27 年１月 24 日（土）
第１号議案　　平成 26 年度第二次補正予算の件（下期賞与支給について）

第２号議案　　あしたば利用者送迎用・公用車駐車場不動産取得の件
第３号議案　　小ざくら保育園幼保連携型認定こども園移行の件
第４号議案　　定款変更（基本財産追加）の件

第６回：平成 27 年３月 26 日（木）
第１号議案　　平成 26 年度第三次補正予算の件
第２号議案　　平成 27 年度法人事業計画の件
第３号議案　　平成 27 年度法人予算計画の件
第４号議案　　平成 27 年度新組織の件（施設長任免について）
第５号議案　　役員改選の件
第６号議案　　福祉・介護職員処遇改善加算事業の件(介護職員処遇改善加算について)
第７号議案　　栗坂地域交流スペース(仮称)新設の件
第８号議案　　コトノハ農業実習地代替地賃貸契約の件
第９号議案　　創立 60 周年記念研修旅行の件
第 10 号議案　諸規程改廃の件
第 11 号議案　定款変更の件

法人行事

（1）辞令交付式
　　平成 26 年４月１日（火）
（2）新年互礼会
　　平成 27 年１月５日（月）

現況に関する重要事項

（1）地域公益活動について

子育て支援事業部

〇地域における子育て支援活動の実施（水島地区わんぱく広場への参加・育メン広場の開催
〇地域行事（祭り）へ参加（和太鼓・夢ｋｏｉ・警備ボランティア）
〇子育て支援イベント「みずしまキッズ」を開催
〇エコキャップ収集
〇清掃活動（事業所周辺、公園）
〇出張相談（児島児童館、水島児童館への出張相談）
〇すきっぷ教室への職員派遣

発達支援事業部

〇倉敷市障がい福祉課との連携によるすきっぷ教室への職員派遣
〇1.6 健診要観察児フォロー教室への職員派遣
〇清掃活動（事業所周辺、公園）
〇ボランティア受け入れ
〇実習生の受け入れ

自立支援事業部

〇清掃活動（町内、事業所周辺、公園）
〇地域行事（祭り）へ参加
〇ボランティア受け入れ
〇地域住民へ啓発活動（フォーラム・座談会開催・講演会実施）
〇クラコト フェスティバル開催
〇無料血圧測定
〇安全パトロールへの参加

余裕資金使途について

今後、主な使途は次の通り予定しております。

施設整備関連

事業名	時期	概算費用	その他
クラシス B 型事業所増設 （ひろば栗の家）	平成 27 年度	65,000 千円	
ないろ、倉敷地域生活支援センター移転	未定	70,000 千円	賃貸物件であり、年間約 700 万円支払
あしたば改修工事	未定	200,000 千円	平成 5 年竣工 築 22 年経過
児童発達支援センタークムレ、児童家庭支援センタークムレ改修	未定	400,000 千円	築 40 年経過
グループホーム増設	未定	40,000 千円	あしたば改修に伴う受け入れ先確保
きらり倉敷、玉島、児島移転	未定	3,000 千円	

地域公益活動関連

※無料又は低額料金でのサービス
※生活困窮者支援
※第三者評価継続受審
※人財育成勉強会開催（社内・社外向け）
※地域の休耕田活用（地域の高齢者に代わり障がい者支援をかねて実施）
※地域住民・利用者・保護者の憩いの場を提供（ひろば栗の家）

子育て支援事業部

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：小ざくら保育園】【事業所責任者:財前　亘】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

重点目標	目標（値）	施策及び結果
あいさつでつなぐ子育て支援の充実	地域・関係機関との協働	年間計画に基づき、他事業所での体験をすることにより他事業所の業務内容やそのサービスを利用する利用者への関心はもて、事業所間の連携の重要さは現場の職員も理解できてきている。
	こども園の移行に向けた乳児から就学前までの保育の構築	定期的なＰＪの開催、三法人研修（ベンチマーク含む）等によりこども園移行を意識して保育内容の検討を行った。まだ、不十分な点もあるので、次年度も引き続きの取組みを行う。
	継続的改善の実施	８ 月にＮＰＯ法人メイアイヘルプユーによる第三者評価を受審した。評価結果より課題の改善や今後の改善計画も含め、27 年３月に報告会を行った。課題や今後の改善に向けて行っていくことが職員間で再認識、共有することができた。
職員間コミュニケーションを通した人財育成	職員の役割に応じた知識と技能の向上	年間計画に基づいた階層別研修、事業部の専門研修、外部研修、公開保育、事業所内研修の実施と参加によって学び、役割に応じて必要な知識や技能は何なのかに気づくことはできてきている。 学びによって気づいたことを職員一人ひとりが目標や行動指針として描き、意欲的に実践することにより変わることにつながることが今後の課題である。
地域貢献・連携	地域における子育て支援活動の充実	地域の子育て支援のイベントへの参加や開催を行った。
	社会貢献活動の充実	地域の行事へ参加した。生活困窮者の支援については、具体策の検討や実施に至らなかった。まずは事業所間で連携しながら情報収集を行い、実施へとつながるようにしていく。

（説明）

事業部で役割分担、日程の調整を行い、協力し合って計画に沿って取り組んでいった。

そうした機会を通しての事業所間のコミュニケーションや職員間の交流が小規模事業所である自園の職員にとっては引き続きよい刺激になっている。そうした中で、学び気づいたこと

を目標や行動指針として、意識して意欲的に実践していくことが今後の課題である。第三者評価の受審（自己点検・自己評価含む）を通して職員一人ひとりはもちろん、自園の良い点、問題点、改善点に気づき共通認識でき、チームや事業所全体で取り組んでいくことの大切さや意識につながった。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
○第三者評価の受審	８月の受信結果を改善課題として見据えながら、３月に報告会を開催する。27 年度へ活かしていく。
○職員の育成	事業部専門研修（スキル・知識）を実施、次年度以降２年目以降の積み重ねを行っていく。
○子育て新制度への対応	3/20 に認可を受け、幼保連携型認定こども園に移行した。行政対応も遅いので協議しながら子ども子育て新制度へ対応する必要がある。

（説明）

26 年度中は、第三者評価、新制度の移行と大きな変化と対応が必要な年度であったが、事業所間連携を進め、情報の無い中、対応を進めていった。今後は制度の行く末を見据えながら、制度対応を行っていく。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	21	23	26	26	240	236	98%
５月	21	23	24	24	240	235	98%
６月	21	23	25	25	240	235	98%
７月	21	23	26	26	240	237	98%
８月	21	23	26	26	240	237	98%
９月	21	23	24	24	240	237	98%
10 月	21	23	25	25	240	237	98%
11 月	21	23	24	24	240	237	98%

12月	21	23	23	23	240	237	98%
1月	21	23	23	23	240	237	98%
2月	21	23	23	23	240	237	98%
3月	21	23	23	23	240	237	98%
合計	252	276	292	292	2,880	2839	98%

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

新制度移行を踏まえ、1号認定の受け入れを含めて、凸凹した受け入れ人数を鳴らしていくことが難しかった。職員の中途退職等も踏まえ年度後半に実績を増やしていうことが難しかった。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
入園式	4月	入園式	対象：新人・途中入所
春の遠足	4月	遠足	お弁当を持って、地域に親しむ
花まつり会	5月	仏様の誕生日を祝う	季節の行事を知る
参観日・保護者会総会	5月	参観日	日ごろの様子を知ってもらう。
プール開き	7月	プールの開始	プールの使い方、安全について知る。
七夕会	7月	七夕について	季節の行事を知る
お泊り保育	7月	雪組子どもが園に泊まる	子どもたちの自立心を培う
港祭りへの参加	8月	港祭りでの雪組鼓隊による演奏	地域への貢献
お月見会	9月	お月見	季節の行事を知る
参観日	9月	参観日	日ごろ様子の周知
運動会	10月	運動会	子どもたちの保育活動を保護者に見てもらう
秋の遠足	10月	遠足（月・花・星組）	お弁当を持って、地域に親しむ

卒園旅行	10 月	バスによる親子遠足	雪組としての思い出づくりを行う。
星・花組発表会	12 月	2・3 歳児の発表会	園ホールで実施
雪・月組発表会	12 月	4・5 歳児の発表会	園ホールで実施
クリスマス会	12 月	クリスマスについてしり。友達と楽しむ	季節の行事を知る
もちつき会	1 月	おもちつき	季節の行事を知る
雪・月組音楽発表会	2 月	保育内容の成果（音楽）を披露する	芸文館で実施
節分会	2 月	節分を楽しむ	季節の行事を知る
ひな祭り	3 月	ひな祭りを楽しむ	季節行事を知る
卒園式	3 月	雪組の卒園式	
個人懇談	年 2 回	保護者との懇談	子どもの成長課題を共通化するため
保育の説明会		今年度の保育について説明する。	保護者の理解と協力

4. 保護者（家族）との交流事業

・保護者会事業との積極的な連携
　保護者会と連携した祭り、行事の実施を通じて協力を行った。

・個人懇談、参観日の開催
　個人懇談年 2 回、参観日年 2 回開催した。

・保育説明会を通じた保育内容の理解
　保育説明会を実施した。昨年度同様な参加であったが、少しずつ機会を通じて保育の情報を発信していかなければならない。27 年度も継続して実施していく。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	77 件
意見・苦情	未対応０件	18 件
事故	発生０件	22 件

上記を受けての具体的改善活動

各事例について、職員会議で共通理解を深めながら、改善を進めていった。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・地域における子育て支援活動の実施（事業部で関わる）
　・水島地区“おやこっこ”への参加
　・“育メンひろば”の開催
・会貢献活動（事業部で関わる）
・水島港まつりへの参加
・エコキャップの収集を行った。（年間を通して実施）
・地域の清掃活動の実施

7. 事業所研修計画

（1）. 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
OJT・目標管理活動	年間	全職員	各目標に基づいて実践することができた。
保育内容理解	年間	全職員	小ざくら保育園の保育内容を共通理解ができた。
リスクマネジメント研修	年１回	全職員	職員会議で、リスクマネジメントの理解を深めた
第三者評価	６・７・８月	全職員	第三者評価の理解と準備し、受審することができた。

8. 防災・安全・衛生活動

・避難訓練の実施（毎月１回）
　防災について、水島消防署より指導を受ける
・安全・事業所内の安全点検
・不審者対応訓練
・園児への交通安全指導、保護者への送迎時の交通マナー

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・平成 26 年 10 月～3 月
大規模修繕（外壁塗装、屋上防水工事・フローリング張替え・中庭・玄関舗装・１Ｆデッキ）
修繕計画より、排水経路の修繕や子どもの動線の再検討に伴い、改善工事に費用が必要であった。
園舎の老朽化が進んでおり、補修が必要な部分が増えた。
結果として、園舎環境や入口からの動線が整理され、使いやすくなった。

10.その他特記事項

・認可保育所の廃止及び幼保連携型認定こども園の認可の取得

11.総括及び次年度の課題

・事業部全体での取り組みとして、研修の機会や子育て支援のイベント等の取り組みが定着してきました。事業部内専門研修の実施や交流の機会で事業部内の連携が高まっている。
次年度は新制度移行に伴い、新たな仕組みのもと、保育内容の一貫性や園同士の連携体制などまだまだ課題である。気になる子の支援も課題であるが、集団の中での保育体制をしっかり構築し、普遍的な子どもの姿、職員の育成を通じて保育環境を整え、専門機関との連携及びファシリテーションの体制を構築していくことが課題である。連携体制の構築には段階的に人の交流や相互理解を進めていく必要がある。第三者評価の課題は、重点化と見える化、共通の目標にむけて進むことができる園体制を構築していくことである。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：小ざくら乳児保育園】【事業所責任者:　山本己晴　】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

重点目標	目標（値）	施策及び結果
あいさつでつなぐ子育て支援の充実	地域・関係機関との協働	年間計画に基づき、他事業所での体験をすることにより他事業所の業務内容やそのサービスを利用する利用者への関心はもて、事業所間の連携の重要さは現場の職員も理解できてきている。
	こども園の移行に向けた乳児から就学前までの保育の構築	定期的なＰＪの開催、三法人研修（ベンチマーク含む）等によりこども園移行を意識して保育内容の検討を行った。まだ、不十分な点もあるので、次年度も引き続きの取組みを行う。
	継続的改善の実施	９月にＮＰＯ法人メイアイヘルプユーによる第三者評価を受審した。評価結果より課題の改善や今後の改善計画も含め、27 年３月に報告会を行った。課題や今後の改善に向けて行っていくことが職員間で再認識、共有することができた。
職員間コミュニケーションを通した人財育成	職員の役割に応じた知識と技能の向上	年間計画に基づいた階層別研修、事業部の専門研修、外部研修、公開保育、事業所内研修の実施と参加によって学び、役割に応じて必要な知識や技能は何なのかに気づくことはできてきている。 学びによって気づいたことを職員一人ひとりが目標や行動指針として描き、意欲的に実践することにより変わることにつながることが今後の課題である。
地域貢献・連携	地域における子育て支援活動の充実	地域の子育て支援のイベントへの参加や開催を行った。

	社会貢献活動の充実	地域の行事へ参加した。生活困窮者の支援については、具体策の検討や実施に至らなかった。まずは事業所間で連携しながら情報収集を行い、実施へとつながるようにしていく。

（説明）

・事業部で役割分担、日程の調整を行い、協力し合って計画に沿って取り組んでいった。そうした機会を通しての事業所間のコミュニケーションや職員間の交流、他事業所の理解にもつながっている。そうした中で、学び気づいたことを目標や行動指針として、意識して意欲的に実践していくことが今後の課題である。第三者評価の受審（自己点検・自己評価含む）を通して職員一人ひとりはもちろん、自園の良い点、問題点、改善点に気づき共通認識できた。チームや事業所全体で取り組んでいくことの大切さや自園の中だけでなく、子育て支援という視点をもちながら自分達ができることを考え取り組んでいくことが必要であるという意識づけにもつながった。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
継続的改善の実施	・９月にＮＰＯ法人メイアイヘルプユーによる第三者評価を受審した。評価結果により課題の改善や今後の改善計画も含め、27 年３月に報告会を行った。 課題や今後の改善に向けて行っていくことが職員間で再認識、共有することができ、意識して実施していくように努めた。
職員の育成	・事業部で年間計画に基づいた専門研修を実施し、事業部全体で保育の専門職としてのスキルの向上に努めた。 知識とともに実技指導も含めた研修により、保育の基礎となる事柄の共有ができた。

（説明）

・第三者評価受審による保育サービスの質の向上、職員の育成については、事業部全体で話し合いや役割分担を行い、協力し合って取り組んでいった。
いずれも事業所独自の問題ではなく、事業部全体で取り組んでいく必要のある事柄なので、引き続き話し合いや必要に応じた役割分担を行い、協力し合って取り組んでいくようにする。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		開所日		計画			実績		
	定　員	現　員	計画	実績	0歳児	1歳児	合計	0歳児	1歳児	合計
4月	23	23	25	25	22	62	84	23	63	87
5月	24	25	24	24	24	62	86	24	63	88
6月	23	26	25	25	25	63	88	23	63	94
7月	25	26	26	26	27	63	90	28	63	96
8月	24	25	26	26	30	63	93	30	62	99
9月	25	25	24	24	32	63	95	33	61	100
10月	27	27	27	27	35	64	99	39	61	103
11月	29	29	23	23	38	64	102	43	62	105
12月	28	29	23	23	40	64	104	43	61	107
1月	29	29	23	23	43	64	107	46	61	107
2月	30	30	23	23	46	64	110	48	60	112
3月	31	31	25	25	48	64	112	52	60	113
合計	318	325	294	294	410	760	1170	432	738	1170

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

母親出産・育児休暇や転居等で退所する園児（1歳児）も見られたが、0歳児の受入れを随時行い、全体的には計画通り推移した。

職員については、嘱託職員の勤務時間を延長したり派遣職員の確保を随時行ったりして配置することができた。

又、3月より看護師の配置も行い利用者や保護者にとっても安心できる環境となった。

＊同一敷地内に看護師はいたが、乳児に常駐ではなかったため。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
入園式 平成 25 年度途中入園 平成 26 年度新規入園	４月３日	25 年度途中入園児及び 26 年度新入園児の入園式	小ざくらの取り組みを理解してもらう
花祭り	５月８日	花見堂を飾りお参りする	お釈迦様の誕生をお祝いする
七夕会 保護者参加人数　36 名	７月７日	由来を聞き、催しを楽しむ	伝承行事に親しむ
お月見会 保護者参加人数　23 名	９月８日	由来を聞き、催しを楽しむ	伝承行事に親しむ
運動会	１０月 19 日	親子で参加	親子で体を動かすことを楽しむ
クリスマス会 保護者参加人数　55 名	12 月 24 日	由来を聞き、催しを楽しむ	伝承行事に親しむ
もちつき	１月９日	もちつきの様子を見る	日本古来の伝承行事に親しむ
節分会 保護者参加人数　41 名	２月３日	由来を聞き、催しを楽しむ	伝承行事に親しむ
ひなまつり会 保護者参加人数　46 名	３月３日	由来を聞き、催しを楽しむ	伝承行事に親しむ
参観日	５月 17 日 ９月　６日 ２月 14 日	親子で遊んでもらったり、日頃の園の様子をみてもらったりする	園の取り組みを理解してもらう
誕生会	毎月	誕生児のお祝いをする	成長を皆でお祝いする

4. 保護者（家族）との交流事業

〇保護者会交通安全、環境整備の実施

・保護者会役員さんを中心に降園時の車のマナーについて啓蒙活動や環境整備を実施。

〇伝承行事の実施

・七夕、お月見、クリスマス、節分、ひな祭りの行事を実施。

〇子育てサロンの実施

・食育活動をテーマにして、管理栄養士や保育士が日頃の様子や取り組みについて園と保護者が情報交換できるようにした。

・絵本の読み聞かせ会、スクラップブッキングを外部の講師を招いて行った。

〇個人懇談の実施

・年１回（1 月）行い、保育園での生活や遊びの様子を伝え、家庭での様子を教えてもらい情報交換の場とした。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	310件　＊その内潜在件数　68 件 今年度は、つまずいて転ぶ、転んで打撲といった件数が目立った。
意見・苦情	未対応0件	8 件 個別に対応を行った。
事故	発生0件	10件 転倒による顔の傷、与薬間違いにより受診を行った。

上記を受けての具体的改善活動

・ヒヤリはっと　をしっかり出すことで職員の気づきが（潜在的ヒヤリ）高まってきているが、ヒューマンエラーも多い為、互いに声掛けや確認を行うようにした。
・意見、苦情、要望、事故については対応済み。又、その都度職員と情報共有し、周知した。

6. 地域との交流事業

① 地域における子育て支援活動の実施（事業部で関わる）
・“育メンひろば”の開催
・水島地区“おやこっこ”への参加

② 社会貢献活動（事業部で関わる）
・水島港祭りへの参加（和太鼓・夢ｋｏｉ・警備ボランティア）
・エコキャップの収集・・・　うっふっふ本舗が毎月回収
・地域清掃活動・・・毎月１回

③ ボランティアの受入れ（7、８月　中学生・高校生・短大生）

7. 事業所研修計画

(1).事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
・育児マニュアル、要領書、ＯＪＴ、日案、プラン書、報連相、連絡帳、わらべうた、絵本、リスク、日頃の問題点など	４・５・６ ７・８・ １１・１	新人職員	・知識の習得と情報共有の場となり、わからないことや確認したいことなど積極的に意見交換することができた。
・キャップ不在時の対応、保護者対応、報連相など	４・８・１２	中堅職員	・自分の役割を理解し、積極的に取り組みしっかり発言も出来るようになった。
・チームワーク、報連相、クラスの問題点など	５・９・１	嘱託職員	・互いの状況を共有することで、励みになり意欲につながる良い効果がでていた。
・下位者指導、報連相、クラスの問題点など	４・７・９ １１・１	キャップ	・情報の共有、確認の場となり改善に向けて意見交換が活発にできていた。

8. 防災・安全・衛生活動

〇防災　・避難訓練の実施（毎月１回）
　　・消火器模擬訓練、避難誘導訓練の実施
〇安全　・事業所内外の安全点検
　　・不審者対応訓練
　　・保護者への送迎時の交通マナーの啓蒙・車両管理の注意喚起
〇衛生　・環境衛生（害虫駆除、樹木の消毒）の実施
　　・事業所内の消毒、玩具消毒の実施の徹底
　　・感染予防（園児への手洗い・消毒指導)、感染症に対する情報提供

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・平成 26 年１０月～２月　大規模修繕（外壁塗装、屋上防水工事）

10.その他特記事項

・なし

11.総括及び次年度の課題

・小ざくらの保育についての保育内容の検討や事業部での専門研修の実施、第三者評価の受審、前年度と同様に地域の子育て支援イベントへの参加、開催など、事業部全体で取り組むことが定着し、コミュニケーションや交流の場が増えた。　又、そうした中で、各事業所が協力し合い、役割分担や日程調整を行いながら概ね計画を達成することができた。
次年度は、発達支援グループとの繋がりも強化し、より子どもや保護者の気持ちに寄り添った支援ができるように事業グループとして取り組みを行っていきたい。
小ざくらの保育についての内容の検討は、不十分な点もあり次年度も引き続き取り組んでいきたい。
職員の育成については、様々な課題を解決していく為にはどうすればよいかを考えられる職員集団となれるようにしっかりと意見交換しながら取り組んでいきたい。又、第三者評価の課題等含めて各種マニュアルの再整備を行い、職員への浸透を図り、保育の質の向上に努めていきたい。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：小ざくら夜間保育園】【事業所責任者:　中谷　成美　】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

重点目標	目標（値）	施策及び結果
あいさつでつなぐ子育て支援の充実	地域・関係機関との協働	年間計画に基づき、他事業所での体験をすることにより他事業所の業務内容やそのサービスを利用する利用者への関心はもて、事業所間の連携の重要さは現場の職員も理解できてきている。
	こども園の移行に向けた乳児から就学前までの保育の構築	定期的なＰＪの開催、三法人研修（ベンチマーク含む）等によりこども園移行を意識して保育内容の検討を行った。まだ、不十分な点もあるので、次年度も引き続きの取組みを行う。
	継続的改善の実施	８月にＮＰＯ法人メイアイヘルプユーによる第三者評価を受審した。評価結果より課題の改善や今後の改善計画も含め、27 年３月に報告会を行った。課題や今後の改善に向けて行っていくことが職員間で再認識、共有することができた。
職員間コミュニケーションを通した人財育成	職員の役割に応じた知識と技能の向上	年間計画に基づいた階層別研修、事業部の専門研修、外部研修、公開保育、事業所内研修の実施と参加によって学び、役割に応じて必要な知識や技能は何なのかに気づくことはできてきている。 学びによって気づいたことを職員一人ひとりが目標や行動指針として描き、意欲的に実践することにより変わることにつながることが今後の課題である。
地域貢献・連携	地域における子育て支援活動の充実	地域の子育て支援のイベントへの参加や開催を行った。

	社会貢献活動の充実	地域の行事へ参加した。生活困窮者の支援については、具体策の検討や実施に至らなかった。まずは事業所間で連携しながら情報収集を行い、実施へとつながるようにしていく。

（説明）

事業部で役割分担、日程の調整を行い、協力し合って計画に沿って取り組んでいった。そうした機会を通しての事業所間のコミュニケーションや職員間の交流が小規模事業所である自園の職員にとっては引き続きよい刺激になっている。そうした中で、学び気づいたことを目標や行動指針として意識して意欲的に実践していくことが今後の課題である。第三者評価の受審（自己点検・自己評価含む）を通して職員一人ひとりはもちろん、自園の良い点、問題点、改善点に気づき共通認識でき、チームや事業所全体で取り組んでいくことの大切さや意識につながった。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
継続的改善の実施	8 月にＮＰＯ法人メイアイヘルプユーによる第三者評価を受審した。評価結果より課題の改善や今後の改善計画も含め、27 年３月に報告会を行った。課題や今後の改善に向けて行っていくことが職員間で再認識、共有することができ、意識して実施していくように努めた。
職員の育成	事業部で年間計画に基づいた専門研修を実施し、事業部全体で保育の専門職としてのスキルの向上に努めた。知識とともに実技指導も含めた研修により、保育の基礎となる事柄の共有ができた。

（説明）

第三者評価受審による保育サービスの質の向上、職員の育成については、事業部全体で話し合いや役割分担を行い、協力し合って取り組んでいった。※詳細は上記の表参照。

いずれも事業所独自の問題ではなく、事業部全体で取り組んでいく必要のある事柄なので、引き続き話し合いや必要に応じた役割分担を行い、協力し合って取り組んでいくようにする。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計　画					実績				
	配置基準	現員	０歳	１・２歳	３歳	４歳上	合計	０歳	１・２歳	３歳	４歳上	合計
４月	8	9	1	14	7	7	29	1	13	7	7	28
５月	8	9	2	14	7	7	30	1	13	7	7	28
６月	8	9	3	14	7	7	31	1	13	7	7	28
７月	8	9	3	14	7	7	31	2	13	8	7	30
８月	8	9	4	14	7	7	32	3	14	9	7	33
９月	8	9	4	14	7	7	32	4	14	8	7	33
10月	8	9	5	14	7	7	33	4	14	8	7	33
11月	8	9	5	14	7	7	33	4	14	8	7	33
12月	8	9	5	14	7	7	33	4	15	8	7	34
１月	8	9	6	14	7	7	34	4	15	8	7	34
２月	8	9	6	14	7	7	34	4	15	8	7	34
３月	9	9	6	14	7	7	34	6	16	8	7	37
合計	97	108	50	168	84	84	386	38	169	94	84	385

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

０歳児の入所が当初の予定の 75%となったが、利用人数合計では概ね、計画通り。

職員については、年度途中で正規職員が家庭の都合、体調不良により２名退職したが、嘱託職員の勤務調整や嘱託職員（派遣含む）の採用により業務に支障をきたすことはなかった。

3. 行事報告　及び　4.保護者（家族）との交流事業

行事名	実施月	内容	結果
入園式	４月	25 年度途中入園児及び 26 年度新入園児の入園式	１名の園児、保護者が参加。
親子遠足	５月・10 月	５月は「灘崎町総合公園」「岡山市サウスビレッジ」、10 月は「福山市立動物園」へ出かけて一緒に遊んだ。	子ども、職員と保護者、保護者同士の交流がもてた。
花祭り	５月	花御堂を飾りお参りする	楽しい雰囲気の中でお釈迦様の誕生をお祝いできた。
参観日	５・９・３月 ＊９ 月参観週間	親子で遊んでもらいながら日頃の園での様子をみてもらった。	園での子どもの様子や活動を理解してもらうことにつながった。
懇談会	５・３月	園の取り組みや担任の保育に対する思い、子どもたちの園での様子を伝えた。	園と保護者との情報交換ができた。意見・要望を伺うことができた。
七夕会	７月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。
親子キャンプ	７月	自然の中で遊んだり食事を作って食べたりした。	子ども、職員と保護者、保護者同士（卒園児やその保護者）の交流がもてた。
港祭り見学	８月	※雨天の為、見学中止	
お月見会	９月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。
運動会	10 月	親子で参加。	親子で体を動かすことを楽しむことができた。
クリスマス会	12 月	クリスマスに関する話や催しを楽しんだりした。	季節ならではの行事に楽しく参加することができた。
もちつき	１月	もちつきの様子を見たり、ついたりした。	伝承行事に親しむことができた。
節分会	２月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。
ひな祭り会	３月	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。	伝承行事に親しむことができた。
親子クッキング（試食会含む） ＊パンダ組対象	2～5 歳児 年に２回ずつ	親子でクッキングを行い、一緒に作ったものを食べた。	親子で楽しみながら、食への興味や食の大切さを理解してもらうことにつながった。

試食会 ＊ひよこ組対象	８・２月 誕生月	園での食事・食事の様子・食育の取り組みなどを伝えた。	園と保護者の情報交換や保護者に食の大切さを理解してもらうことにつながった。

〇保護者会と一緒に交通安全バッドマナー追放運動や秋祭りを行った。
〇個人懇談を行った。
〇日曜、祝日開催の親子参加の園外保育行事に卒園児やその保護者を招き（春の遠足、７月親子キャンプなど)、交流をもった。

5.「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	77 件 年齢発達上の噛み付きや転倒など、職員間で情報の共有をしながら環境面の整備や保育者の配慮など、改善につなげていった。
意見・苦情	未対応０件	13 件 個別に対応（説明）したり、手順や方法を見直したり、ハード面については必要な整備（工事）を行うなどした。10・11 月と大規模修繕、駐車場工事などに伴うものが５件と多く寄せられた
事故	発生０件	６件 ・保育室のソファーから飛び降り、唇を切り受診。（下唇を１針ぬった） ・トイレの着脱椅子から跳び、便器に頭をぶつけた。 ・連絡帳の渡し間違い ・薬に関するミス３件（飲ませ忘れ・渡し忘れ）

6. 地域との交流事業

①地域における子育て支援活動の実施（事業部で関わる）
・水島地区“おやこっこ”への参加
・“育メンひろば”の開催
②社会貢献活動（事業部で関わる）
・水島港まつりへの参加（警備ボランティアで参加）
・エコキャップの収集を行った。（年間を通して実施）
・地域の清掃活動の実施
③ボランティアの受け入れ（８月：高校生２名、３月：高校生１名）

7. 事業所研修計画

(1).事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
子どもの発達と生活、遊びの援助と環境構成	毎月	正規職員全員	年齢に応じた生活援助と遊びの提供について学ぶ中で職員間のコミュニケーションが深まり、子どもの姿や必要な援助について共有することができた。
遊びの実技研修 ふれあい遊び 制作（季節の物）	年３回 ６・11・２月	正規職員全員	年齢に応じた遊びの提供方法を具体的に学び、保育の中で活かせた。
ＫＹＴ（危険予知） 環境と保育援助	毎月	正規職員全員	日常の保育での気付きの視点を学び、保育環境の整備に活かすことができた。

8. 防災・安全・衛生活動

〇防災・避難訓練の実施（毎月１回）
・消火器模擬訓練、避難誘導訓練（2 次避難訓練含む）の実施
〇安全・事業所内外の安全点検
不審者対応訓練
園児への交通安全指導、保護者への送迎時の交通マナーの啓蒙・車両管理の注意喚起
〇衛生：環境衛生（害虫駆除、樹木の消毒）の実施
事業所内の消毒、玩具消毒の実施の徹底
感染予防（園児への手洗い・消毒指導)、感染症に対する情報提供

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・平成 26 年 10 月～12 月　大規模修繕（外壁塗装、屋上防水工事）
・平成 26 年 11 月～27 年３月　　駐車場整備工事（ひろばにじいろ新築工事）
・平成 26 年８月耐震診断実施、問題なしとの結果が出た。（27 年２月）

10.その他特記事項

・なし

11.総括及び次年度の課題

・小ざくらの保育についての保育内容の検討や事業部での専門研修の実施、第三者評価の受審、また、前年度と同様に地域の子育て支援イベントへの参加、開催など、事業部全体で取り組むことが定着し、コミュニケーションや交流の機会が増えた。又、そうした中で、各事業所が協力し合い、役割分担や日程の調整を行いながら概ねスケジュールに沿って計画を達成することができた。

次年度は、発達支援事業部とのつながりも強化し、より子どもや保護者の気持ちに寄り添った支援ができるように事業部として取組みを行っていきたい。

小ざくらの保育についての保育内容の検討については、まだ不十分な点もあるので、次年度も引き続き取り組んでいくようにする。

職員の育成については、基本をしっかりとおさえながら丁寧な指導を行い、学んで気づいたことが業務の中で実践できるようにしていくことが課題である。また、嘱託職員についてもOJT を基本とした指導を業務の中でより意識して行っていくようにし、知識と技能の向上につながるようにしたい。第三者評価を受けての継続的改善として、各種マニュアルの再整備と職員への浸透を図り、保育の質の向上を図ることにも努めたい。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：小ざくら地域子育て支援センター】【事業所責任者:岡本初江】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

重点目標	目標（値）	施策及び結果
あいさつでつなぐ子育て支援の充実	地域・関係機関との協働	事業所体験は計画通り実施され、互いの事業を知る機会となり、互いの事業の理解と連携へとつながっている。 水島地区の産科への定期訪問にて、子育て拠点の紹介や手遊び・わらべ歌などのふれあい遊びを紹介し、産む前からの子育て支援につなげている。
	こども園への移行に向けた乳児から就学までの保育の構築	小ざくらの保育を軸とし、こども園で求められる役割について定期的に協議を重ねてきた。子ども・子育て新制度の概要や役割の違いを学ぶことはできたが、保育・教育内容については、今後更なる具現化と実践が求められる。また、三法人研修を通して、リトミックといった手段をもちいた保育士と子どもとのかかわりについて学ぶことができた。 新制度移行に伴う子育て拠点のあり方について倉敷市と協議を重ね、27 年度からは子ども園と子育て拠点事業（センター）の２拠点での実施・運用が認められ、ひろばにじいろを拠点に新たなる地域支援の展開を期待されることとなった。
	継続的改善	８月に第三者評価を受審するとともに、年度末には各々の事業ごとに自己点検、ならびに利用者アンケートを行う中で課題を認識し、マニュアルや手順書の変更を図った。
職員間コミュニケーションを通じた人財育成	職員の役割に応じた知識とスキルの向上	階層別研修・事業部専門研修・事業所内研修・外部研修は計画通り実施し、各々の役割に気づき、実践へとつながってきている。 ＯＪＴ・目標管理活動を通し、自己課題への取り組みやパート職員を含む全職員のＳＤＳ（自己啓発活動）への取り組みを行うことで、職員一人ひとりの知識・技能の向上を図った。

地域貢献・連携	地域における子育て支援活動の充実	水島キッズ・育メンひろばは子育て事業部の地域貢献活動として計画通り実施し、保育園がもつ子育て機能を地域に還元することができた。
	社会貢献活動の充実	和太鼓演奏、夢 koikoi の踊りにも参加し、地域活性化の取り組みにもつながった 水島中学校区を意識した水島モデルの子育て支援を考える場として、保健師・地域の子育てキーパーソンとともにピーポーカフェを立ち上げ、毎月１回の会議をもって、地域住民による子育て支援について検討してきた。結果、中学校区のシニア世代、あるいは子育て中のママたちが仲間に加わり、新たなるボランティア活動へとつながりつつある。 地域の生活困窮者情報もこの場で情報共有を図った。
	総合相談センター（ワンストップ化）の取り組みの土台作り	福祉の相談センター会議で情報の共有を図ったり、事例検討会に参加したりすることで、相談のスキルをあげることを図ったが、総合相談としての成果は見えにくかった。 フリーダイヤルを設置することで、どのような相談があり、どのように対応していくべきかを学ぶ機会につながってはいるが、今後の課題でもある。

（説明）

事業部共通で取り組む課題においては、役割分担、スケジュール化をし、計画的に進めていくことで、ほぼ計画どおりに実施することができた。

今年度は第三者評価受審と新制度への移行の準備期として話し合いをもつことも多く、これからの保育・教育、あるいは地域の子育て支援について互いが学びあう機会となった。このことを更なる小ざくらの保育へとつなげていきたい。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
第三者評価受審	小ざくら保育園と一緒に受審した為、センターとしての結果は見えにくさがあったものの、職員は改めて保育を見直す機会となった。今後は、保育園職員と一体的に地域の子育て支援を行っていくことが課題である。
リーダーとなる人材の育成	階層別研修への参加や事業部専門研修、現場でのＯＪＴ／目標管理活動を通して、個々の職務や役割が実現できるようサポートするとともに保育の専門職としてのスキルの向上に努めた。前向きな姿勢もあり、成長を感じることができた。

（説明）

どの項目も、計画的に進めていくことができ、取り組みの成果を感じることができた。その中で見えてきた課題を次年度計画へと反映させている。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

	職員配置		利用者状況							
	配置定員 正臨（パ）	現員	一時保育		休日保育		訪問事業		センター開放	
			計画数	実績数	計画数	実績数	計画数	実績数	計画数	実績数
4 月	5＋（3.5）	5＋（2.5）	340	364	25	27	10	27	120	239
5 月	5＋（3.5）	5＋（2.5）	350	385	30	47	10	17	120	254
6 月	5＋（3.5）	4＋(3.5)	350	415	20	34	10	29	200	297
7 月	5＋（3.5）	4＋(4.5)	380	431	30	31	10	40	180	266
8 月	5＋（3.5）	4＋(4.5)	380	400	20	25	10	15	180	234
9 月	5＋（3.5）	4＋(4.5)	380	435	35	41	10	30	180	268
10 月	5＋（3.5）	4＋(5.5)	400	467	30	19	10	27	180	282
11 月	5＋（3.5）	4＋(5.5)	380	413	40	41	10	28	160	282
12 月	5＋（3.5）	4＋(4.5)	380	430	30	35	10	30	100	325
1 月	5＋（3.5）	3＋(4.5)	350	389	30	21	10	23	90	237
2 月	5＋（3.5）	3＋(4.5)	350	460	30	31	10	30	80	346
3 月	5＋（3.5）	3＋(4.5)	400	431	30	26	10	31	100	351
合計	60＋（42）	47＋（51）	4,440	5,060	350	378	120	327	1,690	3,381

※　センター開所日数は、360 日(冬季休業日以外は開所)

※　職員は常勤換算とする

（説明）

利用に関しては、各事業とも計画より実績が上回る状況であった。

一時・特定保育に関しては、保護者の就労で使われるかたが大半であり、ついでリフレッシュの方が多い。また、0 歳児の利用希望が多く、年々預かり保育へのニーズが高まっているように感じる。また、訪問事業では産じょく期以降も子育てヘルパーとして利用される方が多く、母親の支援を必要とするケースが数件あった。

3. 行事報告

行事名	実施日	内　容	結　果
運動会	10 月 14 日	保育園行事への参加	47 組の地域の親子が参加
親子遠足	10 月 27 日	玉島溜川公園への親子遠足	13 組の地域の親子が参加
個人懇談	2 月 1 日～ 3 月 7 日	一時保育利用者への相談支援	37 世帯の一時・特定保育利用者が参加

※季節行事・伝承行事（花まつり・七夕・お月見・クリスマス・もちつき・節分・ひなまつり）
：一時保育利用者、地域の親子が年間 157 名参加

※保育参観週間、及び試食会（6 月・1 月）：一時保育利用の保護者を対象とした保育参加形式

※誕生日会（毎月第 2 水曜日）：一時保育利用者、地域の親子の参加

4. 保護者（家族）との交流事業

支援事業	内容	開催回数	延べ参加人数
すこやかサロン（親子教室）	“ベビーズＤＡＹ”	10	192 人
	“マザーズＤＡＹ”	8	142 人
パパやママのおしゃべりサロン	ハンドメイドの会 （離乳食・お弁当作り）	2	43 人
	プレパパ&ママ	1	4 人
	パクパクランチの会（試食会）	6	73 人
ボランティア関係	子育てボランティア養成講座(合同開催)	5	65 人
	ボランティア交流会	2	26 人
	花もめんの会・・・毎月２回	19	79 人
	一時保育・託児ボランティア受入れ	随　時	296 人
育児相談	面接相談（訪問相談を含む）	755 件	1029 件
	電話・メール相談	15 件	27 件
ふれあいひろば	ふれあいひろば（園開放）・・月～土曜日	1622 世帯	3281 人
	おさんぽひろば・・・第４月曜日	10	195 人
	育メンひろば	1	68 人
	出前講座＋ママパワサロン	19	397 人
市事業への共催	みずしまキッズ	1	165 人
	チラシ配布	毎月	20600 枚
	親子クラブ・子育てサロン	８ヶ所	203 人
ふれあい子育て支援サービス	産じょく期ヘルパー	20 世帯	112 回
	派遣型一時保育ヘルパー	２世帯	２回
	子育てヘルパー	17 世帯	214 回

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	噛みつき・事務処理ミス・鍵の閉め忘れ・軽微なケガ子どものすり抜け・預かり品の返却ミス・潜在ヒヤリなど：計 29 件
意見・苦情	未対応０件	預かり品の返却ミス・予約ミス・表記ミス・ドアの開閉・保育の状況確認など：18 件
事故	発生０件	けが・予約ミスなど：３件

上記を受けての具体的改善活動

今年度発生件数としては軽微なものが多かった。噛み付きは年齢発達の特性上、あるいは特定な子どもであるため防ぎようのないものもあるが、環境面への配慮や保育者同士の情報の共有に努めた。また、物の入れ間違いや返却ミスなど“つい、うっかり”といったヒューマンエラーが発生しているため、職員間の声掛けや手順書をしっかり確認するなど基本に立ち返り、業務を行っていくことの大切さを確認しあった。
リスク管理においては、以前から継続的に進めてきているので取り立て大きな変化はないが、改めてシートの活用やリスク研修を通して、気づきの大切さや改善事項の周知徹底の大切さを職員同士で確認しあった。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

☆毎月第１月曜日：園舎周辺の清掃活動
☆8 月：地域活性化を目的とする水島港祭り“夢 koikoi”に参加
☆11/10：子育て支援イベント「みずしまキッズ」を開催・・・・165 名の親子の参加
　　子育て事業部各事業所より１名ずつの職員が参加し、レクレーション大会を開催
☆9/27：倉敷市主催「育メンひろば」の開催・・・・26 組 68 人の参加
　　栄養改善・愛育委員・子育てボラ・助産師・保健師・子育て事業部の協働開催
☆エコ・キャップの回収

7. 事業所研修計画

① 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
実践発表への取り組み	５・２月	全職員	一時保育利用者のニーズを把握し、大切にしたい保育感を探ることができた
小ざくらの保育について	12 月	一時（特定）保育担当職員	外部講師による勉強会を通じ、保育環境について学んだ
施設見学・研修	年１回ずつ	正規・嘱託Ａ：一般職	乳児の業務を学ぶことができた（1 名参加）
実技研修	5・6・8・9・10・12・1・ 2・3 月	全職員	わらべうた・おすすめ玩具 親子への接し方 コミュニケーション術 相談対応と記録の書き方 衛生管理

実践発表への取り組み	５・２月	全職員	一時保育利用者のニーズを把握し、大切にしたい保育感を探ることができた

8. 防災安全衛生活動

防災活動	・防災訓練計画に基づき、避難訓練を毎月１回実施 消火器模擬訓練・避難誘導訓練・２次避難訓練などを行う ・不審者対応研修への参加
安全活動	・毎月の職員会議にて、ヒヤリはっと・事故・苦情の報告を行い、全職員に周知、改善検討を実施 ・安全点検表に基づき，定期的な安全点検、及び修理を実施（安全点検表見直し） ・車両安全運転管理･運行記録の管理を実施(毎月１回)
衛生活動	・O-26、157 のチェック表に基づき、衛生管理を実施 ・ダスキンによる害虫駆除を年２回実施 ・幼児安全法・感染症・衛生研修に参加 ・保護者や地域の子育て家庭に感染症予防の情報提供を行う

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

センター保育室のクロス張替え

10.　その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

事業計画に基づき、概ね計画どおり達成することができた。
今年度は、時代の変化とともに変化している預かり保育への保護者の期待感について、実践発表で取り組んだ。保護者は情緒が安定し、楽しんで一時保育の場を過ごしてほしいと思っており、多くの保護者がおおむね満足して利用してくださっていることがわかった。
また、地域を巻き込んだ子育て支援を考える機会としての活動をスタートさせ、今まで以上に地域住民と顔の見える関係ができるようになり、今後の地域支援活動へとつながりつつあることは大きな成果だと感じる。子ども・子育て新制度への移行に基づき、拠点事業の役割がより強化になったり、待機児童対策などで預かり保育への影響も懸念されるが、利用者のニーズをしっかり把握し、親子に必要なサービスを提供したり、地域の関係機関と連携しながら、それぞれの親子によりよい支援ができるよう計画の立案と実施を図っていきたい。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：　倉敷市鶴心寮　　】【事業所責任者:　小野　加奈恵　　】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
地域・関係機関との協働	子ども相談センター、福祉事務所他との連携を深めた。児家センとの連携を深めるため連携会議を毎月実施、事例検討などを行った。倉敷市生活自立相談センター（生活困窮者対象）との協働も行った。
支援体制の確立	マニュアルの整備については、見直しについてのルールを作成、一部見直し、新規作成などを行った。支援プログラムは職員の異動等のため未実施。
第三者評価の受診・継続的改善	第三者評価を受審した。受審の結果、今後、取り組むべき課題が明らかになった（一部実施済み）。平成 27 年度に継続的に改善に取り組む。
職員の育成	職員が意見を出し合いながら、チームで仕事を進めてゆくことができるよう、風通しの良い組織作りを進めた。外部研修、専門研修への参加、児家センとの連携（事例検討、事業所内研修への参加）、西井先生のＳＶ研修会への参加などを行った。
地域における子育て支援活動、社会貢献活動の実施	「育メンひろば」、「水島キッズ」に参加した。 水島港まつりでは、踊りの練習は行ったが、当日は雨のため、まつりには参加できなかった。

（説明）

年度当初、大幅な職員の異動があったが、第三者評価を受審した結果、全職員が鶴心寮の役割、課題についての理解を深めることができた。改善の必要な事項については、取り組みを始めているものもある。マニュアルの見直し・新規作成、記録類の整備などについては一部のものについて取り組みを開始している。その他の課題については、平成 27 年度、継続的に改善に取り組む予定である。支援プログラムについては、担当者が退職したため実施できていない。

② 中期経営ビジョンに対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
継続的改善	第三者評価を受審した。
地域・関係機関との協働	連携会議及びケース共有により児家センとの連携を進めた。また、他事業所への施設体験を行った。
職員の役割に応じた知識とスキルの向上	外部研修、専門研修への参加、児家センとの連携（事例検討、事業所内研修への参加）、西井先生のＳＶ研修会への参加などを行った。

（説明）

①と重複しているため、省略する。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：世帯〕

月	職員数		計画と実績				
	定員	現員	開所日計画	開所日実績	利用世帯計画（単位：世帯）	利用世帯実績（単位：世帯）	利用世帯計画・実績比(%)
４月	8	8	30	30	4	5	125
５月	8	8	31	31	5	4	80
６月	8	8	30	30	5	5	100
７月	8	8	31	31	6	5	83．3
８月	8	7	31	31	5	4	80
９月	8	7	30	30	6	4	66．7
10月	8	7	31	31	6	4	66．7
11月	8	7	30	30	6	4	66．7
12月	8	7	31	31	7	6	85．7
１月	8	7	31	31	7	6	85．7

2月	8	7	28	28	6	6	100
3月	8	7	31	31	6	5	83．3
合計	96	88	365	365	69	58	84．1

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

・鶴心寮は 365 日間開所

・実績は各月１日付け在籍世帯数とする（本入所のみ）

・実績に反映させていない事業として、県・市緊急一時保護がある

＊（実施状況）　県：０世帯　　市：３世帯

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
親の会	毎月	連絡事項伝達、要望等の話し合いの場	延べ 52 人参加
子どもの会	毎月	連絡事項伝達、要望等の話し合いの場	延べ 12 人参加
誕生会	該当月	誕生日を祝う	母：５人、子：５人 金額：7,585 円
母の日・子どもの日	５月 11 日	マジックショーを楽しんだり、子から母へメッセージカードを贈ったりする	参加人数 11 名 ボランティア１名 金額：3,102 円
七夕会	７月６日	親子で七夕飾り作りや短冊を笹に飾る	参加人数 12 名 金額：4,000 円
由加山へ行こう	８月３日	倉敷少年自然の家にて思い出を作る	参加人数９名 金額：14,808 円
バーベキュー会	８月 31 日	利用者退所者ボランティアの方々とともにバーベキューを楽しむ	参加人数 17 名 (内訳：入10 名、退7 名、ボ3 名) 金額：13,742 円
寮の鉄人（食事会）	10月26日	職員が調理をし、利用者に提供する（利用者の方に審査をしてもらう）	参加人数７名 金額：9,369 円

クリスマス会	12月7日	出し物を楽しみ、鍋を囲んで和やかな場を過ごす	参加人数12名 金額：3,998円
餅つき・大掃除	12月23日	地元千歳楽保存会及び地域住民と餅つきを楽しむ 1 年の締めくくりとして施設及び施設周辺の掃除を行う	・餅つき 参加人数46名 (内訳：入14名、退6名、地20名) ボランティア6名 ・大掃除 参加人数14名 金額：10,141円
年越し会	12月31日	年末年始を寮内で過ごす世帯とともに料理を作り食卓を囲む	参加人数10名 金額：2,000円
節分会	2月8日	節分にちなんだ劇や豆まきを楽しむ	参加人数12名 金額：1,000円
ひなまつり会	3月1日	ひな祭りに因んだ食事で会食をし、美観地区散策(雛めぐり)を楽しむ	参加人数11名 金額：6,800円

4. 保護者（家族）との交流事業

母子生活支援施設という施設の特性から、家族を対象とした行事が多い。「母の日・子どもの日」、「節分会」、「ひなまつり会」等の主に職員が準備したものを楽しむものもあれば、「バーベキュー会」、「クリスマス会」、「年越し会」等の利用者と職員が一緒に準備をしたり作ったりすることによってできあがるまでの過程も楽しむ行事もある。このような行事の中で、親子、入所者同士、入所者や職員との親睦を深めることや、利用者が自分の特技を発揮したり、興味を持って活動に参加したりすることにより、利用者の自己肯定感を高めたり、主体性を養ったりすることを目的として実施した。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	６件
意見・苦情	未対応０件	８件
事故	発生０件	１件

上記を受けての具体的改善活動

「ヒヤリ・はっと」については、児童の遊びの中で起きたもの、網戸等の設置物の不備や倉庫内の整理整頓の不備によるもの、職員が児童を預かるときの配慮不足によるもなどであった。対策としては、児童については、遊びのとき、職員が見守りを行ったり、児童がルールを守ることができるよう意識を高めたりする取り組みを行った。設置物については、発見後直ちに修理・整備を行なった。「意見・苦情・要望」については、利用者からは、施設設備に関するものが５件、風呂の使用時間が重なったことについてのものが１件、近隣住民から１件（遊んでいるとき、入所している児童が、他児に暴力を振るった)、退所者から１件（旧職員による、個人情報の不適切な取扱いについて）あった。施設設備については修繕・更新・新規設置などを行い、改善をした。暴力の件については、近隣住民に対して謝罪するとともに、職員と母親と協力しながら入所児童への指導も行った。「事故」については、居室内で児童が高熱を出し痙攣発作を起こしたため、母親からの連絡を受け、救急車を要請、病院へ搬送、受診後帰寮した件であった。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

(ア)　地域貢献活動の実施

・地元町内の清掃活動の実施

年２回施設周辺の側溝及び道路の清掃を実施した。

(イ) 地域における子育て支援活動の実施

・水島キッズへの参加　⇒（結果）職員１名が参加した。

・育メンひろばの開催　⇒（結果）職員３名が参加した。

(ウ) 地域行事への参加

・水島港まつり（和太鼓・夢ｋｏｉ）　⇒（結果）踊りの練習をしたが、当日は雨のため参加できなかった。

(エ) 社会貢献活動への参加

・エコキャップ、ベルマークの収集　⇒（結果）寮内にて収集活動を行った。

7. 人材育成計画

① 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
入所の流れについて	６	武智、稲垣、森安、大西、小野、金本、河原	日常業務（入所の流れ）について振り返り及び留意点の確認を行なった
第三者評価について	7～3	武智、稲垣、森安、大西、小野、金本、河原	評価項目の内容の理解自己評価

8. 防災安全衛生活動

毎月１回災害訓練を実施した。実施内容は、火災や地震、台風等の災害だけでなく、施設の特性に応じた不審者対応、防災への意識向上を目的とした消防署立会い訓練及び防災センター見学も取り入れた。建物及び設備については、消防用設備及び非常通報装置等の保守点検を定期的に実施し、防犯対策として警備員による 19 時半～2 時までの巡回警備を毎日実施した。保健衛生では、入所者及び職員合同による普通救命講習（講師を消防署に依頼）を実施した。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・静養室エアコン更新、集会室テレビ１台設置、貸し出し用洗濯機１台、冷蔵庫１台購入
・給水管洗浄、排水管洗浄（一部）

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

今年度は、入所世帯数は昨年度よりも僅かに少なかったが、３月 31 日現在の入所世帯数は７世帯となり、今年度最多となっている。入所している各世帯が自立に向かうためには、それぞれ複数の課題があり、課題を解決するためには専門性の高い支援が必要とされる。しかし、年度当初は大幅な職員の異動があり、職員全員が施設に期待されているものや具体的な業務などについて、できるだけ早く理解を深めていくことが必要な状況であった。第三者評価の受審は、このような状況を克服するために大変有意義であった。

第三者評価受審の結果、鶴心寮の多くの課題が明らかになったので、一つ一つの課題に丁寧に取

り組んでいきたい。次年度の目標は、支援の質を高めること、地域ニーズの把握、入所世帯を増やすこと、地域に開かれた施設を目指すこと、アフターケアの充実などである。

　職員全員で取り組むことをモットーとし、職員全員で協議しながら、様々なことの判断をしていった１年間であった。今後も、このような姿勢を大切にした取り組みを行っていきたい。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：児童家庭支援センター】　【事業所責任者:北條　直子】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
地域・関係機関との協働	・要保護児童対策地域協議会への参加機会の増加 ・保健師、児相福祉司、子ども相談センター、などとケースを通じ、連携を深めた ・児相からの指導委託（3 件） ・全国里親大会への参加を通じ、里親との関係作りのきっかけが出来た ・児童館への出張相談（月 2 回）の実施 ・主任児童委員の連絡会に参加し顔の見える関係の構築
事業所間連携の強化	・鶴心寮とのケース検討会議の実施（月 1 回） ・鶴心寮の行事への参加をし、入寮者へも児家センを周知してもらい顔の見える関係作りの実施 ・事業所内研修を鶴心寮と共同で実施 ・きらり玉島親の会への講師派遣の実施
相談支援の質の向上	・鳥取子ども家庭支援センター所長　西井氏を迎えケースの SV を受ける会を実施（6 回） ・児童相談所福祉司よりケースの SV を受けた(6 回)
地域貢献活動の実施	生活困窮者支援として、生活困窮家庭の児童に対する支援を個別には実施しているが(学習支援やつながり支援など)プログラムや計画的な活動としての発信は出来なかった

（説明）

児童家庭支援センター開設 5 年目を迎え、1 名のスタッフ交替がありスタートした。

「地域・関係機関との協働」

また、相談経路についてであるが、前年度に比べると、相談を発信してくださる方については「家族」が最多であり、次に、地域の保健推進室の保健師からの相談が増加している。また、情

報入手経路を見ると、「市町村」や「保健師」から情報を得て家族が相談に来るパターンも増加しており、こうした数値から見ると、ケース等を通して協働したことのあるより身近な地域の関係機関の方々から児家センの再度の利用やニーズを発信していただき、再度協働をすることが出来始めているといえる。

「事業所間連携の強化」

今年度は、鶴心寮との協働をはかる機会を持つことが出来た。

鶴心寮スタッフの大幅な変化もあったが、それを機に協働の機会も増え、前年度に比べ関係性は活発となり、相談しあえる時間、機会ともに増えている。寮にいる間から児家センの存在を利用者に知っていただくための活動にも参加し、より身近に児家センがあることを退寮後も認識してもらい、退寮後の支援にスムーズにつなげられるよう努めた。

また、ケース検討の機会を持ち、直接支援のケアワーカーとケースワーカーとの視点の違いを話し合うことで、お互いの理解とより良い支援計画につなげることが少しずつ出来ている。

「相談支援の質の向上」

そうした中で今年度は同じ児童家庭支援センターの所長である鳥取子ども家庭支援センターの西井氏をお迎えし、実際のケース検討を SV していただく機会を持ったことで、スタッフの意識の向上、検討課題の整理等の児家センのワーカーとしてのケースワークのスキルが向上し、事業所内で相互に SV し合え、ケースを運ぶことが出来るようになっている。

また、関係機関とのケース会議においても、児家センに求められる専門性に基づいた助言をすることが出来ており、スタッフ自身が児家センの立場を理解した上での行動につながっている。

「地域貢献活動の実施」

児童虐待防止に向けたキャンペーンに地域の関係機関とともに参加した。

また、「生活困窮者支援」の活動については、個別ケースではそれぞれ行っているもの、システムやプラン立てた活動としては弱く、個別ニーズに応じることにとどまっている。来年度に向け、ニーズの分析と児家センで出来る生活困窮者支援（生活困窮家庭における児童の困難への支援と、生活困窮の再生産をしないための支援）について計画を立てたい。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
地域・関係機関と連携した子育て支援	児童相談所、子ども相談センター、市町村とのケースを通した協働関係が出来ている。特に市町村からの相談が増加している。
鶴心寮との連携	連携会議の実施（月 1 回）、ケース検討を通し風通しの良い関係作りが出来た。
継続的改善の実施	職員による業務に関する改善の提案、自己点検は月 1 回の職員会議での話し合いを重ね実施している。
職員の育成	法人内、法人外での研修の実施、及び外部講師による専門的研修の積み重ねにより、互いの知識を持っての相互 SV 関係に発展している

（説明）

地域・関係機関と連携した子育て支援について

要保護児童対策地域協議会の参加をはじめ、各機関においては、児家センの認知も徐々に高まっており、一度連携したことのある機関からの再度別ケースの相談も徐々に数を増やしている。ケースを通した連携、協働から広がるケースワークの例が増えており、今後もこの関係を良好に維持していく。

鶴心寮との連携について

上記にもあるように、毎月１回の連携会議のなかで、ケース検討を行った。

それぞれの専門職の視点の違いのなかでより多角的な視点からのケースワークにつなげることができており、お互いの研鑽にもつながっている。情報交換等の有効な機会と出来ている。

継続的改善の実施について

上記の通りである

職員の育成について

上記の通りである

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	4	4	25	25	65	69	1.1
５月	4	4	24	24	65	72	1.1
６月	4	4	25	25	65	72	1.1
７月	4	4	26	26	65	68	1.1
８月	4	4	22	22	65	75	1.2
９月	4	4	24	24	65	71	1.1
10月	4	4	25	25	65	79	1.2
11月	4	4	23	23	65	79	1.2
12月	4	4	23	23	65	79	1.2
１月	4	4	23	23	65	83	1.4
２月	4	4	23	23	65	80	1.2

３月	4	4	24	24	65	68	1.1
合計	4	4	292	292	780	895	1.1

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

数値横（）内は前年度実績

	相談の実人数　　（合計）	190　（151）
	電話相談件数	1421　（1330）
	来所相談件数	712　（625）
	訪問相談件数	674　（473）
	通所指導件数	59　（54）
	心理療法等の件数	103　（147）
	その他の相談(メール・手紙・その他の相談の合計)　　件数	20　（13）
	相談延べ件数　　（合計）	2,989　（2642）
	児相からの　　指導委託人数	3　（2）
	夜間対応の　　件数	85　（76）

相談件数については、実人数が 190 人、総相談数が 2989 件と過去最高の数値となっている。その内訳についても、「擁護（虐待）」、「性格行動」、「不登校」で７割を占め、中でも擁護（虐待）の割合が伸びている。

今年度は児童相談所からの指導委託件数が 2→3 件に増えた。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
児童虐待防止推進月間	11 月	倉敷市、岡山県の児童虐待防止推進月間活動への参加	福田公園、アリオ倉敷、児島にてキャンペーン活動に参加

4. 保護者（家族）との交流事業

〇きらり玉島にて

７月、10 月、２月

「子どもの発達と療育」「発達障がいについて」「福祉・教育サポートと理解と対応」

きらり玉島保護者との座談会形式での講師として交流

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	４件
意見・苦情	未対応０件	０件
事故	発生０件	１件

上記を受けての具体的改善活動

ヒヤリについて

相談事業のヒヤリとしては、「予定のダブルブッキング」が上がっている

毎日夕方に予定の確認をルーティンにする。特に休みや直帰の前は確認をする。コミュニケーションをこまめにとることで改善されている

事故について

児家セン駐車場外側の壁に自動車がぶつかり事故となる

法人にお願いをし、看板の設置をお願いした。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

〇市町村への支援として

個別ケース検討会議への参加（46 回）

「障がい児療育・教育研究会」へ参加（２回）

「要保護児童対策地域協議会」　代表者会、地区研修等へ参加（倉敷市１回、各地区２回）

水島地区主任児童委員研修への参加

すきっぷ教室への協力

水島港まつり

育メンひろば

みらいカフェ

〇普及啓発活動として

児島児童館、水島児童館への出張相談（各月一回ずつ）　相談人数延べ 52 名

水島地区３歳児検診ボランティア参加

〇里親について

備中里親会の方との交流

全国里親大会おかやま大会への協力、参加

7. 人材育成計画

① 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
感覚統合について	５月	全員	発達障がいの基礎知識としての共有が出来た
児童養護施設について	６月	全員	児童養護施設の現状について学び子ども達の現状を知った
全国児童家庭支援センター協議会実務者研修会について	７月	全員	児家センに問われること期待されることをフィードバックした
ネット依存について	９月	全員	相談で増加しているネット、スマホの対処法を共有した
世界子ども虐待防止学会　日本大会のフィードバック	10月	全員	主に性虐についての知識の共有、日本と世界の虐待に対する意識のギャップを理解した
全国児家セン協議会報告　不登校について	11月	全員	不登校の知識の再確認と全国児家セン協議会のフィードバック
虐待対応の実際と機関協働の課題について	１月	全員	関係機関との協働、連携のリスクを学び共有できた
リスクアセスメントのあり方地域虐待対応資料ＤＶＤ	２月	全員	リスクアセスメントの共通理解と疑問点の確認をすることが出来た
愛着障害	３月	全員	極めて多い相談内容についての知識の再確認と助言の方法について共有した

8. 防災・安全・衛生活動

４月　消防設備点検㈱でんでん
６月　救急法受講
10 月消防設備点検㈱でんでん
11 月インフルエンザ予防接種
毎月　児童発達支援センター合同避難訓練参加

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

開設から５年が経過し、26 年度は実践研究発表でも認知度やニーズの調査をすることで実際の児童家庭支援センターの地域でのあり方を探る１年となった。教育分野での認知度は低いものの、市町村についてはケースを通した協働の機会が増えていることから認知度は増しており、また、一度でも連携が取れたところは、再度連携を求めてくださっていることを知ることが出来た１年であった。また地域の主なニーズとして「虐待への対応」「不登校への対応」「子どもの障がいへの対応」の３点があげられた。児童家庭支援センターとして、顔の見える関係を維持しつつ、高度な専門性の発揮を今後も地域のニーズに合った支援を具体的に目指していく必要があることがわかった １年であった。

26 年度は、外部講師として鳥取子ども家庭支援センター所長の西井啓二氏に６回来所いただき、具体的なケースワークの手法について多くの学びを得ることが出来た。困難ケースについての対応は職員間の疲弊も多く、４人でのチームワークにおけるケースワークの手法を得ることで、互いのスーパーバイスの意識が強めることが出来た。個人の力量も徐々に上がっていることから、地域でのケース会議等での助言や発言も自信を持って取り組むことが出来ている。

今後は、虐待をはじめとする多問題の家庭への支援をより計画的に、援助計画を軸としたケースワークを進めていくとともに、より「予防的」な対策として CSP の導入を実践していき、地域への貢献を高めていきたい。また、生活困窮家庭の児童への支援としても計画的につながりの支援の枠組みを作り実行していきたい。

今後も継続的な研鑽を重ね、ビジョンを持ち、計画的に実践を重ね、地域に自信を持ってもう一歩前へ出て行ける児童家庭支援センターを目指したい。

発達支援事業部

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：児童発達支援センター　倉敷学園】【事業所責任者:　安　知子】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

児童発達支援センターとしての役割を担う為に、平成 25 年度の第三者評価指摘事項の改善や法人・事業所の研修により発達支援の質の向上を目指した。専門職員による特別支援を定期的に実施する体制を整えた。また保護者とともに協働して支援提供するために、ペアレント・トレーニングや懇談を実施することにより、保護者とのコミュニケーションに重点を置いた。

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
サービスの質の向上	① 人財の育成 ・法人階層別研修は、予定通り参加し、福祉職員キャリアパス対応生涯研修について学んだ。 ・専門研修では、入職後、1 ヶ月以内に現場支援で必要な基礎を学ぶか機会を設けた。 ・事業所研修では、　第三者評価や幼児救急法講習を実施した。 ② 発達支援の充実 ・第三者評価受審後の改善の実施として、職員とのコミュニケーションを深めるために面接を実施し、普段から相談、報告できる関係を築いた。 ・業務標準の明確化として、専門職がケース会議に同席し、支援展開の流れを決定した。親子療育、勉強会のデータ化し、行事計画をパターン化し簡素化した。
家族支援	① 保護者とのコミュニケーション ・ペアレント・トレーニングを実施し、保護者が子どもの身近なよりよい支援者となるよう取り組んだ。 ・保護者勉強会を３回実施し、保護者が求める情報を提供した。 ・親子療育は、各クラス５回実施し、倉学カフェは３回実施。保護者同士が普段から話し合える環境を提供することにより団結力が増している。 ② 家庭環境や家族ニーズに寄り添ったサービス提供 ・懇談を各自 3 回実施し、個別で保護者と支援について話し合い共通理解を深めた。

地域との関係の強化	① 機関連携 ・スキップ教室に参加し、地域の置ける発達支援の実情や必要性を把握した。 ・実習生やボランティアを積極的に受け入れ、将来　福祉に就労を希望するものの育成の場となった。 ・就学、就園移行については、年度初めには卒園児の就学した小学校を訪問し連携を図った。就学先の小学校にて先生が困っている事柄等について対応方法を伝えた。年度末は、就学、就園する先と引継ぎを行っている。 ② 地域貢献 ・倉敷学園みんなの集いでは、地域の発達に障害のある子どもたちや幼稚園児が倉学にて楽しく活動できる場を提供した。

（説明）

平成 26 年度は、「サービスの質の向上」「家族支援」「地域との関係の強化」を重点目標とした。

「サービスの質の向上」は、職員が発達を支援するために必要な知識を入職時に提供する体制を専門職研修実施により整えた。業務の内容においては、個人の力量に左右されない業務標準（職務遂行要領書）を基本とする考えを浸透させるよう努めた。

「家族支援」は、保護者勉強会により情報を提供し、親子療育や倉学カフェでコミュニケーションを図りながら、協働して発達支援を行った。

「地域との関係の強化」は、スキップ教室に参加しながら、地域における発達支援の状況を把握した。また将来、福祉に携わる人材の育成場所となるよう、地域の大学などから実習生を受け入れた。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
提案制度の活用	・事業所内においては、職員連絡ノート等を活用し、提案や意見を職員間で共有し、コミュニケーションの活性化を図った。 ・発達支援事業部においては、発達支援事業部会議およびチーフ会議で報告・情報共有を行った。
人材育成＝働きがいのある職場作り	・個々の職員と面談時に目標を話し合った。そこで、法人内・外の研修への参加や事業所間交流、勉強会の講師の経験等を勧め、実施した。

（説明）

第三者評価指摘事項において、事業所の課題となっている職員間のコミュニケーションについては、職員面接や普段からのコミュニケーションにより、各職員が感じている不満や不安を聞き取ることに努めた。保護者との関係においても担任だけではなく、困難事例においては積極的に管理者が仲介に入り問題解決に臨む体制を整えた。これらの取り組みにより、担任は保護者対応の負担が軽減し、保護者としても問題を早急に解決できている。

人材の育成に関しては、療育や支援に関する視点だけではなく、チーム支援の考え方や方法、福祉人としての在り方等に関しても、現場に入って実際にモデルを見せることや、個々の段階

に応じて対話しつつ進めた。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

施設給付

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	12	18	19 日	19 日	1090	1146	105%
５月	12	15	21 日	21 日	1205	1262	104%
６月	12	15	22 日	22 日	1263	1312	103%
７月	12	15	22 日	22 日	1263	1328	105%
８月	12	15	21 日	21 日	1205	1225	101%
９月	12	15	21 日	21 日	1205	1286	106%
10 月	12	15	22 日	22 日	1263	1344	106%
11 月	12	15	21 日	20 日	1205	1146	95%
12 月	12	15	21 日	21 日	1205	1251	103%
１月	12	15	21 日	21 日	1205	1214	100%
２月	12	15	19 日	19 日	1090	1128	103%
３月	12	15	22 日	22 日	1263	1266	100%
合計	12	15	252 日	251 日	14,469	14,911	103%

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

定員 66 名を常に満たす事は難しかったものの、お休みする園児が少なく登園率が良かったために、100%を超える実績となった。

日中一時支援事業

月	職員数		計画と実績				
	定員	現員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	2	3	17	17	45	53	117%
５月	2	3	20	20	91	66	72%
６月	2	3	21	21	91	71	78%
７月	2	3	22	22	91	116	127%
８月	2	3	19	19	91	99	108%
９月	2	3	20	20	91	106	116%
10月	2	3	22	22	91	150	164%
11月	2	3	18	18	91	132	145%
12月	2	3	19	19	91	150	164%
１月	2	3	19	19	91	122	134%
２月	2	3	19	19	91	143	157%
３月	2	3	20	20	91	129	141%
合計	2	3	236	236	1,046	1,337	127%

（説明）

年度の後半からタイムケアを利用する園児数が増え、予定の人数を大きく超える実績となっている。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
入園式 在園児　新年度説明会	４月４日（金）	入園式と説明会	66 名。新年度の説明を行い保護者との共通理解を図った。
保護者勉強会	４月 19 日（土）	倉敷学園の支援について	50 名。保護者へ倉敷学園の支援を説明した。
	６月７日(土)	就学やサポートブックについて	就学に向けた準備やサポートブック作成について話し合いを行った。
	12 月 27 日（土）	卒園児保護者の講話	将来について先輩保護者の経験談を伝えた。
家庭訪問	５月１日２日７日 ８日９日	担任が園児宅を訪問	担任が園児宅を把握した。
懇談	５月 13 日 17 日 10 月７日 11 日 ２月 17 日 21 日	個別支援計画について保護者へ説明	支援内容を説明し、園児の成長を保護者と確認した。
ペアレント・トレーニング	５月 22 日 ６月５日 19 日 ７月３日 17 日	希望する保護者に対して、ペアレント・トレーニングの実施	保護者が子どもとのより良い関わり方を考え達成感を感じる場を提供した。
就学に関する勉強会	６月４日（水）	教育委員会の教員を講師に招いた	就学について保護者が情報を得る場を提供した
テラスプール	６月 30 日(月)～９月５日(金)	テラスでのプール遊び	園児が水を使用して身体の使い方を学んだり、感覚を育んだり、季節を感じ楽しんだりした。
年長児課外活動	８月 29 日(金)	年長児のみ 13 時から 17 時まで倉学以外の場も含めた活動に取り組んだ	年長児が保護者と離れ倉学以外で活動する場を提供し、必要な支援を保護者と考え、就学に向けた準備としている。
運動参観日	９月 23 日(火)	ホールにて保護者とともに運動遊びに取り組む	園児の半年間の運動発達の成果を保護者とともに共有する。

倉敷学園みんなの集い	11 月２日(日)	園児、きらり利用児、卒園児を対象、庄幼稚園、保育園児も招待しお楽しみ会を実施した。	地域の幼児を含め、倉学の建物や活動を提供し、地域の幼児が楽しめる活動を実施した。
クラス参観日（発表会）	11 月 22 日(土)	クラス単位で参観日（発表会）を行う	倉学の支援によって園児が成長した姿を保護者と共有した。
クリスマス会	12 月 25 日(木)	クリスマス楽曲や劇、プレゼントや給食を実施	園児がクリスマスを楽しんだ。
在園児・新入園児説明会	H27 年 3 月 14 日(土)	翌年の支援や方向性について保護者へ説明した	事前に保護者へ伝えることで共通理解を図りやすくし。意見を聞き改善する。
卒園式	H27 年 3 月 28 日(土)	卒園児対象の卒園式	卒園する園児を送り出した。

4. 保護者（家族）との交流事業

・説明会、勉強会、家庭訪問、懇談、ペアトレについては、行事報告を参照。

・お散歩当番（1 家族　年５回～7 回）

倉学の散歩時、手つなぎを保護者へ依頼。保護者とともに散歩支援に取り組むことで、園児の成長を保護者とともに共有した。

・倉学カフェ

各クラスで実施…親子療育前の時間を活用して、保護者に給食を提供し、給食に関する保護者の意見を聞く。また、職員と保護者がコミュニケーションを図る場を設ける。

全体で実施…保護者勉強会を実施後に給食を提供する。（4 月 19 日、6 月 7 日、9 月 13 日、12 月 27 日）保護者同士が顔を合わせる機会を設けることで、保護者同士の情報交換や倉学への質問に答える機会を提供した。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	60 件
意見・苦情	未対応０件	６件
事故	発生０件	５件

上記を受けての具体的改善活動

上記の件において、職員間のコミュニケーション不足が原因と考えられる件数が多かった。また、個々の園児の特性を職員が把握しきれていなかったことも要因と考えられる。

この事態を受け平成 27 年度は、毎月の月末に職員会議を実施して、決定事項や変更点の伝達そして情報の共有を行う。また週末に行っている週礼では、全園児の特性把握だけではなく、互いの支援について意見を述べ合う機会を設け、意見し合える関係作りを行う。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・ボランティアの受け入れ

ボランティア受け入れマニュアルを作成しマニュアルに沿って、日常の療育にボランティアを受け入れている。

・実習生の受け入れ

社会福祉士実習、介護等体験実習の受け入れを行った。

・広報誌による情報発信

事業所の情報や活動内容について、広報誌を通じて情報を発信した。関係機関にも配付し、事業所について情報を提供した。

7. 事業所研修計画

（1）. 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
電話対応、機器操作方法 セコム、金庫操作方法 来客者対応方法について	４月２日(水)	新採用職員 倉学　新任職員	どの職員も聞き操作が可能になり、対応できる環境が整った。
児島市民病院の中嶋先生による作業療法士や、発達に関する勉強会 ケース会議	５月 14 日(水) ７月 17 日(木) ９月 17 日(水) 11 月 13 日(木) １月 22 日(木) ３月 17 日(水)	安、篠原、川上、大西、太田、妹山、竹本、秋月、小林、森宗、内田、肥塚、國吉、高下、藤原	職員がより良い運動支援を園児に提供する体制を整えた。
幼児安全法	６月 19 日(木) ６月 24 日(火)	全職員	幼児安全法に関する知識・技術の習得、再確認を行った。

8. 防災・安全・衛生活動

・防災計画に準じて、防災訓練（火災・地震・不審者対応）を毎月実施した。
　詳細は防災計画報告書に記載している。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・特記なし

10.その他特記事項

・特記なし

11.総括及び次年度の課題

平成 26 年度は、園児の登園率が高かったために実績を満たすことが出来た。支援や業務については、職員が安定して支援提供することを目指し、倉学の業務改善に取り組んだ。面談において、業務負担を訴える職員の人数は減っている。保護者からは、親子療育の回数を増やしてほしいという要望が上がったため、次年度は改善する。倉学カフェの実施により、保護者同士がコミュニケーションを図る場を提供できている。また特別支援の実施により、保護者の支援に対する満足度も増している。継続して次年度も実施したい。

職員同士のコミュニケーション不足や情報の伝達不足については、改善が出来ていない。次年度は、毎月全職員を対象とする職員会議を実施する。支援についても、互いに指摘し合える環境を整えるため毎月事業所研修を実施する。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：児童発達支援センタークムレ】　　【事業所責任者:内田富美江】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要（表 1）

目標（値）	施策及び結果
人材育成 ・法人主催の研修 ・事業部研修及び事業所内研修 ・外部研修	・階層別研修、目標管理、OJT、実践研究実施。 ・専門研修、事業所内研修は計画通り実施した。研修の学びを療育に活かせたか振返りできず。 ・外部研修への参加及び伝達講習の実施。 ・嘱託 B 職員の研修（発達障がい児の特性理解と対応の基本の理解、障がい児への虐待防止） ・勉強会（法人理念とセンターの役割・機能）
専門職との連携 ・多職種協働による支援の実施 ・専門性	・事業所内連携（OT・ST・Ns・サービス管理責任者、管理栄養士などによる勉強会の実施） ・事業所外連携（OT：倉敷学園、市内病院 OT と連携） ・ケース会議（年３回実施、12 月からキャップが自主的に運営）
家族支援の充実 ・親子療育 ・ペアトレ ・学習会 ・家族に寄り添う支援	・音楽療法開始（11 月より月１回） 期待以上の成果が児・父母に表れている。 ・ペアトレは計画通り実施 ・メンターの話（単独１回、親子５回） ・保護者のわが子への理解が乏しい。 ・アンケート実施（行事・学習会は実施、支援に関しては未実施）
保護者同士のつながり強化	・懇談会、座談会、行事への参加 ・保護者会活動（勉強会、奉仕活動、施設見学、文集作成）まとまり計画通り実施したが、オリジナルな活動が弱い。
地域との連携	・虐待関連会議の開催・情報共有・役割分担 ・スキップ教室、すくすく教室検診への協力 ・実習生の受け入れ体制整備 ・大学連携：川崎医療福祉、川短、関西福祉各大学授業 ・啓発活動：地域行事は参加できず

開所２年目を迎えたセンタークムレは、平成 26 年度センタークムレ事業計画の重点目標は、業務内容を充実させるための活動及び療育の質を高める活動の２点あった。この２点を具体化する事業活動として、（1）サービスの質の向上では①人材育成、②第三者評価受審後改善実施、③業務標準の明確化、（2）家族支援では①保護者とのコミュニケーション、②家庭環境や家族ニーズに寄り添った形でのサービス提供をあげ、（3）地域との関係強化では①スキップ教室、すくすく、検診

保育への参加、②実習生の受け入れ体制整備、③普及啓発活動をあげた。

下半期には、上記に加え、法人理念、中期経営計画、事業部計画に基づくセンタークムレの果たすべき役割の共通認識をするための特別講座を設け、発達支援の３本柱（障がい児支援、家族支援、地域支援）の意識化と支援の方向性の見直しを進め、次年度へ繋いだ。

人材育成については、法人本部が実施する階層別研修、事業部が実施する研修は該当職員が確実に参加した。事業所内研修は、正規職員はもとより嘱託Ｂ職員が学べる機会を新たにつくり支援の質の底上げを図った。新人職員や中途採用者に対する支援の基礎研修にも取り組んだ。

キャップは、新人の OJT の実施、クラス運営、日々の療育、保護者対応等責任をもって行い、センター運営の最前線で機動力となった。不明な点は適時チーフに報告・連絡・相談し真摯な態度で支援にあたった。ただ、障がい児支援経験年数３年の者が大半で経験知が少ないため、２名のチーフによるスーパーバイズが欠かせなかった。

２名のチーフは、キャップや担任に対し日々の業務の中で通所支援計画、療育内容の検討、個別療育の方法、クラス運営、記録の書き方、保護者対応等々あらゆる支援に関する助言・指導を行いながら、支援者に必要な態度についても適宜アドバイスを行った。

１年間、子どもたちの安全確保には最大の留意を払い、安心できる場・安心できる大人になるよう特に心血を注いだ。年間活動は計画通り実施し実施後早期に反省会を開き個別支援に役立てるよう努めた。その結果、個々の子どもたちの成長・発達が行事や療育発表会等で具体的な形となって現れ、保護者・職員共に励みとなった。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み（表２）

目標（値）	施策及び結果
人材の定着化・育成	研修の充実、職員間のコミュニケーションの充実
多職種協働での支援	専門職との連携 事業所内研修、ケース会議において、児童発達支援管理責任者、ＯＴ、ＳＴ、管理栄養士、臨床心理士、看護師、管理者がぞれぞれの専門的視点から発言し支援の視が拡大した。
保護者支援の充実	勉強会、懇談会、親子療育の充実、メンターとの座談会、メンターによる勉強会を数多く開催。家族療育日、療育発表会、行事に大半の保護者の参加あり。都度、感想・意見を書いていただき支援に活かした。送迎時のコミュニケーションの充実、家庭訪問による支援も実施した。
地域連携の強化	・保健師との連携・行事への参加・HP の活用 ・虐待ケースに関する機関連携 各機関と電話・書面による情報共有、年２回連絡会開催（現状認識・情報共有・共通理解・役割分担）。保健師、障害福祉課ワーカー、子相相談員、児童相談所、児童家庭支援センター相談員、センタークムレ（担任、チーフ、施設長）

（説明）表２に準ずるため説明を割愛する。

2. 職員配置と利用者状況　（表３）

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績（単独）					職員数		計画と実績（親子）		
	単独		開所日		利用者（人）			親子		利用者（人）		
	定員	現員	計画	実績	計画	実績	計画実績比(%)	定員	現員	計画	実績	計画実績比(%)
４月	8	12	19	19	684	621	90.8	2	5	304	179	58.9
５月	8	12	20	20	720	674	93.6	2	5	320	218	68.1
６月	8	12	22	22	792	761	96.1	2	5	352	240	68.2
７月	8	12	23	23	828	798	96.4	2	5	368	260	70-.7
８月	8	12	21	21	756	662	87.6	2	5	336	226	77.4
９月	8	12	22	22	792	678	85.6	2	5	352	290	82.4
10月	8	12	23	23	828	767	92.6	2	5	368	353	95.9
11月	8	12	19	19	684	668	99.4	2	5	304	320	95.0
12月	8	12	22	22	704	693	98.4	2	5	352	327	102..3
１月	8	12	21	21	672	645	95.9	2	5	336	289	86.0
２月	8	12	19	19	608	638	94.9	2	5	304	316	103.9
３月	8	12	21	21	756	746	98.7	2	5	336	361	93.1
合計			252	252	8824					4032		

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

計画では、単独通園 40 名、親子通園は 60 名程度の契約数をもとに８割程度が利用すると予想して利用者数を算出した。感染症が多発する冬季の利用が減少する傾向があるが年間を通して計画の９割達成である。親子については更に利用が低迷し、特に上半期は。計画の６割から７割にとどまる。下半期からは計画の９割は確保できている。

3. 行事報告（表４）

行事名	実施月	内容	結果
入園式（単独通園）	４月	新入園児歓迎	９人の新入園児を迎えた。
家庭訪問（単独通園）	４月末～５月初旬	家庭状況の把握	５ 日間にわたり各担任が家庭を訪問、家族状況等把握、支援に活用。
親子療育日（単独通園）	年５回	遊び、製作、調理などの活動に親子で関わる	子どもの姿を保護者と共有し、支援の実際を学ぶ機会になった。
年長児課外活動（単独通園）	１０月 １１月	水族館、みかん狩り	全員参加し、集団行動と社会経験を増やし楽しんだ。
療育発表会（単独通園）	１１月 １２月	療育の成果を保護者の前で発表する	２ 日間に分け、クラスごと個別療育、集団療育の成果を発表した。１年間の支援が結実した場面が多々あった。
卒園式	３月	卒園児を送る会	保護者・職員・音楽療法士合作の園歌を披露、児童も歌った。
懇談・座談会（単独・親子）	通年	保護者同士の茶話会 懇談	保護者の現在抱える課題を克服する手立てになっている。保護者同士の繋がりの強化面は課題が残った。

年間計画に沿って実施した。行事、療育発表会を通して子どもの成長と発達の成果があった。課題として、子どもの発達支援の視点から、家庭での遊び、過ごし方を共に考え合い、道具（玩具）づくりや祖父母の参加促進と理解を促す支援、きょうだい児のストレス軽減支援などがあげられる。

4. 保護者（家族）との交流事業

保護者役員を中心に、総会、懇親会、懇談会、美化活動、文集作成、施設見学、職員との親睦会等活発に行った。また、家庭訪問や定期的な懇談、随時懇談など保護者要望の聞き取り、対応、園児への支援上の課題についての話し合い等頻回に実施。担任、チーフ、施設長。親子通園では、家族療育日、親子レクリエーション、音楽療法、父親参観を土曜日に開催し、児に合わせた支援方法の修得及び親子で楽しむ機会を増やした。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数（表５）

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	64 件
意見・苦情	未対応０件	10 件
事故	発生０件	20 件

上記を受けての具体的改善活動

平成 26 年度のヒヤリはっと、事故が多発するのは４月・５月・６月であり（7 件～10 件）、他の月は３件から５件であった。年度当初は新入園利用児の情報が少なく、また職員構成も新たとなるため利用児側の要因と支援者側要因、環境設定等物理的要因がかみ合わないため多発すると思われる。意見・苦情が多いのも４月であった。

その都度、事実の報告及び具体的改善策の提案と実施、さらにケース会議をもち利用児への関わり方の統一化などを行った。さらに、リスクマネジメントの立場から１年間を横断的に検証し、具体的改善策をケア（発達支援）方法論として現場に活かすため、センター内で事故検証チームを結成し再発防止体制を整える必要がある。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・倉敷市の１歳半検診、３歳児健診に保育の担当として職員を派遣
・クラコトフェステバルへの参加
・ひろばにじいろ　設立準備会への参加
・ピーポーカフェへの参加

7. 人材育成計画

(1)事業所内研修（表８）

研修項目	月日	参加者	結果
KIDS 乳幼児発達スケール、遠城寺乳幼児分析的発達検査の理解（原田）	5/29	新人・研修	研修で得られた効果については、現場でどのように活かしたか、OJT ではどのように指導するか等検証していないため不明である。
発達検査・言葉の発達（田邊 ST）	7/17	正規・嘱託Ａ	
発熱や怪我、嘔吐処理等（藤本 Ns）	8/2		
発達障がい基礎編	8/6	新人	
大田ステージについて	8/18		
虐待の早期発見・対応、機関連携	9/12	全員	
声かけの仕方（北村）	9/18		
児童発達支援センターの概要理解（原田）	10/24	正規・嘱託Ａ	
手と道具の操作、素材選び（河村	11/16		

OT）			
偏食：野菜嫌い・小食（管理栄養士）	11/20		
障がい児相談支援の役割について	12/6		
事例による家族支援勉強会：（北村）	1/10		
伝達講習：虐待防止法の理解	1/23		
（北村・長江）	1/30	嘱託Ｂ	
伝達講習：自閉症理解事例検討（原田）	H27年2/5	正規・嘱託Ａ	

事業所内研修（表 10）法人の理念とセンターの果たすべき役割の（全 10 回・内田）

研修項目	月日	参加者	結果
私たちは利用児や家族、地域社会から何を期待されているだろうか	11/7	正規職員 嘱託Ａ	研修で得られた効果については、検証していないため不明である。
法人の理念に沿いセンタークムレの現状を振り返る	11/18		
第三者評価から学ぶこと	12/13		
尊厳を尊重する療育とはどのような支援か考える	12/19		
家族の理解と支援：障害をもつ子を育てている家族の状況を理解する	27 年 1/10	全正規職員	
障害児を育てる家族を理解する方法：家族アセスメント	1/16		
第 2 期中期計画の理解と発達事業グループ 3 本の支援の柱、地域連携・支援	2/13		
新アセスメントシートによる情報収集・課題抽出・支援計画作成の理解	3/13		
新アセスメントシート、通所支援計画書の書き方紹介（北村・原田・内田）	3/20		
平成 27 年度センタークムレ事業と計画の理解	＊4/1	全員	

8. 防災・安全・衛生活動

火災予防、避難訓練、防犯訓練、災害予防訓練は、毎月の計画に沿い実施した。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

平成 26 年 9 月末、センタークムレ（単独棟）2 階廊下の室温が夏季は 33 度～35 度に上昇するため、室内熱中症の危険あり、エアコンクーラー及び扇風機を設置した。

10.　その他特記事項

なし

11.　総括及び次年度の課題

1）平成 26 年度総括

センタークムレ開設２年目であるが、事業計画に沿って職員一丸となり支援にあたった。

平成 26 年度センタークムレ事業計画の重点目標は、業務内容を充実させるための活動及び療育の質を高める活動の２点あった。

業務の充実については、一応機関としての形は整ってきた。ただ、センタークムレの在り方自体が現社会の要請に見合った児童発達支援センターの機能とは言い難い面があったため、各業務の充実を図りながら職員の意識改革を最重点においた。そのため下半期は事業所内研修を多くした。

また、療育の質の向上については、「療育」「発達支援」の概念の捉え方が職員個々と施設長との間に違いが認められた。これは支援の核となる重要な点であるため、上部組織、法人の考え方を確認し、概念を統一して「発達支援」に当たれるように研修を行った。

また、法人の理念・方針、中期経営計画とセンター業務の進め方に整合性が図られていない面が認められた。そのため、法人の一員としてセンタークムレにおいて法人理念を具現化していく活動を意識しながら仕事をするよう促してきた。

以上、事業展開の基盤となる事項の整理と認識の摺合せ、意識改革、習慣化にむけて、方向性を提示しながら業務の充実と改善を図ってきたが、まだ課題は山積している。その課題を次にあげる。

2）次年度の課題

（1）利用児支援と人材育成

・研修後、発達支援、療育に活かせたかを OJT と連動させ振り返る機会の設定。
・専門研修と事業所内研修を整理する。
・研修受講者が法人の重点目標のどの領域を学んでいるのか、専門研修時、OJT 時に理解を促す説明を加える。
・支援メニューが単一化しているため、教材研究等支援メニューを開拓するチームを作る。

専門職と連携できる人財育成

・多職種参加のもとに自主的にケース検討をする動きが現れてきた。
・専門性が発揮できる組織体制の整備
特別支援加算をつけ作業療法士、臨床心理士として利用児・家族支援の道筋をつける。

（2）家族支援の充実

・音楽療法を媒体としたきょうだい児・家族との関係性を深める。
・ペアトレは事業所内で実施すべく後継者を育成する。
・学習会は保護者の希望を取り入れ継続する。「かがやき手帳」への記入を通してわが子の理解を深める。**保護者同士のつながり強化。**

（3）地域との連携

・機関間連携が必要なケースをリストアップ、主体的に連携する動きを作っていく。
・実習受け入れ体制整備、受け入れ（担当者を置く）
・授業協力、ボランティア依頼
・地域住民への啓発専門チームを結成し啓発活動を展開する。

クムレ
cumre

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：　きらり倉敷　】【事業所責任者　:久保田　奈穂美　】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
家族支援	①-1　ペアレント・トレーニングの実施 ・1 クール 1 家族が参加 ①-2　保護者勉強会の開催 ・年間 2 回の勉強会を実施 ・内容は「遊びについて」「特性について」 ①-3　座談会の実施 ・毎親子療育（4～8 月）に実施 ・保護者勉強会後（年間 2 回）実施 ②-1　就学前懇談の実施 ・対象者全員に実施 ②-2　保護者アンケートの実施 ・勉強会後のアンケート（年間 2 回）実施
サービスの質の向上	①-1　アセスメントに基づく個別支援の実施 •4 月 9 月にアセスメントシートを活用しアセスメント実施 ・アセスメントシート、ニーズシート、フェイスシートを基に 通所支援計画書の立案。 ①-2　第三者評価指摘事項の改善 ・きらり 5 事業所各々で実施。平成 26 年 3 月の第三者報告会で 全事業所で足並みをそろえて改善すべき点の指摘有。 ②-1　研修計画に基づく内部・外部の専門研修への参加 ・計画に基づき実施 ②-2　事業所間交流（実習、公開療育） ・正規職員 4 名中 2 名は、事業所間交流済
地域との関係の強化	①-1　訪問支援の充実（園・学校訪問、見学者受け入れ） ・園訪問、学校訪問、見学者（園担任）を受け入れ ①-2　健診保育、スキップ教室への職員派遣

	・1 歳半健診、3 歳児健診、スキップ教室へ参加 ②実習生・ボランティアの受け入れ ・介護等体験の受け入れ

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
訪問支援の充実	・利用児の在籍する園（学校）への訪問や見学の受け入れ、訪問後の報告書により、保護者、園の先生、きらりで子どもの姿について共通理解を図る。→達成。 ・訪問後は、連携ノートによりやりとりを行うことで、経過確認や密な情報交換等の支援に対する共通理解を持つ機会とする。 →達成。訪問を行っていない園とも、連絡ノートでのやりとりを実施。
利用者満足の向上	・第三者評価指摘事項の改善に取り組み、チーフ会議で確認。 →きらり 5 事業所各々で実施。 平成 26 年 3 月の第三者報告会において全事業所で足並みをそろえて改善すべき点の指摘有。 ・行事実施後に保護者アンケートを実施。また、保護者からの意見をもとに、勉強会の内容や療育室環境の設定に反映させていく。 →保護者勉強会後にアンケートを実施。 勉強会の内容や場所についての意見有。平成 27 年度に活かす。
提案制度の活用	・既定の書式および連絡ノート等を活用し、提案や意見を職員間で共有し、コミュニケーションの活性化を図るとともに、サービスの向上に繋げる。 →人事考課表や、職員勉強会アンケートに職員からの意見があがった
人材の育成	・年度初めに個々の職員の研修計画を本人と話し合って決め、計画に基づいて外部研修への参加や事業所内研修の実施を行う。 →計画通り実施可

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
4 月		6.1	24	24	220	225	102.3%
5 月		6.1	24	24	240	221	92.1%

６月		6.1	25	24	250	229	91.6%
７月		6.1	27	27	260	266	102.3%
８月		6.1	22	23	220	214	97.3%
９月		6.1	24	24	230	246	107.0%
10 月		6.1	27	26	260	264	101.5%
11 月		5.1	23	23	230	237	103.0%
12 月		5.1	24	24	240	239	99.6%
１月		5.1	23	23	230	236	102.6%
２月		5.1	23	23	230	243	105.7%
３月		5.1	24	24	230	241	104.8%
合計		65.2	290	289	2,840	2,861	102.1%

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
保護者向け勉強会	６月９月	保護者を対象にした勉強会の実施	内容「遊びについて」「特性について」実施。
座談会	６月９月	保護者を対象にした座談会の実施	予定通り実施。 “また参加したい”とアンケートで答える方多数。

4. 保護者（家族）との交流事業

・家族見学週間（毎月）

毎月一週間を家族見学週間とし、療育の様子を見学してもらうために保護者に呼び掛けを行った。月に１名程度の見学者はあるが、ニーズとしては低い印象。

・座談会（６月・９月）

親子療育では毎回、事業所全体では年回２回座談会の機会を設けた。

親子療育は、契約者が少ないことや年度途中で、契約者がいなくなったことで、１年を通して

10 回程度の座談会であった。保護者勉強会後の座談会では、20 名ほどの保護者が参加。いずれの座談会も、「異年齢の保護者の話が聞けて良かった」「関わり方のヒントになった」等の肯定的な感想が多く挙がった。

・ペアレント トレーニング（10～12 月）

きらり倉敷からは 1 名の保護者が参加。参加している時期は、子どもの姿をよく観察し、関わりを懸命に考えられていた。トレーニング終了後は、学んだ内容への意識が途切れやすい為、取り組みの効果や手法の振り返りを事業所において行っていく必要を感じた。

・保護者向け勉強会（６月・９月）

保護者を対象に、「遊びについて」「特性について」という内容で実施。行事の多い時期等で、９月の参加者はすくなかった。予め、園行事等の把握を可能な限り行い、希望者が参加できる日程調節の必要性を感じた。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	63 件
意見・苦情	未対応０件	11 件
事故	発生０件	1 件

上記を受けての具体的改善活動

・発生原因を振り返ると、本人要因（特に行動特性）・職員要因（特に技術不足、気の緩み）が多くあった。それらを改善することでより良い療育が展開できると考えた。具体的には、利用児受け入れ前に、利用児の特性や 1 日の流れ（職員や子どもの流れ、職員の役割等）を周知する場を設けた。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・実習生の受け入れ

介護等体験実習の受け入れを行った。

・ホームページ、広報誌による情報発信

事業所の情報や活動内容について、ホームページや広報誌を通じて情報を発信した。

7.　事業所研修計画

（1）. 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
事業所内研修	８月２月	全職員 （嘱託職員含む）	支援や発達障害について、療育や発達支援に必要な専門知識・技術を学んだ。
事業所間交流	12 月１月	正規職員	事業所間実習参加により、支援の共通理解をはかった。

8. 防災・安全・衛生活動

・災害時の避難場所や、災害時の保護者への連絡手段を確保した。併せて、保護者へ、避難場所や緊急連絡先を明示した。
・不審者対応として、鍵の補充を行うと共に、玄関の施錠時間を明確にした。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・1/16　療育室及び職員室のブラインドをロールカーテンに付け替えた（￥137.200-）。
　ブラインドの老朽化の為、屋外が暗くなると室内の様子が全て見えてしまうため。

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

・実績に関しては、年度途中に補正を行った。理由は、親子療育の希望者、対象者の減少に伴い受け入れ人数が大幅に減少したため。補正後の目標値は達成しているが、平成 27 年度は親子療育のニーズに答えつつも、必要に応じて単独療育枠として開所し利用者確保を行う。
・保護者に好評化であった、保護者勉強会や座談会は引き続き実施。
・意見苦情に関しては、職員の知識不足や、配慮不足によるものが多かった。研修への参加等により、職員の力を高める。また、共感的サポートが出来るよう終礼や職員会議において、保護者の様子等に気になる点があれば報告し合う習慣をつける。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：きらり児島】【事業所責任者:　髙田　朋】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

はじめに

今年度も家族支援の充実のために、ペアレント・トレーニングや家族参加型療育など行った。支援者は子どもの療育方法のみ学ぶのではなく、子どもと一生関わる保護者自身が療育について学び実践していくことができるよう、家族の援の手法も同時に学ぶ必要があると感じた。

人材育成では、きらり合同勉強会や専門研修などの内部研修などで職員それぞれのスキルアップを目指し取り組んだ。今後も職員一人ひとりのスキルアップを目指すと共に、職員が同じ視点で支援の視点を捉え実践していくことができるよう研修等の参加をしていきたい。

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
療育の充実	今年度から導入のアセスメントシートを療育からの姿や家庭の様子を聞きながら埋めていき、それを用いて支援計画の作成を行った。また日々の療育の振り返りを職員会議や昼礼等で行った。
人材の育成	キャリアパス制度に基づき、専門研修や階層別研修、きらり合同勉強会への参加、目標管理や OJT に取り組んだ。
保護者とのコミュニケーションによる協働関係の構築	保護者向け勉強会、座談会、ペアレント・トレーニング、家族参加型療育の実施。
家族ニーズに寄り添ったサービスの提供	就学前懇談の実施や、行事後のアンケートの実施。
機関連携の強化	園や学校訪問や見学受け入れを行い、所属園と連携を図り、定期的な訪問や連絡帳での連携を図った。
実習生・ボランティアの受け入れ	今年度は実習やボランティア希望の方がいなかった為未実施。

（説明）

アセスメントから計画作成までのプロセスの充実を図るために、今年度から導入のアセスメントシートを用いて利用児のアセスメントを行った。しかし、アセスメントシート内の項目の基本的な理解や捉え方の違いがあり、アセスメントを行う為の基礎知識や共通認識が必要であると感じた。そのため今後は、アセスメントシート内の項目理解を全職員が共通して理解していく事が課題である。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
訪問支援の充実	園・小学校訪問を毎月実施。
利用者満足の向上	第三者評価を受け、連絡帳や見学からインテークまでの新書式を使用、アセスメントシートの導入を実施した。 行事後は、保護者アンケートを実施し、保護者の意見を聞く機会を設けた。
提案制度の活用	昼礼等でアセスメントシートを用いて、利用児の様子の情報共有や支援に対する意見や提案を吸い上げ
人材の育成	キャリアパス制度に基づき、専門研修や階層別研修、きらり合同勉強会への参加、目標管理やOJTに取り組んだ。

（説明）

訪問支援では、保護者が希望する児の園訪問に行き、園での様子を見た上で、きらり・園での姿の共有を図り、共通の課題について話し合いを行った。また園訪問に一度行って終わりではなく、定期的に園訪問に行くことで常に利用児についての共通理解を図り、支援していくことに取り組んだ。

利用者満足の向上においては、行事後には保護者アンケートを実施し、保護者の思いを聞き取り次回の勉強会に生かす機会を設けた。

人材育成においてのきらり合同勉強会では、どの職員も共通認識を持って業務遂行ができるよう、療育記録連絡帳の記入方法や太田ステージ検査の取り方などの勉強会を開催した。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	4	4.9	24	24	220	222	100.9%
５月	4	4.9	23	23	230	220	95.6%
６月	4	4.9	25	25	250	240	96%
７月	4	4.9	27	27	270	265	98.1%

８月	4	4.9	22	22	230	206	89.5%
９月	4	4.8	24	24	250	238	95.2%
10 月	4	4.8	27	27	280	228	81.4%
11 月	4	4.8	24	24	240	210	87.5%
12 月	4	4.8	24	24	240	220	91.6%
１月	4	3.8	23	23	230	199	86.5%
２月	4	3.8	23	23	230	215	93.4%
３月	4	3.8	24	24	230	224	97.3%
合計			290	290	2900	2687	92.6%

（説明）

年度途中の他事業所への移行などによる退所、所属園行事や体調不良による欠席が多く、実績が達成する月がほとんどなく毎月 92%の稼働率であった。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
家族療育	５月・10 月	家族（父母・祖父母）参加の療育	５ 家族ほどの保護者が参加し、普段の療育見学や親子クッキングを実施。
保護者向け勉強会	５月・８月 １月	保護者を対象にした勉強会の実施。	療育について・今家庭でできること・サポートブックについての勉強会を実施。各勉強会 5～10 名の保護者が参加。

4. 保護者（家族）との交流事業

・家族見学週間

毎月 1 週間実施。新規利用児保護者を多く受け入れている。きらりで行っている活動の意図や活

動中の利用児の姿や課題を保護者に伝えた。

・家族療育

普段の療育の姿を見学し利用児の様子を把握してもらったり、親子でクッキングをする事を通し親子での関わり方を学んだりする機会とした。

・ペアレント・トレーニング

今年度は、保護者の日程があわないことから本事業所からの参加者はいなかった。しかし資料での勉強を希望する方がいたため希望者に資料を配布すると共にペアレント・トレーニングの手法を伝えた。

・保護者向け勉強会

年 3 回実施。療育について・今家庭でできること・サポートブックについての勉強会を実施。各勉強会 5～10 名の保護者が参加。

・座談会

家族療育後に座談会を実施。座談会で話し合いたい内容を事前にアンケートを取って行った。家族療育に参加した家族の半数は参加している。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	67 件　児同士のトラブル、室内からの飛び出し、職員のミス等。
意見・苦情	未対応０件	２件　保護者配布書類の日程の記入ミスなど。
事故	発生０件	０件

上記を受けての具体的改善活動

起こった事については、原因追究、改善策の検討、職員への周知をその日あるいは翌日までに行うようにした。

児同士のトラブルについては、個々の特性を職員間で周知することと、その児への対応方法を検討した。室内からの飛び出しについては、室内の環境設定や遊びの提供の工夫を行った。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・倉敷学園開催のクラコトの模擬店の一部を担当。
・散歩や公園遊びでよく行く公園の清掃を当日行った。
・１歳半・３歳児健診への派遣
・すきっぷ教室への参加

7. 人材育成計画

(1).事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
アセスメントシート記入方法	４月	水川・奥田	シートへの記入方法が分かった。
KYT	11 月	正規職員•嘱託職員	危険予知について学んだ。

8. 防災・安全・衛生活動

防災訓練を月に１回、地震・火災・不審者侵入・水害を想定して実施した。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

今年度は第三者評価での指摘を受け、連絡帳やアセスメントシート、見学からインテークまでの書式を整え、使用を開始した。記入例を確認しながら記入していったが、職員それぞれの捉え方で記入していたり、アセスメントシートにおいては、シート内の項目理解の段階から難しくシートへの記入が出来なかったりした。そのため次年度はシート項目の理解のための勉強会や記入方法を学ぶ勉強会の開催を行いどの職員も同じ視点で記入していくことができるよう取り組んでいく必要がある。

家族支援においては、今年度保護者対象の勉強会や懇談などを実施してきた。しかし職員側から支援方法などを伝えるのみになっており、保護者自身が子どもの子育てについて考えて実践する機会が少ないように感じた。保護者が子どもにとっての最良の療育者となれるように今後も保護者に支援の考え方を伝えていきながら、保護者自身が実践していくことができるよう家族支援を充実させていきたい。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：　　きらり玉島　　】【事業所責任者:大隅　淳代】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1.はじめに

今年度はきらり玉島での児童発達支援管理責任者の運営、業務等は 2 年目ということもあり、安定した運営を遂行することができたと考える。また、玉島支所の保健推進室や障がい福祉課の保健師やその他の職員の方と密に連携することにより、昨年度と比べ、より密な関係を保つことができたと考える。今後も、地域との連携を密に行うことでお互いが顔の見える関係で地域支援を遂行していきたいと考える。

今年度も昨年度に引き続き、保護者との連携を図るため、また支援方法の統一を図るためにペアレントトレーニングを実施した。ペアレントトレーニングを実施する中で保護者自らが児に対しての行動面、理解面への気づきを職員やペアレントトレーニングに参加した保護者に伝え家庭での改善策を考え実施するなどする姿がみられた。保護者が良き理解者になることで児と親の関わりが向上し支援の方向性を統一し実施できる家庭もあった。また要望のあっ家庭に対しては園や学校訪問を行い、支援に必要性等を伝え情報共有を行った。

保護者勉強会に関しては年に 2 回、同法人の臨床心理士同席のもと、勉強会と座談会を行った。普段相談できない内容等を専門職や療育者に話をすることができる機会とあり多くの方が参加された。座談会に関しては保護者間の関係性の構築に努めた。そのことにより保護者同士の横のつながりが構築され、職員だけでなく同じ悩みを持つ保護者とも情報を共有することができたという意見を聴くことができた。かたつむりの会に関しては前年度と同様に 2 か月に 1 度の実施であった。ちらしを作成し配布することにより様々な地域や年齢の児の保護者が参加されるようになった。その中で保護者同士の関わりを始め、保健師や療育者と共に問題を解決できる環境となってきた。今後も地域を基盤とした支援を実施していきたいと考える。

療育の現場では、療育会議を実施する中で、個別課題を立てるためのアセスメント方法を検討し直したり、そのアセスメント方法を実施したりする中で、職員の子どもを見る目を養うことができた。次年度に関しても上記の事項を継続していきたいと考える。

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
サービスの質の向上	アセスメントに基づく計画的な支援の実施と評価に関しては毎月の療育会議で実施。 毎月、OJT や目標管理活動に関しての面接を実施し研修に関しての目標や参加後の復命を実施。 その他の目標に関しても目標は達成した。
家族支援	ペアレントトレーニングや保護者勉強会、家族参加型

	療育、懇談等、目標に掲げたことは達成した。
地域との関係強化	園・学校訪問・健診やスキップ教室への参加に関しての目標は達成した。その他、ちーむ玉島修活プロジェクトや玉島母子保健連絡会、かたつむりの会のサポート等を実施し地域との関係機関の強化を図った。

（説明）

・健診への派遣は随時行っている。また健診では健診の児の姿や親の姿、またきらり玉島の利用児の姿や親御さんの様子を随時報告。保健師さんより訪問や健診での姿を共有し地域連携を図っている。
・新採用職員や一般職の階層に関しては、事業所間交流の一貫として倉敷学園ときらり水島で実習を行った。目的としては児童発達支援センター(倉敷学園)や児童発達支援事業所（きらり水島）の児の支援方法を学ぶ機会とした。
・かたつむりの会は随時参加をし、地域での情報共有を行った。主には家庭での過ごし方やきょうだい児への関わり方の工夫についての座談会である。かたつむりの会の参加者は発達障がい児をもつ親と保健師さん、きらりの職員の参加となっている。
・ちーむ玉島修活プロジェクトに関しては、くらしき作陽大学の橋本正巳先生をはじめ、玉島保健推進室の保健師、玉島・真備地区の療育機関が集まり、療育に関しての認識を揃えるための話し合いを実施した。

中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
訪問支援の充実	訪問支援、電話連絡を関係機関へ実施した。 園・学校訪問：７件　　園・学校からの見学：６件
利用者満足の向上	第三者評価受審後、改善に取り組んだ。 行事実施後、保護者アンケートを実施し改善に取り組んだ。
提案制度の活用	規定の書式を活用しコミュニケーションを図った。
人材育成	階層別研修や外部研修に参加。また事業所内勉強会も実施。

（説明）

・訪問支援では、日程を調整した後、実施。当日の様子やきらりでの様子、園での普段の姿を園の先生と共有した。訪問時の内容は、保護者の方に口頭と書面で伝えている。その後、園に書面を送付している。園訪問を実施する中で、園と家庭またきらりで情報を共有できることで支援の充実化を図ることができたケースが多かった。
・第三者評価を受審した。その中での改善点（環境改善やサービス面の書類等の改善）を洗い出し、本部へ報告。改善を実施した。また改善計画、報告においては定期的に報告。平成 27 年３月８日に実施された第三者評価報告会で発表している。
・勉強会については、事業所職員が行うものと、専門職に依頼して行う者を実施した。前期に関しては「接遇」「コミュニケーションに関して」等、対人関係の基礎の勉強会を実施した。また専門職の勉強会に関しては保護者を交え「療育とは」という基礎部分を伝えた。保護者の方は「学びたい」という知識が強く積極的に参加されていた。またその中での座談会等では横のつながりを大切にされていた。次年度も専門職と事業所職員が合同で勉強会を行うことで、普段の児の様子と専門性を交えながらそして保護者間の交流を大切にするという視点での勉強会を実施していきたいと考える。
・階層別研修ではキャリアパス制度についての説明、そして実施をしている。今後も引き続き

行っていく必要性があると考える。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	8	6.4	24	24	220	220	±0
５月	8	6.4	24	24	250	233	-17
６月	8	6.4	25	25	250	249	-1
７月	8	6.4	27	27	260	267	+7
８月	8	6.4	22	22	240	220	-20
９月	8	6.4	24	24	250	247	-3
10 月	8	6.4	27	27	260	261	+1
11 月	8	6.4	23	23	240	243	+3
12 月	8	6.4	24	24	230	232	+2
１月	8	6.4	23	23	230	234	+4
２月	9	6.9	23	23	230	245	+15
３月	9	6.9	24	24	240	269	+29
合計	8.1	6.5	290	290	2,900	2,920	+20

（説明）

上期の実績に関しては目標を下回った月もあるが下期に関しては上回る月もあった。今年度の実績に関しては年間の目標である 2900 人は達成した。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
家族見学週間（家族見学週間中に療育週間も実施。）	毎月 1 週間	利用者・家族・関係機関	利用者の家族に実施した。療育が初めてという家庭の参加が多くみられた。その都度、その児にとって必要なことを伝えている。共通理解を図る良い機会となってい

			る。
懇談の実施	５月～６月 ９月～10月	就学児保護者就園児保護者対象 （送迎時に行う。）	就園・就学についての流れや就学先の現状把握、また児の共通認識を深めることに繋がった。
専門職を招いての勉強会	７月、２月	利用者保護者対象 場所：きらり玉島で実施。 発達障がいについて	専門職を招いての実施ということもあり療育熱心な保護者の方は質問等をする等知識向上に努めていた。
夏まつり週間	８月第１週	利用者・家族・職員 夏まつりの実施。 場所：きらり玉島	地域での夏祭り等を十分楽しむために事前に夏祭りとはどんなことをするのかを体験してもらう機会を設けた。事前に内容を伝えることで夏祭り等の地域行事に参加できたという意見等をいただいている。
ペアレントトレーニング	９月～12月	チーフ・保護者	保護者がよき支援者、理解者となることが大切であるということが保護者に伝わる良い機会となった。
家族療育	５月 10月	きらり玉島で実施。	療育とは何かという基礎的なことを伝えている。視覚的手がかり等の意味について伝えた。その意図がよくわかったと意見をいただき家庭で汎化できている家庭も増えた。また一人一人の家庭と話をし、関わり方への改善について助言している。
かたつむりの会	２か月に１度	保健師、保護者、きらり職員で地域の情報共有を実施。 玉島発達障がい者支援センターで実施。	地域の情報共有をすることや、先輩ママさんの話を聞く機会があることから、将来のことを考える良い機会となっている。
倉敷学園の集い	11月	倉敷学園の集いに参加	職員１名が参加した。数名がきらり玉島から参加した。

4. 保護者（家族）との交流事業

・家族見学週間
毎月実施している。祖父母や父親の参加もみられた。
・就学児懇談：（5～6月、10月～11月年長児対象）
就学についての不安感等を聴き保護者や児またその家族にとって最適な就学先を決める良い機会となった。
・就園児懇談（９月）：次年度の就園先を決定した。（地域の幼稚園もしくは保育園、その他児童発達支援センターへの検討）保護者の意向を聴きながら児にあった就学先を決定することができた。
・専門職を招いての勉強会
普段の療育の先生の立場と違った専門職の視点での勉強会を実施した。保護者も専門職の視点での療育の考えを求めていた。専門職と保護者が関わることができる大変貴重な機会となった。

・ペアレントトレーニング
　療育とはただ通うだけでなく、家庭でも実践できるということ、また親御さん自身の気づきこそが児への最大の支援の元となるということを伝える良い機会となった。
・保護者対象事業所内勉強会・家族療育
　療育とは何かという基礎的なことを伝えることができた。家族療育では普段療育姿を見学する機会の少ない祖父母・父親の参加を募った。またその中で座談会を実施することで横とのつながりができ、療育に対して前向きになった保護者の方もおられ良い結果が得られたと実感している。
・かたつむりの会
　発達障がい児をもつ親と保健師、きらり職員の参加である。先輩ママさんがいることで地域で生活していくにはどのようなことが大切であり必要かということを話し合う良い機会となっている。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	49 件 児の特性や環境の変化に対するひやりはっと。
意見・苦情	未対応 0 件	1 件 土曜日に学校があるため、別日に振り替えてほしい。
事故	発生 0 件	無し。

上記を受けての具体的改善活動

・ヒヤリはっとについては本部に現状を報告し再構造化を行った。
・意見・苦情においては事業部会議で報告した。また振り替えを行った。

6. 地域貢献活動・地域との交流事業

・園、学校への訪問
　保護者の要望により実施している。

・倉敷学園の集いに参加した。

・ホームページを更新した。発達支援事業部で担当）

・行政機関や利用児の所属園や学校に対しては広報誌を配布することができている。しかし、近隣の方に広報誌等を配布することはできていない。

7. 事業所研修計画

（1）. 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
事業所間実習	随時	常勤職員	他事業所の支援を目にすることにより普段の支援方法についてさらに考え直す機会となった。

8. 防災安全衛生活動

・地震、火災、不審者対応訓練を実施。
・倉敷市の防災マップを基に、大災害に向けて避難経路等の確認をした。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・第三者評価を受けて、設備を整えた。

10.その他特記事項

・特記事項なし。

11.総括及び次年度の課題

利用者実績は児や保護者の体調不良や園行事等もあったが振替を行うことで上期と下期の目標である 2,900 人を達成することができた。

今年度はキャップ不在であったため現場運営において話し合いを繰り返し行うことで一人ひとりの支援に関して話し合い支援を実施することができた。また、今年度は「地域との連携」を主とし玉島保健推進室の保健師をはじめ、ちーむ玉島修活プロジェクトやかたつむりの会に参加し、療育に携わる全ての人と話し合いを行い横の繋がりを強化することができた。今後も地域との連携を大切にしながら、継続した地域連携体制を構築したいと考える。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：　きらり中庄　】【事業所責任者:　中西　裕子】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

「サービスの質の向上」について、H25 年度に受審した第三者評価の助言を受け、管理者間で改善を行った療育に使用している書式（アセスメントシート・療育記録連絡帳）を、４月より導入した。それにより、“基礎的な特性理解”や“評価する視点を持つ”という療育における基礎的な考えや知識、視点や支援に対する根拠の必要性に職員間で共通理解がもてつつあると感じた。一方で、職員の業務負担も増えている現状である。次年度においては、きらり５事業所での書式統一や現場レベルでより活用しやすい書式の改善、特性以外の視点も盛り込んだアセスメントシートをきらりへ導入することが必要だと考える。

「家族支援」については、今年度もペアレント・トレーニングや保護者向け勉強会、座談会等を実施した。今年度は、学童の保護者も勉強会へ参加したことで、少し先の見通しが持てる座談会となったという感想が多く挙がった。今後も、保護者との協同関係を強化する支援や保護者が共感的サポートを得る機会を作ることは必要だと考える。

「地域との関係強化」について、所属機関訪問・きらりへの見学の機会を通して、地域に生活する利用児の強みや弱み、それを取り巻く環境、保護者の思いを今までより深く知る機会とした。訪問後に連携ノートや電話、懇談等の密なやりとりを行うことで、利用児についての情報をタイムリーに共有し、共に考える機会へ繋がった。一方で、今年度は虐待の可能性のある利用児ケースが多いことから、保健師等の関係機関と密に報告・連絡・相談を行った。今後も、地域全体で利用児や家族を支援することを目標に、「顔の見える」関係を築いていくことは大切だと考える。

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
療育の充実	・４月と 10 月をアセスメント期間と設定。きらり共通の書式（アセスメントシート・療育記録連絡帳）を活用し、『日常的に評価する視点』を育み、評価から計画作成の流れで支援を実施した。 ・第三者評価での助言を受け、きらり間において書式の統一化の実施を進めた。同時に、きらり 5 事業所の管理者間で話し合いつつ職務遂行要領書の見直し、不足している要領書の作成を行った。今後は、評価内容の見直しやセンターときらり間での書式の統一が必要である。
人材の育成	・それぞれの職員の段階に応じた法人内・外の研修への参加を促し、学ぶ機会を設定した。 ・きらり５事業所が集い、合同勉強会を年３回実施

	したことにより、きらりにおいて必要な知識を事業所の垣根を越え、互いに学び合う機会とした。

（説明）

『サービスの質の向上』を目標とし、第三者評価の受審により、挙げられた改善事項について取り組みを進めた。統一した書式を活用したり、マニュアルの整備を行ったりすることにより、共通の内容でのきらり合同勉強会の実施が可能となり、きらり職員間での共通言語が増えた。本年度、実際に使用した結果を受け、次年度からは現場の現状に合わせて定期的に見直しや改善をしていくことが必要である。

人材育成について、研修体制は整いつつあるが、人材の定着や働きやすい職場環境にはまだ結びついておらず、今後の課題でもある。同時に、チームアプローチの視点や実施する上での能力や方法についても学ぶ機会が必要だと考える。

目標（値）	施策及び結果
保護者とのコミュニケーションによる協働関係の構築	・ペアレント・トレーニングや座談会を実施することで、保護者同士が共感的サポートを受ける機会とした。同時に、懇談や日々の引き継ぎ等における保護者とのコミュニケーションの場や、保護者向け勉強会において、保護者がチームの一員として特性や支援を理解し、参加できる内容に工夫を行った。その結果、実際に家庭での関わり方や伝え方、環境を工夫したという報告が増えた。
家族ニーズに寄り沿ったサービスの提供	・就学前懇談や個別懇談、日々の引き継ぎ等において、保護者と話した内容を基に、利用児の生活に根差した日々の療育やサービスへの工夫に繋げた。 ・勉強会等の行事後に、保護者へ感想を聞く機会（アンケート）を設けた。感想や意見を聞くことで、ニーズに応じたサービスの提供へ繋げることができた。

（説明）

『家族支援』を目標とし、日々の引き継ぎでの懇談も含め、保護者とのコミュニケーションを行った。内容に関しても、一方的にきらりで実施した内容を報告するのではなく、家庭や地域での利用児の様子を聞き取ったり、チームの一員として家族や担任の先生が実践できる方法を一緒に考えたりした。今後も、懇談等の機会において、相互性のあるコミュニケーションを図っていくことが大切であると考える。

目標（値）	施策及び結果
機関連携の強化	・訪問を実施する際には、書面を介して訪問の目的を明確にし、家庭・所属機関・きらりの三者で共有した上で実施した。その結果、それぞれの立場で訪問に対しての目的を意識することができ、担任との懇談時や保護者への報告の際においても、目的に沿って意見交換を行うことができた。 ・健診やスキップ教室に参加することで、利用児以外の地域で生活する親子と関わり、視野を広げる機会となった。同時に、地域の保健師と密に情報交換を行う場にも繋がった。
実習生・ボランティアの受け入れ	・実習生を受け入れた際、マニュアルを活用することで個人情報の保護や健康・安全管理が確保できた。

（説明）
『地域との関係強化』を目標とし、統一された書式やマニュアルに応じて実施した。それにより、管理者以外の職員も共通した目的を持って、さまざまなサービスや業務を実施できる環境が整った。同時に、訪問に対しても、きらり職員が一方的に実施する場ではなく、家族や関係機関も共通した目的を持ち、利用児について情報交換を行う場に繋がった。
また、虐待のリスクのあるケースにおいて、地域の連携は欠かせない。健診の機会を通して、地域の保健師とタイムリーに情報交換を行うことができ、顔の見える関係に繋がったと考える。
実習生やボランティアの受け入れに関しては、情報発信や受け入れ体制の強化が必要である。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
訪問支援の充実	・利用児の在籍する所属機関への訪問や見学の受け入れを実施した。同時に、担任との面談や実施後の訪問記録作成・配付、保護者への報告（懇談）を実施した。その結果、保護者・所属機関・きらりの三者で、共通のねらいに沿って子どもについての情報交換を行うことができた。
利用者満足の向上	・第三者評価による助言を受け、きらり事業所間において統一された書式（アセスメントシート・療育記録連絡帳・職務遂行要領書）の活用を開始した。その結果、『日常的に評価する視点』を育み、評価から計画作成の流れで支援を実施することができた。 ・毎月発行の『きらり通信』へ意見欄を設けると同時に、玄関横へ意見箱を設置した。同時に、行事後に保護者アンケートを実施し、意見を聞く機会を設けた。保護者の感想や意見を聞くことで、サービスの見直し、改善に繋げることができた。
提案制度の活用	・事業所内においては、職員連絡ノート等を活用し、提案や意見を職員間で共有し、コミュニケーションの活性化を図った。 ・発達支援事業部においては、発達支援事業部会議およびチーフ会議で報告・情報共有を行った。
人材の育成	・個々の職員と面談時に目標を話し合った。そこで、法人内・外の研修への参加や事業所間交流、勉強会の講師の経験等を勧め、実施した。

（説明）
地域で暮らす利用児がどのように生活しているのかを知り、サポートする機会として訪問支援や見学の受け入れを年間通して実施した。その中で、きらりの場面だけでは気づくことのできなかった利用児の強みや弱みを三者（家庭・所属機関・きらり）で情報共有し、今の課題や必要な支援を整理することができた。
統一した書式を活用することで、事業所によって多少特色はあるものの、どの事業所でも共通したサービスを受けられるという利用児や保護者の安心へ繋がった。
同時に、共通するサービスが増えたことで、合同勉強会を通してきらりの職員が一緒に学び合うことができ、共通言語も増えた。結果的に、利用者満足の向上へ繋がったと考える。
アンケートや意見欄・意見箱の設置により、保護者の意見を聞く機会を設けた。それに加え、日々の引き継ぎ等のコミュニケーションの機会も活用し、保護者の意見に耳を傾けたり、療育中に聞き取った利用児の言葉や考え、行動に潜む背景を代弁したりすることで、きらりにおける一方的な支援ではなく、利用児の現状（段階）に応じた支援の提案や提供に繋げた。
人材の育成に関しては、療育や支援に関する視点だけではなく、チーム支援の考え方や方法、福祉人としての在り方等に関しても、現場に入って実際にモデルを見せることや、個々の段階に応じて対話しつつ進めてきた。多くの人材を失ったものの、1 年間かけてそれぞれの職員が 1 年前と比較すると学びを深めることが出来たと感じる。今後は、事業グループや法人全体で育成することも必要だと考える。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	4	5.8	24	24	230	174	−56
５月	4	5.8	24	25	230	179	−51
６月	4	5.8	25	25	250	185	−65
７月	4	6.0	27	27	242	230	−12
８月	4	7.0	22	22	198	202	4
９月	4	6.0	24	24	207	217	10
10月	4	6.0	27	27	232	213	−19
11月	4	6.0	23	23	199	200	1
12月	4	6.0	24	23	207	199	−8
１月	4	5.1	23	23	199	182	−17
２月	4	5.1	23	24	199	195	−4
３月	4	4.9	24	24	207	214	7
合計			290	292	2,600	2,390	−210

（説明）

１年を通して、実績未達成の月が続いた。契約者数は全ての枠を平均すると 5～6 人で安定していたものの、年度当初は、契約はしているものの利用実績のない児が複数いたこと、年間通して保護者の仕事や家庭の事情、体調不良での長期入院等により安定した利用ができなかった児が複数いたこと、療育に対する保護者の必要性を高められず欠席が多いと同時に、振替利用を希望しない児が多いことが原因として考えられる。

また、職員の体調不良、入退職が続き、職員体制も安定しなかった。個別対応の必要な児が多い事業所の現状もあいまって、新規契約者を増やすことは困難であったと考える。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
保護者向け勉強会	5/30 6/4 11/28	・療育について ・就学について （倉敷学園主催） ・サポートブック作成について	きらりでの療育や保護者等と取り組んだ支援について、実践例を用いて説明したり、実際にその場でサポートブックを作成したりすることで、特性理解、支援の重要性や保護者や関係機関も含めたチームアプローチの重要性を伝える機会となった。
座談会	5/30 11/28	「家庭での取り組みについて」	２回目は、学童利用枠の保護者も対象とした。職員は、参加者全員が話をできる為のサポート役に努めた。保護者自身が不安や思い、体験談等を話すことで、周囲が共感したり、諭したりする雰囲気が自然と発生し、共感的サポートを受ける機会となった。
家族療育	7／21	幼児を対象とした家族療育の実施。	参加者は３組であった。職員の関わりを参考にしたり、ねらいに沿って関わったりすることで、家庭で活かすヒントが得られたという意見が挙がった。
みんなのつどい	11／2	利用児・家族、地域に向けての祭り。	在園児（特に次年度、センター利用希望の児）など、家族で参加していた。
ペアレント・トレーニング	5～7月 （全５回）	応用行動分析に基づき、保護者が子どもの行動観察や具体的な支援の方法を講義・グループワークを通して学ぶ。	１ 名の保護者が参加した。 共感的サポートを受ける機会も多く、他の保護者の取り組みを参考にし、家庭でも実践してみようという勇気を得られた保護者もいた。

4. 保護者（家族）との交流事業

・保護者向け勉強会

年２回開催し、「療育について（実践例）」、「サポートブックを実際に作成する」といった内容で実施した。年度当初に実践例を交えて療育についての説明を行うことで、保護者には、特性理解や支援の意味に対する理解を深めるだけではなく、家庭や地域生活におけるヒントを持ち帰ってもらうことをねらいとした。サポートブック作成についての勉強会は、就学や就園、地域資源を活用する利用児が安心して生活できる為のコミュニケーションツールとして紹介した。実際にその場で作成した一部を保護者同士で交換し合い、意見交換することで相手に伝わる表現方法への気づきや他者に認められることで作成する意欲へ繋げる様に配慮した。

・ペアレント・トレーニングの実施（年１回クール/各地区）

前期に、栗坂拠点にて１名の保護者が参加。記録をとる作業を通して、細やかに日ごろの観察を行ったことで子どもの行動の背景について改めて考える機会となった。同時に、他の保護者との会話の中で共感的サポート（共感や励ましを受ける機会）を受ける機会も多く、保護者の安心や自信に繋がったようである。

・家族見学週間

月１回、見学週間を設けてきらり通信で毎月、保護者に参加を呼び掛けた。特定の保護者が見学週間を利用して見学をした。見学週間の意図を継続して周知すると同時に、受け入れ体制を整えることにより、保護者が見学して良かったと感じる為の内容の充実を図ることが必要であると考える。

・家族療育

７月に、制作と運動サーキットを実施した。参加率は低く、低年齢の利用児と母親、３組の参加であった。活動を一緒に行う中で、その都度職員が環境設定の工夫、支援や関わり方のポイントを保護者へ伝えるように配慮した。参加した保護者からは、ヒントが得られたという感想が挙がった。

・座談会

座談会は年間２回実施した。２回目は学童枠を利用している保護者も参加できたことで、少し先の見通しが持て、安心に繋がったという感想が多く挙がった。今後も、保護者の意見に耳を傾けつつ、共感的サポートを受ける機会として実施していきたい。

・就学児懇談

年間２回実施。２回目は希望者としたものの、多くの保護者が希望している。一人ひとり時間を決めているものの、多くの保護者が１時間～1 時間半程度話をしている。一人ひとりと時間をかけて話をする機会を持つことで、就学だけではなく、普段得られることのなかった情報も得られ、保護者の思いに耳を傾ける貴重な機会となった。

・クラコトフェスティバル

11 月２日に開催し、次年度にセンター利用を考えている利用児や家族が多く参加していた。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	101 件 ① 粗大運動エリア（ホール等）におけるヒヤリはっと ② 療育室内におけるヒヤリはっと ③ 事務におけるヒヤリはっと（配布物渡し間違い等）
意見・苦情	未対応０件	５件 ① 職員の対応について ② 伝達不足について（対保護者、対職員）
事故	発生０件	10 件 ① 転倒による頭部や目・口付近の打撲による医療受診

上記を受けての具体的改善活動

＊毎月、前月の要因を分析し、職員間で話し合いを行い、改善に努めた。

＜ヒヤリはっと＞

①ホールにおけるヒヤリはっと

粗大遊具を使用する場面では、利用人数の多さ、全体を把握することの困難さ、子どもも興奮が高くなり、予測困難な状況になりやすい。遊具の種類によって気をつける点をＫＹＴによって洗い出しを行い、注目する視点を育んだ。同時に、人数や場所、配置の調整を行うことで、安全に参加できる状況の確保へ努めた。

② 療育室内におけるヒヤリはっと

遊びの共有の難しさによるトラブルや、扉への指詰め等のボディーイメージや行動統制の困難さ、環境の整備不足による怪我が多かった。遊びの場面では、個々の発達段階に応じた環境設定や活動内容に配慮し、遊びの支援やコミュニケーション指導を行った。指詰めについては、月１回の安全点検の機会に限らず、随時日常的に点検や改善に努めた。同時に、職員間で事前に利用児の行動特性を周知すると共に、利用児へ危険予測を伝えるように配慮した。

③事務におけるヒヤリはっと（配布物渡し間違い等）

療育中にイレギュラーな対応が発生した際等に、引き継ぎ時間までに記録や配布物等の準備が整えられず、来所した保護者を待たせることが多く発生した。その際、焦りから確認不足や連携不足等の悪循環となり、結果的にヒヤリはっとも多く発生した。デイリー（療育内容や配置等）の改善や複数の目で確認する意識を高めた。

＜事故＞

① 転倒による頭部や目・口付近の打撲による医療受診

粗大運動時等に、バランスを崩して転倒。頭部や目・口元を打撲するケースが多く発生した。

看護師の助言を受け、保護者と共にかかりつけ医や川崎医療福祉大学付属病院を受診した。頭部の場合は、レントゲンを撮ることで、細心の注意を払った。いずれも、継続的な治療の必要性は無し。

→遊具使用時の注意点や利用児の行動特性について、職員間で繰り返し打ち合わせの場面で周知した。同時に、利用児に対しても、ボディーイメージを高める為の支援等を行った。

＜意見・苦情＞

① 職員の対応について

職員の不適切な関わりにより、利用児がきらりへ来ることができなくなった。その期間が長く続いている状況に対して、保護者も利用児も困っているという訴えがあった。

→作年度に発生した状況を保護者、職員の双方から状況を確認した。今後も療育が必要である利用児の為、安心して利用を再開できる為の方法や別の支援機関の紹介等、保護者へ提案を行った。結果的に、利用児は幼児指導教室の利用をすることとなった為、きらりを前向きに終了できるように、終了式を行った。職員全体に対して、再度行動特性や障がい特性の理解を深め、利用児の思いに寄り添って接することの大切さを指導した。

② 伝達不足について（対保護者、対職員）

対保護者については、①振替利用日の確認・把握・伝達不足により、行き違いが複数件発生した。また、②併用利用の説明を口頭にて契約時に行ったが、伝わっておらず、行き違いが発生した。

→①に対しては、保護者とやりとりしつつ必ず書面に残し、確実に業務日誌へ書き移すことを周知徹底した。同時に、保護者へも欠席連絡や振替希望については、書面で知らせて頂くように依頼した。②に対しては、伝達方法に配慮の必要な保護者であることを把握できていなかったことが要因である。一度に伝える情報の量や方法（書面に残す　等）に配慮を行うことを周知徹底した。

対職員については、保護者との引き継ぎ場面等における会話の中で、今後の支援の方向性に関わる内容を職員間で周知できておらず、保護者から再確認されることが多く発生した。

→伝達不足により、保護者の不信感に繋がることを指導した。記録に残す習慣や職員間で周知することの大切さを周知徹底した。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・みんなのつどい

１１月２日に倉敷学園が主催し、管理者が参加した。次年度センター利用を検討している家族が多く参加していた。全体的にステージ、模擬店など楽しんでいるようであった。

・スキップ教室への職員派遣（9～12 月）

一般職職員（指導員）が参加した。療育につながる前の子どもと保護者と接する機会がこれまでなかったため、子どもの行動観察により気づきを得る視点や、保護者とのやりとり、スタッフ同士のケースカンファレンス等を経験できる機会となった。

7. 事業所研修計画

（1）. 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
事業所内勉強会	５月 11 月	全職員 （アルバイトを除く）	発達障がいに対する基礎知識ときらりにおける支援への理解を深めた。ＫＹＴへの意識を高めた。
きらり合同勉強会	５月 ６月 11 月	主に正規職員 （５月は、嘱託Ｂ職員： 宮﨑・木村・小野も参加）	太田ステージや療育記録連絡帳の記述方法や評価の視点、虐待対応マニュアル等に対する理解を深めた。
事業所間交流	11 月	筒井	事業所間実習へ参加することにより、支援についての共通理解を図ることができた。同時に、自分の事業所にない取り組みを知り、視野が広がった。
実践発表	２月	正規職員	効率的な引き継ぎの実施という視点から、引き継ぎ内容の充実（保護者支援）についての取り組みを発表した。

8. 防災・安全・衛生活動

倉敷学園の防災計画に沿って、月に１回防災訓練を実施した。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

利用者実績については、７月に実績の補正を行ったにも関わらず、年間を通して利用が安定せず、大きく未達成となった。利用者側の理由による欠席だけでなく、職員の入退職による不安定な職員体制、個別対応が必要な児が多い状況に、現状の職員体制では対応しきれず、安全面を重視した受け入れ状況や契約人数となったことも事実である。個別対応を含めた療育運営ができる職員の育成と、環境の設定を行うことが課題である。次年度は安定した利用者人数を確保するため、児の特性

や利用スタイルを把握し、利用児の調整を早い段階で行っていくことが必要である。
　また、４月より第三者評価の受審により、挙げられた改善事項について取り組みを進めた。統一した書式を活用したり、マニュアルの整備を行ったりすることにより、共通の内容でのきらり合同勉強会の実施が可能となり、きらり職員間での共通言語も増えた。同時に、アセスメントから支援への流れを構築・実施した。その結果、職員の視点や意識は変わりつつある。
次年度においては、きらり５事業所での書式統一や現場レベルで、より活用しやすい書式の改善、特性以外の視点も盛り込んだアセスメントシートをきらりへ導入することが必要だと考える。
　さらに、虐待リスクのあるケースに対して、今後も地域と顔の見える関係を築きつつ、家族をサポートしていくことが必要だと考える。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：きらり水島　】　　【事業所責任者:　福田　里美　】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
① 療育の充実	・療育計画及び制作などを職員担当制で立案し内容が充実した ・今年度からの連絡帳及びアセスメントシートについては、上手く使用できていなかったので次年度の課題とする ・療育室の環境整備として、相談室や引き継ぎなど保護者とコミュニケーションの充実させる
② 人材育成	・嘱託及び派遣職員も全員参加で職員会議の時間を有効に使い、発達障害支援、療育計画などの研修実施し知識のスキルアップを図る ・内外部の研修に積極的に参加し、職員全員に復命報告を実施した。
③ 保護者支援	・保護者対象に勉強会（事業所独自 2 回、クムレと合同 2 回）実施 ・きらり通信で、発達支援にかかわる情報提供をする ・家族見学週間を実施（毎月/1 週間） ・ペアトレ実施 ・懇談の充実
④ 機関連携の強化	・園訪問を実施し、家族及び地域の園との連携を強化 ・小ざくら保育園とは、定期的に一体化会議を実施し連携の強化を図った ・健診、スキップ教室など計画的に職員派遣を実施 ・実習生、ボランティアの受入れ要請はなかった

（説明）

人事異動の関係で新メンバーでのスタートとなりまずは、保護者との信頼関係を築くことを優先に取り組む。また、嘱託及び派遣職員を対象に基礎的な勉強会を実施し、職員のスキルアップにつながった。連絡帳、会議、園訪問等を通して積極的に機関との連携作りに努める。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
療育の充実	・連絡帳及びアセスメントシートの活用ができなかった為、次年度 4 月より勉強会を実施し使用していく予定。
関係機関との連携	・園訪問については、昨年度に比べ多く実施したり、連絡帳を改定し積極的に連携を図ったり、情報共有が出来た。引き続き連携を継続する。 ・小ざくら保育園とは、ケース会議や支援計画も合同で立案し連携を強化したい。
家族支援の充実	・第三者評価における指摘事項であった為、保護者とは引き継ぎの際も席を設け積極的に信頼関係を築いた。 ・保護者対象の勉強会後に座談会で情報交換、共有しながら、家族支援を行った。年度末の保護者アンケート結果でも高く評価された為、次年度も実施予定。
人材育成	・事業所内研修に積極的に参加し職員はスキルアップした。次年度は、嘱託職員もきらり合同勉強会にも参加職員のモチベーションも向上させていきたい。 また、権利擁護および虐待研修も参加予定。

（説明）

人材育成に取り組むことで、質の高い療育の提供に繋がる為、事業所の全ての職員が研修に参加出来る様に職員会議の時間を有効に使用した。研修に参加することにより、職員のモチベーションが向上し離職率を減少させたいと思う。

家族支援については、昨年度と方法を変えての勉強会開催、連絡帳、懇談を実施し保護者からも好評であった。アンケート調査をすることで保護者の意見を聞き入れ次年度の実施に反映させていきたい。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定員	現員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	3	3	21	21	180	161	45.9%
５月	4	4	24	24	230	223	97.0%
６月	6	6	25	25	250	258	98.5%.4
７月	6	6	26	26	270	292	106.6%
８月	6	6	22	22	240	237	97.9%
９月	6	6	24	24	255	265	104.5%
10月	7	7	26	26	285	278	104.5%
11月	6	6	23	23	245	243	96.8%
12月	6	6	23	23	245	244	110.4%
１月	6	5	23	23	235	246	96.8%
２月	6	6	23	23	235	246	110.4%
３月	6	6	24	24	230	270	11.8%
合計			284	284	2,900	2,963	125.0%

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

年度始め４月については、職員配置が不足していたこと及び利用者の契約ができていなかったことなどから、実績は達成に至らなかった。その後、職員の充足、利用者の契約出来たため実績は除々安定し年間の計画どおり達成できた。昨年度との比較については、４月は母子通園の運営だった為比較対象が異なる。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
保護者勉強会	6、９月	きらり水島の紹介 就学の流れ 準備アイテム	勉強会、座談会を実施した為、保護者との信頼関係が円滑になった。また、保護者同士のつながりが少しであるがあった
クムレ合同勉強会	11、３月	メンターの体験話	メンターの体験談の内容で興味深く参加されていた

4. 保護者（家族）との交流事業

事業所独自の勉強会では、座談会やアイテム作りとして工作時間を設定した為、保護者同士なごやかな雰囲気で好評であった。個々に悩みや家庭での困り感など情報交換で出来ていた。保護者を対象に、専門書の貸し出しやきらり通信での発達障害についての情報提供など行った。

保護者のアンケート結果でも、家庭における子どもへのかかわり方の参考になったという意見も多かった。児童発達支援センタークムレとの合同勉強会にも多くの方が、興味も持ち参加できた。

合同ということで、企画、謝礼、会場などお世話になったが、次年度はきらりも交代で主体的に企画などしていきたい。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	65 件の報告 ・子どもの衝動的な行動や活動中のトラブルが原因により他児に手を出すといったものが多かった。トラブルや危険（問題）行動、子どもの特性などを職員間で危険予知しながら未然防止できるようにしていきたい。 その為に、子どもの特性理解、様子、ＫＹＴなど職員間で情報共有できるよう周知していく予定。 ・電話対応において、他事業所への転送方法など手順書を作成し周知した。
意見・苦情	未対応０件	８件の発生 保護者へのお知らせなど手紙の配布、掲示、口頭でお伝えするが、勘違いや理解の違いなどあり十分に伝えられないことで誤解が意見・苦情に繋がるケースがあった。伝えるという方法も相手により臨機応変に対応していく必要がある。 保護者からの意見・苦情については即時対応している。
事故	発生２件	目に砂がかかった、目に手があたったというもので２件とも異常はなかったが念の為の受診をしている。行政及び県民局へ報告済

上記を受けての具体的改善活動

職員の入れ替わりも多く、手順書を作成することで視聴覚に伝えられる方法は効果的であった。子どもの特性理解や危険予知などの職員の知識向上の為に、研修を実施することで研修後のひやりなどの発生は減少することもあった。保護者への連絡事項については、紙面での配布、掲示、口頭での伝え方をしているが理解も個々に異なり何度も繰り返し伝える様に努めていきたい。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・ホームページの更新
・広報誌へ記事掲載

7. 人材育成計画

(1).事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
事務研修	５月	福田	就業規則、勤務、服務規律を学んだ
発達検査	７月	井手	検査手法が確認できた
嘔吐処理	８月	相原	実際の手順を確認できた
声かけ	９月	相原	声のかけ方よる子どもの姿の変化を学んだ

8. 防災・安全・衛生活動

・防災訓練（火災・地震・津波・台風など）を想定し毎月/1 回実施
・心肺蘇生法・ＡＥＤの使い方の実技講習を受講
・感染防止対策として、手洗い講習を実施

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・隣接の小ざくら夜間保育園と外壁補強を実施
・療育室の老朽化した棚を購入し、施錠可能なもので個人情報の漏洩を防止する

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

・実績については、計画どおり達成できた。契約者の人数が多く計画書の作成などの負担か多くあった。次年度は、契約者数も調整しながら充実した療育を目指していきたい。
・勉強会と座談会は、保護者との信頼関係及び保護者間の連携も円滑になる為継続して実施していく。
・勉強会のみでなく、保護者が気軽に集える場も企画していく予定。
・事業所の運営方法が、２単位から１単位と変更する為、職員間で協力したり積極的に改善及び提案したり運営を円滑にしていきたい。
・職員間の連携を高め、職員の定着（離職率の減少）を図りたい。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：　　クムレてとて　　】【事業所責任者:　大原久美子　】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
利用契約児のより正確なアセスメントの実施	アセスメントのために、倉敷市共通のシートを作成し、 保護者からの聞き取りの際に使用した。 対象児の発達面でのアセスメントに関しては、サービス提供事業所との連携で取り組んだ。
事業部内職員の人材育成	モニタリングや契約児の引継ぎの際に、スタッフとの情報交換を通して、業務上必要な知識を伝えるように努めた。
保護者とのコミュニケーションによる協働関係の構築	ｲﾝﾃｰｸから、計画立案までやりとりをしながら保護者のニーズを確認しながら相談に応じてきたが、個々に合わせて十分な時間は持ちにくかった。
関係機関との連携の強化	相談支援事業所のプラン作成の対象者が増加し、関係機関も多岐にわたっている。必要に応じて、連絡調整を行っている。
福祉の相談センターの体制整備	月 1 回の頻度で、相談センターの会議を実施。相談窓口を開設し、各事業所で分担して対応している。

（説明）

平成 26 年度 10 月より、福祉サービスを利用する全ケースを対象に相談支援事業所の利用契約を行うようになり、年度後半は、サービス等利用計画の作成が業務のほとんどを占めるようになった。

その為、個々のケースへの細かい対応は難しく、関係機関との役割分担を調整しながら、計画作成とその後の対応を行ってきた。相談支援専門員の増員が急がれる状況である。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
人材の育成	モニタリングや契約児の引継ぎの際に、スタッフとの情報交換を通して、業務上必要な知識を伝えるように

	努めた。当事業所の業務が中心となり、育成に携わる機会は持ちにくかった。

（説明）

福祉サービス提供事業所が多い法人の中で、経験の少ないスタッフが多い状況の中で、スタッフの人材育成の課題は急務と考え、目標に揚げているが、法人内の直接処遇に携わる職員と関わる機会は、あまりもてていないのが実状である。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と（実績）				
	定員	現　員	ｲﾝﾃｰｸ	相談契約	モニタリング	すくすく親子教室	利用者合計
４月		２	３（３）	２（３）	17（１０）	０（０）	22（16）
５月		２	３（３）	３（１）	17（7）	２（２）	23（11）
６月		２	３（３）	３（５）	15（２）	４（４）	21（１０）
７月		２	６（３）	６（８）	15（８）	４（４）	27（19）
８月		２	６（３）	５（４）	14（０）	０（０）	25（7）
９月		２	３（３）	３（１）	18（０）	１（１）	24（４）
10月		２	３（３）	２（18）	15（１）	４（４）	２０（22）
11月		２	３（３）	１（19）	15（１）	３（３）	19（22）
12月		２	６（３）	２（14）	17（０）	２（２）	25（17）
１月		２	６（３）	０（12）	15（１）	２（２）	21（16）
２月		２	３（３）	９（18）	15（１）	２（２）	27（22）
３月		２	３（４）	12（39）	17（８）	１（１）	32
合計			48（37）	（141）	170（39）	25（25）	286（217）

（説明）

平成 26 年 10 月より、相談支援事業所のプラン作成対象者が拡大となり、契約者数が著しく増加している。その為、プラン作成が中心となり、モニタリングが遅れがちになってしまった。

3. 行事報告

なし

4. 保護者（家族）との交流事業

なし

5.［事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	1 件
意見・苦情	未対応0件	なし
事故	発生0件	なし

上記を受けての具体的改善活動

相談支援事業の中では、直接保護者からの意見、苦情が伝えにくい状況が考えられるため、引き続き、意見を引き出せるように取り組みたい。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・倉敷市 1.6 ヶ月健診や 3 歳児健診のフォローの教室（すくすく親子教室、すきっぷ教室）に参加し、必要に応じて活動の提供や相談対応を実施した。

7、事業所内研修計画

なし

8、防災・安全・衛生活動

なし

9、 施設設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

平成 26 年度は、年度途中より、利用する全てのケースに、サービス等利用計画が必要になったことにより、年度当初の計画と実績に大きな違いが生じることとなった。
当事業所では、1 名の相談支援専門員が全てのケースに対応しているため、個々のケースに対して、タイムリーに対応すること継続的なモニタリングができていないという状況が生まれている。
今後は、引き続き、サービス提供事業所との連携をしながら、役割分担をしていきたい。そのためにも、
相談支援専門員、または相談所の増員によって、計画に沿った実践へつなげていくことが必要である。

自立支援事業部

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：あしたば】　　【事業所責任者:　樋口　奉弘】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
あしたばから地域に出向いた、障がい理解の追求	生活介護事業所の移転にともなって、幼児児童対象のサロン活動を桜台団地の住民の方を対象で行なった。定期の開催は出来ているが、参加者の固定もありアピール方法や内容の改善を必要とする。
地域行事へ積極的に参加して、地域住民と交流を図る	地域の秋祭りなどへの販売、参加などは行なっている。しかし地域住民との交流までには至っていない。
日中活動での「地域貢献」を意識した取り組み	日中活動時に「庄の里」へのボランティア活動を月 1 度は定期的に参加して、作業所周辺のゴミ拾いを行なっているが、地域貢献としては不十分な取り組みである。
ボランティア個々の継続した参加と理解	ボランティアの受け入れは、納涼大会など大きな行事の時だけであり、定期的な継続しての受け入れには至っていない。
第三者評価の受審と指摘事項の改善	昨年度の第三者評価を受審してから、今年度には中間報告会や年度末の報告会があり、継続して反省や目標を持った取り組みが行えている。
家族支援、連携の充実	家族会役員との話し合いを理事長・本部長参加で定期的に開催して、家族の思いを発言して頂いた。家族会では他事業所にも参加して頂き情報の提供や班職員との懇談会にも取り組んでいる。又、班での懇談会を今年度から行ない生活介護での状況について意見交換を行なっている。
事業所間の連携を密にする	計画相談では家族への勉強会（倉敷地域支援センター）を依頼し、利用者の介護保険（施設）移行についても、相談事業所（倉敷地域支援センター、居宅介護支援事業所）に入って頂き、家族への説明や情報収集を行なって頂いている。
利用者への統一した支援	今年度は支援や業務の見直し（シンプル化）として、個人おやつや事務所の鍵の開錠、15 時以降の事務処

	理の時間配分の見直し、タイムアウト技法の習得、実施に取り組む。しかし職員や家族への説明と実施に関しての納得が不十分であったこと、個別支援計画での説明の不十分さが問題点として挙がった。今後は、個別支援計画の説明に関するマニュアルの必要性を感じる。
虐待の徹底防止	人権委員会やリスクマネジメント委員会では、事前のアンケートや穴埋め問題、ロールプレイを取り入れて職員会議などで勉強会を行なった。又、管理者から職員会議で虐待・リスクについて報告を行なった。しかし、日頃の利用者に対しての声かけ等で命令口調になるなど、今後の職員への意識付けなどの必要性がある。
職員の支援技能、知識の向上を図る	今年度は法人内の研修及び、法人外研修に多くの職員に参加して、個々の現場の問題点や本人のレベルに応じた研修に外部との交流を含めて参加した。研修内容を職員会議にて報告発表して、人前での発表経験や内容の再確認をしている。
社会性を身に付ける	挨拶や電話対応、職員の身嗜み、又、事務所の整理整頓、職員へ気持ち良い業務の引き継ぎなどを伝えてきた。しかし入所施設の職員にある、施設内だけに通用する社会、社会性の欠如がなかなか拭い取れない。今後も伝え続ける必要がある。
先輩、後輩関係なく意見発言できる職員集団	現場では先輩・後輩が分かるような対応はしない、現場では指摘ではなく情報交換の場である事（リスク・事故が生じる場面は除く）に取り組む。なかなかその場での意見交換ができていないが、班会議などの場では意見交換ができている。

（説明）

26 年度４月から生活介護事業所がさくらだいに移転して、地域との関わりが求められた。地域連携として、さくらだいの住民の方を主にサロン活動を月１度のペースで行なった。

生活介護では前年度までは作業の場と食事の場が同じであり、作業と休憩の区別が付きにくい状態であった。作業所の移転で年度当初は、利用者・職員の混乱はあるものの、日課の見通しが付きやすくなり直ぐに対応できている。又、支援員補助の職員も班を固定する事で、班のまとまりが徐々にできる環境になった。しかし正規職員と嘱託の方との意見交換はできていない。

施設入所では利用者支援に余裕がなく職員の動きも複雑化しており、支援での優先順位が付かない状態でもあった。個人おやつの中止、15 時からの業務の見直しを図るが、業務改善には至っていない。

家族支援では、家族会への終始参加を行ない、情報交換・共有を行なっている。又、家族会役員との話し合いを２ヶ月に一度のペースで行なっている。家族の思いなどを聞く機会が

増えている。

全体を通して、職員の利用者への考察力が低くい為、職員の考察を必要とする書式に変更している。職員の考察から利用者のプランや支援が行なえるように取り組む。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
定員半数の個別化を実施し、施設入所の機能充実を図る	大規模修繕は今期中期経営ビジョン期間では実施不可である。しかし国の政策などから施設入所 40 人定員に向けての定員削減の情報など、家族会への発信を行なっている。今後は現実的に話を行なっていく。
ショートステイの体制設備（専用室の設備）	ショートステイに関しても、入所定員に変更していない為、専用室の確保は出来ていない。国の政策（社会貢献）から大規模修繕と共に、体制が整うと思われる。クムレ・自立グループ・あしたばとして社会貢献の在り方について、深めていく必要がある。
家族と共に考えあう場を設置し、意見交換を行なう（２回/年）	家族支援については、家族役員との話し合いの継続・作業班での家族懇談・個人懇談に取り組む。他事業所への勉強会の依頼や利用者の移行にも協力を得る事ができた。今後は地域移行等の情報交換や「栗の家」の設立に伴って、家族との関わりにも有効利用していく。

（説明）

あしたば大規模修繕は来期の中期経営計画での取り組みとなった。又、ショートステイの体制設備や個室化に関しても修繕に伴っての実施となる。しかし高齢・重度化から２階を利用している方で１階対象とする利用者もいる。特異な障がいから２人部屋を１人で利用している方がいる為、１階の男女１室ずつを間仕切りして、１階の有効利用室数を増やしている。安全性の確保とそれに伴い、ショートステイの部屋（入所者との別室）として設ける事ができた。

大規模修繕では、ただ建物を修繕（綺麗）するのではなく、定員削減（地域移行）から社会貢献としてのショートステイ枠の拡大、個室の有効利用、業務改善（支援・事務）など、見通しを立てた研修参加、事業所での委員会・ＷＴを立ち上げた。法人からのバックアップもあり、徐々にではあるが見通しが持てるものになってきている。来期からの５か年では大規模修繕を目標にあしたばの業務改善（支援と事務）から形あるものにしていく。

家族支援に関しては、家族会の充実（勉強会・リスク・福祉情勢など）と家族会役員との話し合いなど、継続して家族との情報の共有や連携を図っていく。

2. 職員配置と利用者状況

生活介護　　**〔単位：人〕**

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	28.9	35.1	22 日	22 日	1060	1104	104.2%
５月	28.9	35.2	23 日	23 日	1110	1141	102.8%
６月	28.9	35.2	22 日	22 日	1060	1130	106.6%
７月	28.9	34.2	23 日	23 日	1110	1180	106.3%
８月	28.9	34.0	23 日	23 日	1080	1111	102.9%
９月	28.9	34.1	22 日	22 日	1060	1096	103.4%
10 月	28.9	33.6	23 日	23 日	1130	1131	100.1%
11 月	28.9	30.4	22 日	22 日	1060	1078	101.7%
12 月	28.9	31.3	23 日	23 日	1050	1107	105.4%
１月	28.9	31.2	23 日	23 日	1050	1084	103.2%
２月	28.9	31.0	20 日	20 日	1010	943	93.4%
３月	28.9	31.5	23 日	23 日	1110	1114	100.4%
合計	346.8	396.8	269 日	269 日	12,890	13,219	102.5%

（説明）

平成 26 年 4 月は 52 名の生活介護で開始している。8 月に女性利用者が介護保険に移行し、12 月に男性利用者が亡くなり 2 名減となっている。又、12 月と 2 月に男性利用者（2 名）が入院しており、最大 4 名減での生活介護、2 名減での施設入所となった。

しかし例年ではインフルエンザの流行やノロウイルスの流行などで、冬季は計画を下回っていただが、今年度は感染症の流行も無く運営できた。そのことから、27 年 2 月（入院が重なった）以外は、計画通りの実績となった。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
お花見会	４月５日	さくらだい事業所にて、地域の方を招いてお花見会をする（雨天の為室内）	地域の方 12 名、利用者・職員が参加。 お弁当代やジュース代、おでん代などを含め（10 万円）
障害者スポーツ大会	４・５月	フライングディスク・陸上・ボーリングに参加する	利用者 3 競技：8 名程度参加
納涼大会	８月 22 日	利用者・地域の方・ボランティア・職員・家族の交流を深める納涼大会を開催する	地域の方 350 名程・利用者・家族・ボランティア（法人内職員）が参加。 支出：498,961 円
収穫祭	11 月 22 日	芋掘りを体験して、収穫したさつまいもでスイートポテトを地域の方と作り味わう	地域の方 8 名、ボランティア 1 名、利用者 42 名・職員 20 名が参加。
バス旅行	11 月 14 日	3 コース（四国）に分かれて、家族との旅行を楽しむ	利用者 50 人・家族 35 名・職員 34 名 旅行代：709,000 円
クリスマス・忘年会	12 月～3 月	各班で計画した内容で、1 年間の慰労を労い、楽しく過ごす	班毎：利用者・職員参加家族会助成金
餅つき会・正月行事	１月 11 日	餅つきは中止して、書初めなど正月行事を味わう	利用者在園者・職員勤務者
サロン活動	月１回	さくらだいの地域の方を対象に季節感を味わうイベントを行なう	地域の方平均 4 名・利用者平均 5 名・職員平均３名の参加。 年間：60,000 円
ツーデーマーチ	３月 15 日	5Kコースから10Kコースに参加して、歩いて倉敷の街並みや交流を楽しむ	利用者・利用者家族 27 名・職員 16 名参加。 参加費：29,500 円

4. 保護者（家族）との交流事業

・今年度は家族会を９回行っている。例年は奉仕作業・全体会・個人懇談の流れであったが、今年度から作業班での班職員と家族との懇談会を月１班ずつで開催した。家族からは日中の状況や班の目標などが知れてよかったと言われ、家族からも色々な意見が出ていた。「あしたばからのお知らせ」は継続して全家族へ配布・郵送したが、欠席の家族への周知が不十分であった。
・家族会で相談計画などの説明で、他事業所に来て頂き交流の場の充実は図れている。又、個々のケース会議にも他事業所の出席があり、会議の充実も図れている。
・家族会役員との話し合いも、2．３ヶ月に一度本部にて開催し、家族からの色々な意見を聞け、あしたばの現状も話しができ、家族と理事長・本部長との交流も図れ、法人としての話なども聞くことができた。
・納涼大会やバス旅行など行事にも、積極的に参加され家族同士の交流を図ることも出来ている。
・例年通り、週末の帰宅連絡表での施設での状況、依頼事項や家庭での状況や依頼事項などのやり取りを行なっている。来られない家族には電話連絡や家庭訪問を行なうが、情報交換など不十分で有効な関係は図れていない。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	112 件
意見・苦情	未対応０件	11 件（対応済）
事故	発生０件	188 件

上記を受けての具体的改善活動

今年度はヒヤリハットの件数より事故の件数が多く上がっている。事故に関しては確実に書面化できているが、ヒヤリを上げる件数が少なく書面化できていない。又、パソコンでの管理の為、事故やヒヤリの周知が遅れ、是正に関しても、確認や周知が遅い。対策として、朝礼時に前日のヒヤリ・事故の内容と是誌について報告するようにして、掲示板に報告書を掲示するようにした。

今年度は 12 月に男性利用者が亡くなる、入院者が３名、介護保険の移行など、障がい者の高齢化・重度化だけではなく、体調体力面での低下も著しかった。又、嚥下や咀嚼が上手できず、病院に掛かっている利用者も２名いる。

今後は事故やヒヤリはっと、意見苦情の内容も様々なものが上がると思われる。その対応や家族への施設でのリスクの説明をしていく必要がある。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・毎月３回から４回、「庄の里」に、利用者３名職員１名が清掃活動で参加している。
・毎月１回、さくらだい団地住人の方対象に「サロン活動」に取り組んでいる。
・地域のお祭りなどへの出店での参加。

7. 人材育成計画

①事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
リスクマネジメント研修		全員対象	リスクマネジメント委員会を中心に、ヒヤリハットの大切さや事故対応について学んだ
人権、虐待研修		全員対象	あしたば支援の心得やロールプレイや穴埋め問題形式で人権・虐待について学んだ
感染症勉強会		全員対象	定期的に看護師から感染症について、対応・処理の仕方について学んだ

8. 防災・安全・衛生活動

・避難訓練
→５月・７月・８月（職員間の連携・新人職員）、６月・３月（夜間の避難訓練）、
９月・10月・11月・１月（職員間の連携）・２月（生活介護事業所での避難訓練）
・救命救急と蘇生法勉強会
→防災係が主催してロールプレイを含めた救急時の連携と蘇生法を行なう
・手洗い感染講習会
→看護師が中心となって手洗いチェッカーを使用して手洗い講習会を行なう
・ノロウイルス、インフルエンザ感染勉強会
→看護師が中心となってノロウイルス、インフルエンザ流行前に職員対象に感染勉強会を行なう
→家族会にて家族に対しても家庭での手洗い・うがいについて話をする
発熱・感染時の対応方法と施設との連携を伝える
・冬季のジアノック消毒での感染予防
→看護師が中心となって、ジアノックの使用方法、机などの有効的な拭き方などを伝える

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・あしたば事務所改装工事・・５月完成。開園当初からは職員も増えて、環境的にも騒然としていた。机や棚、ロッカーなどを現状に合うものにして頂き、収納や事務業務などがスムーズに行なえるようになった。
・あしたば駐車場２次工事・・１月完成（12 月～1 月工事）。家族会からの援助金も含め２次工事で駐車場が広くなり、不規則勤務者の駐車が施設前まで行えるようになる。出勤退勤時の負担も軽減している。
・あしたば居室間仕切り（2 部屋）工事・・27 年４月完成。１階対象の利用者が２階での生活を余儀なくされていたが、間仕切りをした事で１階での生活ができて夜間の安全・安心が確保できた。
・さくらだい作業用テント・・３月購入。今年度はキャンプ用テント対応しており、夏季は日除けや雨天時の雨除けをしていたが、風に飛ばされるなどがあった。イベント用テントを購入して頂き、安全面も含めて作業が捗るようになる。納涼大会などの行事にでも使用でき借用の手間が省ける。
・洗濯機・・３月購入。失禁した時の対応が即座にでき、衛生面の確保ができた。
・４班ロールカーテン・・３月設置。夏季は日除け、冬季は窓からの寒気を防げるようになる。利用者の作業環境が改善された。

10.その他特記事項

・10 月に女性利用者が介護保険への移行
・12 月 16 日男性利用者がなくなる（死因については不明）
・ＳＳＴとスヌーズレンの導入に向けての情報収集とＷＴの結成

11.総括及び次年度の課題

今年度は生活介護事業所あしたば（さくらだい）への移転、事務所の改修や個室の間仕切りなど、ハード面での改修があった。利用者は思った以上に落ち着いており、状況の混乱もなかった。

ソフト面でも支援の見直し・スリム化として、個人おやつの中止、事務所の鍵の開錠、月間書式の改訂などを行なった。鍵の開錠では、利用者が必要以上に窓から覗かなくなる、ノックをして尋ねる利用者もいた。個人おやつでも職員の動きは少しであるが、見通しが付き本来の支援の体制がとれる環境になってきた。支援業務量の軽減、事務業務量の軽減には、至っていない状態である。

上記の問題・課題として、業務改善は施策からも今後行なっていき、40 人定員を目指していく。その為にも、支援の場の業務改善・整理を行ない職員のモチベーションの向上を図る必要がある。

今後もあしたば利用者のリスクと本人らしい生活とのバランスを家族へ伝えていき、業務改善の報告・周知の方法。個別支援計画の説明や同意についての方法の確立が必要課題である。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：共同生活援助事業所クムレ】【事業所責任者:村川 大介】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
職員の率先した挨拶から始まる、地域との関係強化	地区清掃や公民館・地区行事等に利用者とともに参加し、また、ごみ捨てや散策時、交通安全パトロール時に出会った方々と挨拶を交わすことで、ホーム周辺の地域住民とのなじみの関係ができてきた。さらに本年度は、ホーム主催の行事（花火・節分）を開催し、地域住民に参加してもらうことで、利用者・職員・住民の顔が見える関係づくりができた。
支援の充実、サービスの質の向上	法人内事業所間の連携として、会議の開催・参加、情報の共有を行なってきた。また、会議以外の場においても職員同士の連携・協力により、利用者支援や行事の進行がスムーズに行なわれるようになった。利用者支援の面では、サービス等利用計画の導入に基づき、セルフプラン希望の利用者以外は相談支援事業所との契約が完了した。世話人に関しては、月 2 回の世話人会議にて、専門的分野の研修を行なってきた。
人財育成	法人内の階層別研修、専門研修に全職員が参加し、また、外部研修にも自発的・積極的に参加し、専門性を深めることに繋がった。事務所・各ホームにおいて物品や書類等の整理整頓をし、業務の見直しや作業手順の簡素化で効率化を図った。

（説明）

４月より管理者の変更、制度の変更（グループホーム一元化）があり、年度当初は繁忙を極めたが、５月からは業務推進が軌道に乗り、利用者支援に専念できるようになった。

８月と２月にグループホームでは初の試みとして、地域住民を招いて主催行事を開催した。地域住民の参加は限られてはいたが、地域と利用者・事業所との繋がり、窓を開いたといった点では意義があった。今後は一事業所だけでなく、地域内にある事業所と協力し、より地域住民が参加しやすい行事の開催を企画していく。

９月には職員１名が災害復興支援の一環として福島県へ１か月間派遣されたが、事前の引き継ぎやリアルタイムでの報告・連絡・相談により、業務・運営に支障をきたすことなく終えることができた。

利用者の身体能力の低下による問題が散見され、医療ニーズの高まり、高齢化への対応に迫られるという課題を残している。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
自己点検の実施	評価基準等を用いての自己点検は行なえていないが、他事業所が受審した第三者評価の結果に基づいて、考え方や支援内容の見直しを行なっている。
利用者の権利擁護	日々自らの支援について振り返り、職員会議において、また支援内容を検討する場において、利用者主体であるか、利用者の権利を侵害していないか、互いに確認をしあった。権利擁護に関する研修にも参加している。

（説明）

自己点検においては、前述のように評価基準等を用いて行なえていないが、他事業所が受審した第三者評価の結果を参考にし、日々の支援内容や業務に取り入れている。

権利擁護に関しては、自らの事業所だけでなく、利用者の日中活動先や家族関係においても、利用者の権利が侵害されそうな事案においては、当事者への問い合わせや関係機関に相談する等の介入をしている。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数						計画と実績		
	サービス管理責任者		生活支援員		世話人				
	配置基準	現員	配置基準	現員	配置基準	現員	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比（%）
４月	1	1	0.8	1	4.1	4.3	639	654	102.3
５月	1	1	0.8	1	4.1	4.3	646	667	103.3
６月	1	0.7	0.8	0.8	4.1	5.1	646	647	100.2

7月	1	0.7	0.8	0.8	4.1	5.1	674	680	100.9
8月	1	0.7	0.8	0.8	4.1	5.1	652	656	100.6
9月	1	0.7	0.8	0.8	4.1	5.1	642	643	100.2
10月	1	0.7	0.8	0.8	4.1	5.1	671	671	100.0
11月	1	0.7	0.8	0.8	4.1	5.1	645	650	100.8
12月	1	0.7	0.8	0.8	4.1	5.1	638	631	98.9
1月	1	0.7	0.8	0.8	4.1	5.1	634	591	93.2
2月	1	0.7	0.8	0.8	4.1	5.1	602	564	93.7
3月	1	0.7	0.8	0.8	4.1	5.1	661	656	99.2
合　　計							7,750	7,710	99.5

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

常勤換算上の世話人配置人数は満たしているが、ホームによっては不足している曜日・時間帯がある。10 月末日をもって勤務日数の多い世話人が退職したが、8 月に雇用していた世話人の勤務日数を増やすことで対応できている。3 月末に 1 名の世話人が退職しており、配置基準は満たしているものの、世話人の補充が急務の課題である。また、他事業所・他事業部からの宿直者が増え、さらには宿直専従の職員 1 名を雇用することができ、宿直配置に柔軟性が保てている。

利用者数においては、11 月まではほぼ計画通りに推移していたが、入院者・退所者により年度合計においては未達となっている。次年度 4 月より新規利用者が 1 名入居する予定で、定員を満たすこととなる。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
お花見	4月	あしたばの花見会に参加	13名の利用者が参加
いちご狩り	4月	農園にていちご狩りを行なう	9名の利用者が参加
バーベキュー	5月	クムレ栗坂にてバーベキューをする	13名の利用者、他事業所の職員も参加

障害者スポーツ大会	６月	ボウリング	８名の利用者が参加
サーカス観賞	６月	木下大サーカス観賞	14 名の利用者が参加
プロ野球観戦	７月	阪神対ヤクルト	６名の利用者が参加
入居者交流会	７月	岡山県 GH 入居者交流会への参加	８名の利用者が参加
ビアガーデン	７月	アイビースクエアのビアガーデン	19 名の利用者が参加
花火大会	８月	ホーム主催：クラシス前で実施	利用者 7 名、地域住民８名が参加
納涼大会	８月	あしたばの納涼大会に参加	10 名の利用者が参加
夏祭り	８月	庄の里の祭りに参加	２名の利用者が参加
大相撲観戦	10 月	大相撲巡業倉敷場所観戦	７名の利用者が参加
いきいきふれあいフェスティバル	10 月	水島緑地福田公園で開催	６名の利用者が参加
ナイトクルーズ	11 月	コトノハにて模擬店、ステージ発表	８名の利用者が参加
庄人権フェスタ	11 月	庄人権推進委員会主催	５名の利用者が参加
庄園の里ふるさと祭	11 月	地区の秋祭り	３名の利用者が参加
くらしきフォーラム	11 月	川崎医療福祉大学にて開催	８名の利用者が参加
バス旅行	11 月	あしたばバス旅行参加	２名の利用者が参加
クリスマス会	12 月	各ホームで実施	品数の多い夕食とケーキ、プレゼントの提供
初詣	１月	上東八幡神社	３名の利用者が参加
節分会	２月	ホーム主催：庄公民館で実施	利用者 8 名、地域住民４名が参加
倉敷雛めぐり	３月	倉敷駅前商店街の行事	９名の利用者が参加
倉敷ふれあいウォーク	３月	ツーデーマーチ	７名の利用者が参加

4. 保護者（家族）との交流事業

帰宅する際には、家庭連絡表にてやりとりをしている。また、プラン説明時等においては直接会って情報を共有化している。高齢・遠方である等の事情によりホームに来られない方においては、電話や手紙にてその都度本人の状態報告や相談を受けている。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	７件
意見・苦情	未対応０件	３件
事故	発生０件	14 件

上記を受けての具体的改善活動

ホーム内での大きな事故は発生していないが、日中活動先にて身体状況等の情報共有不足も一因となる事故が発生している。また、ヒヤリはっとが少ない為、世話人にも啓発活動を行なったが、報告件数の増加には至っておらず、引き続きリスクマネジメントに関する研修を行う必要がある。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

- クムレ上東がある庄桜苑団地における町内清掃活動に、利用者と一緒に継続して参加している
- 地域行事への参加（庄の里祭り、庄人権フェスタ、庄園の里ふるさと祭）
- 地域医療機関への定期通院
- 地域交流事業として花火大会、節分会を開催している
- 安全パトロール・庄への参加

7. 人材育成計画

①事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
自閉症について	５月	世話人	自閉症について理解を深めた。
リスクマネジメントについて	８月	世話人	ヒヤリはっとの重要性について啓発した。
発達障がいについて	10月	世話人	発達障がいについて理解を深めた。
感染症予防について	12月	世話人	吐物処理方法を学んだ。
精神障がいについて	３月	世話人	精神障がいについて理解を深めた。

8. 防災・安全・衛生活動

・定期的にホームの設備安全点検を実施。
・防災に関する管理規定に基づき、消火器、誘導灯などの定期点検を実施。
・各ホームの避難経路、避難場所を図面により説明、掲示。
・年１回の避難訓練の実施。
・夏期および冬期において、食中毒に関する啓発活動の実施。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

・２月　クムレ上東エアコン入替工事（４台）
・２月　クムレ栗坂アフターメンテナンス
・３月　クムレ上東保守修繕

10.その他特記事項

・クムレ上東がある地区において、倉敷市の下水道敷設工事が完了しており、平成 28 年 1 月 31 日までに下水道への接続工事を完了する必要がある。業者見積依頼中。

11.総括及び次年度の課題

制度変更・管理者変更により、年度当初は職員・利用者ともに落ち着かない日々であったが、1ヵ月弱で日常を取り戻した感がある。利用者支援に関しては、地域での生活・自立した生活に向けた支援を心掛け、過剰なサービスにならないよう、且つ、利用者の権利を侵害しないよう職員間の

連携を図った。地域とのつながりも意識し、地域行事への参加はもとより、地域住民を招く行事の開催を試みた。限られた人数の参加ではあったが、利用者との交流の一助になったと感じている。また、長年地域で事業を運営しているが、まだまだ周知・認知されていない点も感じられた。次年度は、利用者の一人暮らしへ向けた具体的な支援、触法障がい者を受け入れるにあたっての支援方法の確立、グループホームの増設（サテライト含む）、家族との密な関係性の構築（家族会等）が課題となってくる。一事業所でできること、マンパワーは限られており、他事業所やグループ、法人全体で取り組んでいきたい。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：　コトノハ　　】【事業所責任者:　上村　昌平　】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
職員の率先した挨拶から始める、地域との関係強化	日中活動において、各班の年間計画作成時に地域との交流や資源の活用を明記し、毎月の振り返りを行うなどして清掃活動やリサイクル活動時の挨拶活動等に取り組んだ。栗坂事業所合同の取り組みとしても、駐車場に職員が立ち交通安全の呼びかけと挨拶運動を実施。 庄地区人権推進委員会へ継続した参加、ボランティアの受けいれや 11 月の庄フェスタへの出展参加、イベント（ナイトクルーズ）実施し約 100 名の来場があった。
支援の充実、サービスの質の向上	個別支援計画作成等については、外部講師（川崎医療福祉大学　寺尾教授）や法人内マネジャーの助言・アドバイスを得ながら利用者一人ひとりの評価、理解に力を入れていった。この取り組みは次年度も継続して行っていく必要がある。 家族との関わりでは、家族会を奇数月の土曜日に開催することにより、平日の参加は難しい家族の方の出席もあった。職員と家族、家族同士でのコミュニケーションをとる場を設けることが出来ている。
人財育成	階層別研修では、新たに「福祉職員キャリアパス対応生涯研修」が開始され、階層によってはキャリアデザインを描くまでのスケジュールに至っていない職員もいるが、研修の意味や自身のこれまでの振り返り、今後を考える機会となっている。事業部内でも「専門研修」が新たに始まり、自身の携わっている業務に必要な知識・技術を得る、経験する機会となっている。外部研修にも参加しながら、より高い専門性を学び、

	事業所へフィードバックすることが出来ている。

（説明）

年度初めは新規の利用者、入職職員、新たな班体制での支援の開始等変更事項が多々あり、慌しいスタートとなった徐々に利用者の理解も行うことができ、利用者本人も新しい環境に慣れてきた様子が伺えていた。支援の質の向上については、職員会議時にケース検討や支援方法の統一を図ることや、他事業所も交えた支援方法の認識・対応の統一を図る取り組みを行っている。家族会の毎月の開催（奇数月土曜日は開所日と家族会を同時開催）するなど、家族会との情報共有をもって新しい取り組みにも挑戦してきた。家族会の中では法人内や外部の講師を招いての勉強会の機会も設けることが出来ている。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
第三者評価の指摘事項の改善	利用者の自治については具体的に会の発足等には至っていないが、班単位等での利用者自身が活動を選択し実行する、主体となり会を進めるなどの取り組みは日中の活動に取り入れていっている。
家族との意見交換を密にする	上記①に記すように、家族会の開催形態を平成 26 年度は変更し実施。勉強会等テーマを案内することで、目的をもって家族会に足を運ばれる家族もあった。班ごとの年間の取り組みや新入職員の挨拶、食事会を実施。 また家族の中から手話やダンス等の自身の取り組みを紹介し、家族会の中でグループを作り実施することもあった。年度当初に掲げていた、面談等機会の増加については現状通りの年 1 回であった。

（説明）

平成 25 年度に第三者評価を受審し、改善点等が明らかになった。メイアイヘルプユーが来岡山の際には、現状の確認・振り返りの機会となるコンサルテーションの機会も確保され、現状の取り組みやさらなる向上・改善に向けての助言を頂く機会となった。利用者の自己選択・自己決定のための支援や、利用者の将来の生活を家族とともに考えていく視点は今後も欠かすことは出来ず、平成 27 年度に掲げていく大切にしたい価値観にも取り入れていく。受審報告会に明文化されている課題のみだけでなく、初回受審時の課題も振り返りを行っていく必要がある。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	配置基準	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	21.4	22.7	22	22	845	833	98.6%
５月	21.4	23.1	23	23	845	821	97.0%
６月	21.4	22.8	22	22	840	831	99.0%
７月	21.4	22.1	23	23	875	871	99.5%
８月	21.4	21.7	23	23	845	819	96.9%
９月	21.4	22.9	23	23	845	830	98.2%
10 月	21.4	22.2	24	24	870	857	100.5%
11 月	21.4	20.8	22	22	810	745	92.1%
12 月	21.4	23.2	23	23	835	780	93.4%
１月	21.4	22.7	23	23	845	760	89.9%
２月	21.4	23.0	21	21	785	733	93.4%
３月	21.4	23.0	23	23	870	862	99.1%
合計			272	272	10,110	9,742	96.4%

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

４月からの新規利用者は１名。平成 25 年度から自宅静養を希望された利用者についても利用予定日数に含む。初めて奇数月を土曜日開所・家族会開催に伴い、不確定ではあるが利用予測人数を反映させたものが利用計画人数であった。実際は他事業所の行事のために休みになることが不定期にあったが、家族等の利用日数変更に柔軟に対応し可能な範囲で利用数を確保している。

職員については、年度途中で嘱託職員の退職（２名）、正規職員（男性１名）の異動があり、その補充を行うことが難しかったが、現員の職員で協力し日中活動、送迎サービスを継続している。

しかし、同性介助を原則とした際に、利用者の男女比と職員の男女比が伴っていないことが利用者に即時支援・介助対応することが出来ていない要因である。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
家族ふれあい旅行（蒜山）	10月17日	利用者、家族、職員との日帰り旅行	天候にも恵まれ、外出することが出来ている。家族会等でも進捗状況を報告しながら計画を進めている。今年度は行き先を一箇所に絞り、一体となって実施することが出来た。
ナイトクルーズ vol.3	11月2日	利用者の作品・製品展示や音楽・アートを交えたイベントを開催。利用者（音楽療法発表）・家族、地域の方との交流を図る。	約100名来場。法人内就労事業所や家族会カフェが出展。出演者に合せて会場や設備等の工夫を取り入れて開催することが出来ている。
クリスマス会	12月	作業収入の還元 社会資源の活用、外出等の機会の確保	外出、外食、調理、プレゼント等方法は様々であったが、利用者が1年間取り組んできた作業収入を還元。その課程で自己選択・決定の機会を設けることや、社会資源の活用を行っている。
音楽療法発表会	1月17日	音楽療法で取り組んできた内容を家族等へ向けて成果を披露する機会を設ける。	家族の方は約 20 名来場。ステージに立っている方だけでなく、聴きにこられている家族・利用者・職員も参加することが出来る形式のプログラムを実施した。

4. 保護者（家族）との交流事業

・家族会の開催を毎月実施。奇数月は土曜日に家族会を開き、開所日と合せることで平日では参加することが難しい利用者の方の参加に繋がっている。
　職員と家族との情報交換のほか、外部講師等による勉強会の実施や食事会を実施。
・年度の初め（5 月）には、管理者･リーダー・班キャップ、新入職職員が出席し、挨拶や年間の計画等について発表。
・ふれあい旅行において本人・家族・職員との交流を図った（上記 3. 行事報告参照）。
・ナイトクルーズを通して、家族との交流を図った（上記 3. 行事報告参照）。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	124 件
意見・苦情	未対応０件	28 件
事故	発生０件	17 件

上記を受けての具体的改善活動

　利用者の住環境変化に伴い、家庭・事業所（他事業所）にて落ち着かない行動が表出する場面があった。他害行為に至るケースもあり、説明や通院等の対応が不十分であり、相手家族の方からの苦情に繋がることもあった。対策としては、起こりうる場面を想定し未然に防ぐことが出来る体制（日中活動、送迎等）を整えることで、本人にとって変化の少ない環境・状況を少しでも増やし安心につなげている。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・ナイトクルーズの開催に際して、案内(DM)の配布、HP に情報を載せるなどし、足を運んでいただく取り組みを実施。開催については、上記 3. 行事報告参照。
・リサイクル等の日中活動を通し、地域との交流を図った。
　空き缶回収の際に、利用者と共に赴き、挨拶をしている。また農業実習地で収穫された野菜を配っている。
・庄地区人権推進委員会への継続的な参加。
・庄地区の祭りへの出展（11 月）。
・倉敷市心身障がい者施設連絡協議会　福祉避難所協定締結（6/5）。

・見学者、実習生、ボランティアの受け入れ

【見学】笠岡市　民生委員見学(5/23)、センタークムレ保護者 11 名(9/30)
岡山南支援学校、倉敷支援学校生徒・保護者

【実習】川崎医療福祉大学、岡山県立大学　社会福祉士現場実習
岡山県立大学　介護福祉士現場実習
早島支援学校教員(8 月)
早島支援学校　体験実習

【体験】庄地区人権学習福祉交流会(6/9)
体験入職　1 名(看護職)

7. 人材育成計画

①事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
緊急時事故対応 シミュレーション	8 月	全員対象	法人看護師会とコラボレーション。事業所内で起こりうる事故等発生時の対応について演習
てんかん基礎研修の フィードバック	8 月	全員対象	受講者から職員に対して、フィードバック。事業所利用者のケースに置き換えての説明あり。
ケース検討	随時	全員対象	職員会議等の時間を使用し、利用者の心身面の情報をもとに支援の統一を図る。

8. 防災・安全・衛生活動

・年 4 回の避難訓練を実施。(5/28、8/29、11/27、2/26)
出火場所や避難場所、点呼の仕方など意見を出し合い改善を図った。

・手洗い講習会に参加･･･新採用職員対象

・感染症対策については、専門研修に加え事業所看護師が参加した予防対策研修の情報を共有。
安全・衛生委員会より、事業部統一した感染症マニュアル発信。各部屋に設置。
安全パトロールを受け、指摘事項を改善・報告
⇒月 1 回の環境整備時（冬季）に屋内環境見直しを定期的に実施。

・事故対応シミュレーション実施

・救急法講習会に参加･･･全員職員

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

ダイハツ　タント(車椅子使用　スロープ付き)配車（平成 25 年度補助金申請）
三菱　ローザ　ETC・バックモニタ取り付け（安全運転・防災委員会より）

10.その他特記事項

・まなべ歯科による訪問検診を継続実施（月 1 回）
・音楽療法（週 3 回)、美術（月 5～6 回)、陶芸（月 1 回）の継続実施
・県社協　福祉紹介キャンペーン派遣（上村　平成 21 年度から継続）

11.総括及び次年度の課題

平成 26 年度の事業計画を概ね達成に近づけることが出来ている。利用者に関しては、他事業所との併用者も在籍されていることから、双方の行事がある際には家族や本人からの申し出を受けて双方の事業所間でも確認し合うことが出来ている。開所日数は 272 日と当初の予定より多く開所し、出来る限り利用していただけるように努めた。自然災害や感染症等の流行もなく、予定通りの開所を行うことが出来ている。その要因の一つとして家族会の開催と開所日を重ねることで、利用者確保のみならず、普段顔を合わす機会が少ない家族同士の繋がりや取り組みも新たに生まれている。

支援に目を向けると、年度途中で正規職員の異動があり利用者本人や家族に迷惑をかけてしまうこととなった。補充の人員が確保できないまま約半年、残った職員全員でフォローしながら支援していくことが出来ているが、次年度に向けて適切な役職や人員配置を行い支援体制が整った状態で新年度を迎えていきたい。

また日々の業務に追われがちであるため、今年度の階層別でも出てきたポーズポイント（立ち止まって振り返る機会）を大切に業務の見直し、改善を図り職員にとっても働きやすい環境を整えていきたい。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：クラシス　】【事業所責任者:　笠行　実　　】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
①自ら出向き、職員が地域を知る。	①・地域の活動（花植え）に参加して地域との連携を図った。 ・地域の社会資源としてライフパークを利用し、また消防署見学を行い、社会体験を利用者に提供した。 ・地域のイベントにケーキ販売で参加する（通年）
②地域との相互理解を深める取り組みの実施	②・広報誌を配布して、事業所について情報提供を行いまた、地域の方との利用者が顔見知りになる機会を提供した。 ・他事業所交流（年２回）就労継続支援継続Ｂ型事業所くるみ 就労継続支援継続Ｂ型事業所いっぽいっぽ
③家族支援の強化（挨拶、情報交換、研修）	③家族会を作り、開催の度に、家族と情報交換を行った。
④第三者評価の受審指摘事項の改善	④第三者評価の報告に着手し改善を行った。
⑤階層別研修への参加	⑤同じ階層の職員との意見交換を踏まえ、自己研鑽の機会を得た。
⑥専門研修への参加	⑥専門的知識を習得することにより、日頃の支援の幅が広がった。

（説明）

職員の率先した挨拶から始まる、地域との関係強化において、地域にクラシスの存在を知って頂く活動を行なった。また支援の充実、サービスの充実を行なうために家族会をつくり、家族とのつながりを強化している。利用者の支援を充実させるために、階層別研修や専門研修などの参加により職員の知識、スキルをあげる取り組みを行なっている。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
利用者満足の向上 （第三者評価の改善を通して）	・クラシス関係者に報告した。 ・報告をする機会を通してクラシスとやさい畑クムレとの家族会発足に繋がった。

（説明）

第三者評価を受けて、安全対策特に外部での作業中のリスクを洗い出し、しケーキ事業での衛生面の強化、掃除での職員２名体制の実施、利用者の手洗い講習を行い、危険回避能力を身につけるなど行なってきた。またやさい畑合同の家族会を実施し情報共有することで家族とのつながりも強化した。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定　員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	2.7	4.7	22	22	484	487	101
５月	2.7	4.7	23	23	506	501	99
６月	2.7	4.7	22	22	484	480	99
７月	2.7	4.7	23	23	506	498	98
８月	2.7	4.7	23	23	506	481	95
９月	2.7	4.7	22	22	484	460	95
10 月	2.7	4.7	23	23	506	496	98
11 月	2.7	4.7	22	22	484	472	98
12 月	2.7	4.7	23	23	506	488	96
１月	2.7	4.7	23	23	506	482	95
２月	2.7	4.7	20	20	440	420	95
３月	2.7	4.7	23	23	506	490	97
合計	32.4	56.4	269	269	5,918	5,755	1,166

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

26 年度は、新規利用者２名の利用があったが、体調不良により１名の利用者の退所があった。インフルエンザ罹患の利用者がいたが事業所内に感染しておらず、実践発表した手洗いの効果が出たと思われる。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
花見	４月	桜の名所を巡り季節を感じる。	季節を感じる事ができた。
やさい畑・ホーム合同歓迎会	４月	利用者、家族、職員との食事会を行なった。	交流が深められた。
ザグフェスへの参加	５月	出店ブースを回った。	様々な社会体験ができた。
クラシスボウリング大会	６月	ボウリングを行なう。	利用者交流ができた。
クラシス防災の日	９月	消防署へ見学・防災体験	非常時への対応への知識が深まった。
手洗い講習会	11 月	手洗いの練習・汚れ具合のチェックを行なう。	効果的な手洗いが身についた。
やさい畑・ホーム合同バス旅行	12 月	小豆島・レオマへの旅行	普段出来ない体験ができ楽しんだ。
やさい畑・ホーム合同クリスマス・忘年会	12 月	食事会・利用者参加型のイベントを行いプレゼント交換した。	季節の行事を楽しんだ。
書初め	１月	展覧会への出品を行い、書初めを行なった。	新年行事を体験した。
歓送迎会	３月	利用者・家族・職員への食事会、催し物	利用者・家族・職員の関係を深められた。

4. 保護者（家族）との交流事業

新歓行事を行い、利用者・家族・職員との交流を深める機会が作れた。また、やさい畑・ホーム合同の日帰り旅行でも希望する家族を招き、小豆島やレオマワールドへ旅行し、他利用者・職員との交流を深める事ができた。やさい畑合同の家族会も定期的に実施し、家族との情報共有の場となり良い意見交換ができた。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	16 件
意見・苦情	未対応０件	１件
事故	発生０件	１件

上記を受けての具体的改善活動

作業場での環境整備（机の買い替え・利用者内職時の座席の配置換え・洗面所周りの整理整頓）を行なった。またリスクを事前に把握する為に、足元不安定な利用者を対象にＯＴによる歩行調査を依頼し行なった。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

庄地区人権学習委員会による庄公民館の花壇の花の植え替えに参加。地域の方と利用者との顔なじみの関係も築けている。

7. 事業所研修計画

(1). 事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
岡山県福祉職員生涯研修会	６月	藤原　有里	フォロワーシップとリーダーシップをバランスよく発揮することで仕事の効率が上がる。
岡山県福祉職員生涯研修会	６月	守屋　まな美	目標を共有し相互に協力しながら自立的に行動する。

8. 防災・安全・衛生活動

避難訓練の実施を行い、もしもの時の災害に備えている。また９月にクラシス防災の日を設け、消防署見学にて防災体験を行い実際地震が起きた時の行動などを学んだ。手洗い講習を実施し利用者の衛生面についての意識向上に努めた。26 年度において手洗い講習を実施したことで感染予防に効果を発揮した。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

玄関前のコンクリート土間の修復工事…ヒビが入って傷んでいたため１２月に３日間かけて工事を行なった。
利用者作業机の購入…重たく使い勝手も悪く作業場を効率よく使えない為９月に軽く、移動しやすいものに買い換えた。

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

　26 年度において、ほぼ計画通りに実施できている。来年度は利用者１人ひとりに目を向け、寄り添った支援を行う事で利用者が安心して作業でき、それによってその人が持っている力を引き出し、安心・安全に生活できる支援を行なう。その為に家族との「つながり」も大切にして利用者を共に支えていけるように、利用者だけでなく家族の悩みや不安にも共感し、支えていける事業所を目指す。事業所だけに留まらず、地域へ出向きつながりを深める事で、職員共に知識を深め良い支援を行っていく。更に地域の方へクラシスの事を知っていただき、障がいへの理解を深めて頂くことで、就労施設に限らない活動を目指していく。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：　やさい畑クムレ　】【事業所責任者:　小林　章伸　　】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
1、自らが出向き、職員が地域を知る。	・地域のイベントや行事（山手ウオーキング大会、山手健康フェスタ）に参加している。 ・山手にある社会資源（山手福祉センター）を利用し、２ヶ月に１回食事に行っている。
2、地域との相互理解を深める取り組みの実施	・法人の広報誌が発行されると地域を分け、岡谷地区、片山地頭地区、三須地区に配布をしている。 ・畑で収穫できた野菜（タマネギ、大根など）を近所に配り、活動を知って頂いている。
3、家族支援の強化（挨拶、情報交換、研修）	・10 月、２月に家族会を開催し、情報交換を行なっている。
4、第三者評価の受審指摘事項の改善	・事業所が開所し、手順書の整理を行っているが、まだまだ不十分である。
5、階層別研修への参加	・法人内の研修へ参加している
6、専門研修への参加	・専門研修へ職員全員参加している。

（説明）

平成 25 年 11 月に開所し、まだまだ地域の認知度は低いため、事業所の周知を行なっている。広報誌が発行されると岡谷地区、地頭片山地区、三須地区に配布をしている。広報誌と合わせて、事業所の様子や連絡先、利用者の人数など事業所を知って頂くための用紙も配布している。配付しながら、直接挨拶などしていると農作業をしているところを見たことあるなど、声をかけて頂き、少しずつではあるが地域の人に知って頂いている実感を得ている。

職員が出向く活動については、はじめて１年を通しての活動であり、山手地区で行なわれる行事に声をかけて頂くことが多く、ウオーキング大会、健康フェスタなどに商品販売を通して参加している。山手地区の活動も活発で、来年度も継続して参加していく考えで、参加するにもそのイベントにあわせた作付け計画も考えていく必要がある。

家族とのつながりに関しては、家族会の前段階である家族に情報提供の場を設け、クラシスと合同で事業所や法人での動きを伝えている。平成 28 年度には、家族会として開催されるように次年度も情報提供の場を設け、クラシスだけでなくグループホーム３事業所合同での家族会を開催していく。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
利用者満足の追及 （第三者評価に関して）	・第三者評価をやさい畑クムレは行っていなく、クラシスの結果に合わせて、やさい畑でも足りないものを補足し、利用者が満足して作業が出来、安心して来所できるような環境づくりを行う。

（説明）

やさい畑クムレは、平成 26 年度には、県民局の実地指導があった。その為に、書類の整理や環境について整えてきた。実際に実地指導を受け、下記の指摘を受け、改善をしている。

・緊急連絡先の掲示
・書類の不備
・個別支援計画の改善点
・環境の改善点

緊急連絡先の掲示に関しては、県民局、各市役所、消防、警察など緊急時に連絡をする場合の連絡先を一覧にした表を作っていなく、掲示していないため、作成し事務所の見えやすい場所に掲示している。

書類の不備に関しては、運営規約、重要事項説明書、契約書など不適切な表現を訂正して頂き、すぐ改善している。

個別支援計画の改善点に関しては、作成者を各担当にしており、本来はサービス管理責任者の名前を記入すること、日にちが４月１日でないものがあり、４月１日に日付をする必要があること、要望書を取っていない利用者もあり、次年度から必要な物をそろえるなど、個別支援計画を作成する注意点を挙げられた。

環境の改善点は、トイレの暖簾が防炎布でないため、防炎布にかえており、危険なもの（ジアノックなど）は、利用者が見えないところに保管するように指摘され、改善をしている。

実地指導は、改善するところはすぐ改善できているが、まだまだ手順書などそろえなければならないものがあり、次年度には、作成していくように努める。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	2	2	22	22	198	177	0.89
５月	2	2	23	23	198	210	1.06
６月	2	2	22	22	220	204	0.92
７月	2	2	23	23	230	212	0.92
８月	2	2	23	23	253	198	0.78
９月	2	2	22	22	242	208	0.85
10月	2	2	23	23	264	229	0.86
11月	2	2	22	22	264	208	0.78
12月	2	2	23	23	299	217	0.72
１月	2	2	23	23	299	211	0.70
２月	2	2	20	20	280	181	0.64
３月	2	2	23	23	322	213	0.66
合計	24	24	269	269	3,069	2,468	0.80

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

職員は、管理者兼サービス管理責任者が１名、生活支援員１名、職業指導員１名の計３名であり、管理者を除く職員を記入している。

利用者に関しては、定員 20 名のところ、４月は、11 名でスタートし、５月に利用者が２名増え、９月に１名増え、最終的に３月の時点で登録利用者は、14 名になっているが、まだまだ 20 名には足りていない状況である。

利用者確保に関して、支援学校への訪問、相談事業所への訪問を定期的に行ってきた以外に、やさい畑クムレのオープン事業所を開催し、３ 名の支援学校の生徒が見学に来て頂いたので、継続して毎年行いたいと考えている。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
花見	４月１０日	砂川公園で花見を行い、バーベキューをしている。	利用者全員参加し、楽しいひと時を過ごしている。
新入社員歓迎会	４月２４日	クラシス合同で、エビス水産で歓迎会を行っている。	クラシスとの交流も兼ね、歓迎会を行い、利用者も楽しく過ごせている。
招待ボウリング	６月１２日	倉敷のアミパラでボウリングを行っている。	県立大学の実習生も参加している。
日帰り旅行	１２月４日	クラシスと合同で小豆島コース、レオマワールドコースに分かれ、実施している。	バス２台で２コースに分かれ、行っている。雨であったが、利用者は楽しい １ 日を過ごしている。
クリスマス忘年会	１２月２６日	クラシスと合同で、エビス水産で食事をし、その後庄公民館でゲームなど行っている。	食事あり、ゲームあり、プレゼント交換もありで、利用者全員楽しむことが出来ている。
新年会	１月９日	事業所で鍋を作り、食べている。	事業所で収穫した野菜を使い料理をし、食事をしている。
初詣	１月２２日	最上稲荷へ行き、昼食はチャレンジドで食べている。	チャレンジドは、福祉施設で交流見学も兼ね、行き食事をしている。
歓送迎会	３月２６日	エビス水産でクラシスと合同で行っている。	家族の参加もあり、大勢の参加者があり、盛大に行っている。

4. 保護者（家族）との交流事業

10/23　家族会実施　７名参加
10/28　家族会実施　８名参加
2/19　　家族会実施
　その都度、クラシスとやさい畑クムレの近況報告や保護者に要望など聞いている。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	５月１件、６月１件、２月２件、３月１件 計５件
意見・苦情	未対応０件	４月２件、７月２件、８月１件、９月２件、 10月２件、11月２件、12月３件、１月２件 計16件
事故	発生０件	12月１件 計１件

上記を受けての具体的改善活動

新しく利用を開始した利用者の事故が多数ある。利用者の特性を理解しながら受け入れており、その都度、発作で倒れたり、問題行動をしたりすることもあった。利用者のことを理解し、受け入れることで事故につながることは、少なくなったと思われる。

その１つとして利用者が発作で倒れるケースがあった。その利用者も自分の意見を口頭で伝えることが難しく、何かを伝える手段の１つとしての発作である。発作も疑似発作の可能性があり、家族の意見などから初回は病院の診察を行わなかったが、安全面を考えると診察の必要性があるため、その後は、病院に行くよう対応をしている。また、本人が事業所に慣れ、落ち着くと、発作の数はなくなっている。

ヒヤリに関しては、職員のミスが多く、ミスを起こすと次に改善するために、職員全員で話し合いを行い、ヒヤリを起こさない環境づくりを作っている。利用者の乗車ミスに関しては、出発前の確認、利用者の乗車をマグネットで作り、どの利用者がどの車に乗ることがすぐ分かるようにしている。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

広報誌の配布・・・定期的に利用者と一緒に配付している。
岡谷地区
地頭片山地区
三須地区

山手地区の行事に参加・・・11月　ウオーキング大会へ野菜の販売で参加
３月　健康福祉フェスタへ野菜の販売で参加

7. 人材育成計画

なし

8. 防災・安全・衛生活動

夏の作業時に関して熱中症対策・・・水分補給の徹底
首に巻くものを全員着用
防止の着用
こまめな休憩をとることなど実施

インフルエンザ予防接種・・・利用者全員が受けている

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

なし

10. その他特記事項

作業収入は、1,380,718 円
作業支出は、　303,843 円
利用者の支払い工賃は、829,445 円

11.総括及び次年度の課題

平成 26 年度は、利用者定員 20 名に達成する目標があったが、目標に届かず登録利用者 14 名であった。まだまだ利用者確保の動きが不十分だと考えるので、平成 27 年度は、様々な機関（支援学校、地域生活支援センター、千人雇用委員会など）へ足を運び、やさい畑クムレの活動のよさなどを伝えていきたい。

12 月に実地指導があり、様々な指摘があったが開所 1 年目にして事業所の書類の確認と整理が出来たので、いい機会だったと感じている。

利用者の作業に関しては、畑を 1 ヶ所増やし、作付面積を広くしている。その分、作業量が多くなったが、利用者も増え、利用者が出来る作業を増やす取り組みも行なうことで栽培、収穫、袋詰めなど効率的に進めてきている。次年度も利用者が増えることもあり、畑を増やし、作付面積を増やしていく方向である。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：ないろ　　】【事業所責任者:　稲垣 俊吾　　】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
職員の率先した挨拶から始める、地域との連携強化	・日中一時支援の休日の活動の一つとして活動場所近辺、また公園に行った際にゴミ拾いを行っている。 ・自発的に地域住民と関わる機会は持てなかった。 ・福祉大学ボランティアサークルへの行事開催の情報を提供することで、年間通し途切れることなくボランティア参加者を確保できている。
支援の充実、サービスの質の向上	・事故、ヒヤリ、意見苦情については、事務所にコルクボードを設置し、一定期間報告書を掲載することで全体周知を行なうことが出来た。 ・アルバイトに対し７月の勉強会で KYT を実施。登録ヘルパーに対しては未実施。 ・日中一時支援において、10 月に満足度アンケートを実施。改善案については検討、実施を行っている。
利用者の自立を支援できる知識・技能の習得	・法人内の他事業所を利用されている利用者のうちで困難ケースや、著しい状態の変化のあった方については事業所間で社内メールのやり取りや必要に応じてケース会議を実施した。 ・ヘルパー座談会を 6.8.10.12.3 月に実施。 支援の中での困り感の他、26 年の制度の変更点、虐待防止法、ヘルパーのしてはいけない事、相談支援の今後の役割について勉強会を行っている。しかし参加者は 2～5 名ほどで出席率低い。 ・アルバイト勉強会については 7 月に日中一時支援の概要、KYT について、３月に個人情報取り扱い、年度の振り返り、求めるアルバイト像について実施。

（説明）

常勤職員９名(正規８名嘱託 A1 名)でスタートし、11 月より異動で１名追加となる。

今年度の大きな変更点として、ヘルパー業務において、利用者に対して単独対応を可能な限り減らし、複数で対応できる体制作りを行なった。複数で対応することで、利用者の要望に対し、柔軟に対応できるようになったこと、１人の考えでなく複数で意見を出し合うことでより良い支援に繋がっていると思われる。
日中一時支援については、低年齢ほど利用希望が多い為今年度より従来の小学生と中高生で分けるのではなく、小学１年～4 年、小学５年～高校３年までで活動場所を分けている。今年度については、予想していた程小学生の契約が増えずであった為、今後低学年の新規利用者拡大が課題である。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
目に見えるサービスの変化	・日中一時支援については、10 月にアンケートを実施。大多数の方から満足していると結果が出ている。数点要望をいただいており、対応できる要望については改善を行っている。 ・居宅介護においては、個別プラン見直しの際に家族の要望も取り入れる形を取り入れた。相談支援を受ける利用者が増えてきている為、ないろの役割が利用者にとっても明確になってきている。
現在のサービス問題・課題把握	・ヘルパー業務に関しては日報を活用、また１回/週の会議を設定し、議事録を作成している、日中一時支援についても朝礼・終礼ファイルを全職員が閲覧できる 体制を作ることにより他事業同士で把握しあえる環境は出来た。 ・利用者の確保について上半期は順調に利用者数を伸ばすことができたが、下半期は登録ヘルパーの退職、他事業所からの異動等の関係で体制変更に力を入れた為、期待した数値までには至らなかった。
ボランティアの育成	・行事開催の際、福祉大学のボランティアサークルへの情報発信、学生アルバイトからの情報提供を行うことで、年間通し 20 名ほどのボランティアが参加されている。 参加前後の話し合いと終了後のアンケートを定着化させた、また困った際助けてくれる職員の明確化を行った事で継続して参加してくれる方や、ボランティアからアルバイト採用した方もいる。

（説明）

職員の増加に伴い、職員間・各事業間の情報共有が一番の大きな課題となっていた為、情報共有体制強化の方法を検討し、実施している。結果として、職員同士お互いの業務を把握しあえたことで、利用者にとって同じサービスを提供できるようになった、また職員同士で協力しあおうとする意識付けも出てきている。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	居宅介護		訪問介護		移動支援		日中一時支援	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
４月	750	797.5	100	100	270	299.5	350	363
５月	750	853	110	76	270	320.5	330	352
６月	760	819.5	120	112	270	289.5	340	333
７月	760	888	130	136	270	305.5	400	419
８月	770	746.5	140	109	270	261	450	418
９月	770	808.5	150	128	270	300	350	346
10 月	780	827	160	123.5	270	320	350	375
11 月	780	790.5	170	104	270	251	350	337
12 月	790	812	180	127.5	270	241	380	417
１月	790	829	190	119	270	236	350	350
２月	800	754.5	200	92	270	245.5	350	333
３月	800	751	200	92	270	228	400	421
合計	9,300	9,677	1860	1,319	3,240	3,297.5	4,400	4,464

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

居宅介護・移動支援については、上半期は順調に利用者数を伸ばすことができた。しかし10 月に退職者がでたこと、ヘルパー業務における新たな体制作りを行なったことにより、予想を下回る結果となってしまった。

訪問介護についても、利用者の長期入院や、施設移行、死去などもあり、利用者数を伸ばす

ことができなかった。長期入院者については今後契約書を改訂し、一度契約を解除し、新たな利用者確保に努めていく。

日中一時支援については、今年度より受け入れ体制(小 1～4、小 5～高 3)を変更したが、予想していたほどの低学年の利用者数が伸びず、売り上げとしても前年度とほぼ変わらずであった。受け皿はまだある為、低学年の利用者を伸ばしていくことが次年度の課題である。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
日中一時支援行事	４月 ５月 ６月 ７月 ９月 10 月 11 月 12 月 １月 ２月 ３月	お花見・BBQ 福山動物園 岡山水道記念館 ・ビュッフェ サイピア プラネタリウム鑑賞 レスパール藤が鳴 こけ玉作り フルーツトピア うどん作り 岡山県立大学学園祭 クリスマス会 初詣・餅作り 経ヶ丸グリーンパーク 木製マグネット作り イチゴ狩り	季節に応じたイベントや普段できない体験を行う事で、利用者は楽しむことが出来ている。 また、ご家族に対しても連絡帳や写真で報告することでとても喜ばれている。

4. 保護者（家族）との交流事業

日中一時支援においては、受け入れ体制を変更したことで、変更対象者の保護者に対して、見学や説明の機会を作っていった。

居宅介護においては、モニタリングの際、利用者本人だけでなく、ご家族の意見も反映できるよう話し合いを行なうようにした。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	10件＋3月
意見・苦情	未対応０件	16件＋3月
事故	発生０件	12件＋3月

上記を受けての具体的改善活動

今年度は大きな事故なく、１年間やり通せたことは、職員にとって大きな自信となったと思う。KYT の勉強会を開くなど危機管理に対する意識付けは行ってきたが、ヒヤリはっと件数が少ないことは今後の課題である。

新しいヘルパーへの引き継ぎという面で、家族の方を不安にさせ、結果として苦情として挙がった為、緊急時に誰かが代わりにヘルプに出られる体制を作れるよう下半期から体制改善を行なった。数名単独でしか行けない利用者もいるが、ほとんどの利用者に対して誰かが対応できる体制は作ることが出来た。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

日中一時支援においては休日の活動の一環として活動場所近辺や外出先の公園等で清掃活動を行っている。

事業所発信の地域との交流活動が出来ていない。

7. 人材育成計画

①事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
アルバイト勉強会	7・3月	日中一時支援スタッフ・アルバイト	日中一時支援の概要、役割、KYT、求められる支援者像について学ぶ
登録ヘルパー勉強会	6・8・10・3月	ヘルパー職員・登録ヘルパー	制度の変化、相談支援の今後の動き、ヘルパーの役割、虐待防止法について勉強している。

8. 防災・安全・衛生活動

感染症予防として、11 月より、保湿・アルコール消毒に努めている。
避難訓練を実施予定であったが、実行できていない。なないろ独自の避難訓練用のマニュアル作りを作成予定であり、他事業所のマニュアルを集め情報収集をしている。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

利用者にとってのヘルパーのあり方について考えさせられる 1 年であった。
ヘルパー業務における体制変更を行う事で、緊急時や突発的な対応が可能となった。しかし、体制作りに重きを置いた為、利用者数を伸ばすことができなかったので、次年度は今の体制を基準に利用者を増やしていきたい。
また、事業が多様化してきており、職員数も増えてきているが、業務にばらつきがあったり、役割が不明確な部分があったり、職員を生かし切れていない状況である。
次年度は利用者のニーズを整理し、障がい分野と高齢分野を切り離すための調整を行っていく必要がある。

cumre クムレ

平成 26 年度事報告書

【事業所名：倉敷地域生活支援センター】【事業所責任者：江草幹忠】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
アセスメントに力を入れるため、訪問相談を大切にし、出向く相談支援を徹底する。	毎月の職員会議にて、振り返りを行ったが、十分ではなく、来年度の計画には職員会議内に事例検討を取り入れ、アセスメントについても振り返りをしていく。
第 10 回くらしきフォーラムの開催	平成 26 年 11 月 23 日、24 日にて 2 日間開催。来場者数　23 日 800 名、24 日 706 名　計 1506 名
法人内の他事業所と交換研修を行うことで、法人内の他の事業について学ぶとともに、顔の見える連携を行えるようになる。それにより、より迅速で幅広い対応ができるようになるため、支援の質の向上に繋がる。	7月　赤澤のみ実施。 他の職員については退職や産休等あり、実施できず。
階層別研修にて、法人の階層別、役割の理解と認識を合わせる。	年２回　法人スケジュールに準じ実施。
専門研修にて支援に必要な知識を習得する	事業部の研修スケジュールに準じ実施。
職員会議にて、講師を輪番にて勉強会を実施する。足りない知識を補うとともに、人前で話すことに慣れ、プレゼンテーション能力の向上を目指す。また、年 2 回志の発表を行う。	毎月第１金曜日（５，８，１月は第２）9:００～。正規職員が対象。発達障がい者支援センターと合同でおこなう。 勉強会：４月小橋（障がい者総合支援法の改正点）、５月赤澤（生活保護について）、６月太田（岡山障害者職業センターと連携したケースについて）、７月西原（事例検討）、８月井川（介護保険制度の概要）、９月近藤（療育手帳制度と重心判定について）、１０月太田（児童家庭支援センターとの連携について）、１１月実践研究発表について（井川、近藤）、１２月生活福祉課（倉敷市生活自立相談センターについて）高見（フー

	ドバンクについて）、１月実践研究発表ﾌﾟﾚ発表（井川、近藤）、２月小橋（サービス利用計画対象者事例報告 3 件）、３月久山（電話対応について） 志の発表：５月と２月に実施
相談支援専門員初任者研修をはじめとする、業務に必要な知識を得るための研修への参加。	相談支援専門員初任者研修は実務経験を満たす井川、西原が参加。 次年度も実務経験を満たす職員には参加し資格取得者を増やしていく。

地域との関係強化、支援の充実、人材育成を柱に、今後予想される、総合的な相談に対応出来る人材になるべく、職員交換研修、勉強会の講師、訪問相談の振り返り研修、外部研修等様々な形での研修を企画実施している。また、それらの研修の確実な実施と効果の確認のため、研修報告会を開催する予定であったが、報告内容があいまいになりうまく実施できなかった。来年度より確実に実施をするやり方を検討する必要がある。

年度途中で半数の職員の入れ替えがあったため、中途半端になっていることも多い。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	具体策
ボランティアの育成と障がい福祉の啓発	サロン活動や自立支援協議会のイベントにてボランティアの体験をして頂く。また、住民への障がい福祉の啓発を第10回くらしきフォーラムにより行っている。

地域住民の障がい者への理解を推進するため、当センターのサロンを地域の方へも開放し、サロン利用者の方とふれ合って頂いた。夏のＢＢＱ。また、第 10 回くらしきフォーラムを開催し、地域の方への啓発も行っている。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績							
	定　員	現　員	Ⅰ型		サロン		計画		定着	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績

4月	5	6.06	380	338	100	129	12	8	10	6
5月	5	5.06	380	436	100	105	13	8	10	6
6月	5	5.06	380	441	100	132	14	7	10	6
7月	5	5.06	380	475	100	144	15	8	10	6
8月	5	5.06	380	363	100	111	16	11	10	6
9月	5	5.06	380	552	100	124	17	11	10	6
10月	5	5.06	380	370	100	123	18	11	10	6
11月	5	6.06	380	330	100	126	19	9	10	6
12月	5	6.06	380	412	100	108	20	11	10	6
1月	5	5.31	380	384	100	132	21	12	10	6
2月	5	531	380	385	100	138	22	12	10	6
3月	5	5.31	380	464	100	119	23	17	10	6
合計			4560	4950	1200	1491	210	125	120	72.

内訳

地域活動支援センターⅠ型

４月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	41	69	15	23	31	0	0
来所	5	10	1	6	3	0	0
同行	7	10	3	0	7	0	0
電話	55	235	59	73	96	2	5
電子メール	4	7	1	6	0	0	0
ケア会議	2	2	0	1	0	0	1
関係機関	3	3	1	1	0	0	1
その他	2	2	0	0	2	0	0
合計	70	338	80	110	139	2	7

５月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	41	81	13	29	38	0	1
来所	5	8	1	5	1	0	1
同行	15	23	6	7	9	0	1
電話	64	301	82	96	123	0	0
電子メール	4	5	2	3	0	0	0
ケア会議	9	10	5	2	2	0	1
関係機関	4	5	2	3	0	0	0
その他	3	3	1	0	2	0	0
合計	76	436	112	145	175	0	4

６月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	41	66	14	18	29	0	5
来所	11	16	1	11	3	1	0
同行	15	24	4	8	12	0	0
電話	60	300	77	96	119	1	7
電子メール	1	2	0	2	0	0	0
ケア会議	5	5	0	2	3	0	0
関係機関	8	11	2	5	4	0	0
その他	5	17	0	4	13	0	0
合計	80	441	98	146	183	2	12

７月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	40	69	28	12	28	0	1
来所	9	17	0	13	3	1	0
同行	18	25	5	13	6	0	1
電話	67	325	127	55	135	6	2
電子メール	2	5	2	3	0	0	0
ケア会議	15	15	5	2	3	5	0
関係機関	6	12	5	5	2	0	0
その他	5	7	4	1	2	0	0
合計	85	475	176	104	179	12	4

８月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	27	43	11	9	22	0	1
来所	8	11	1	7	2	0	1
同行	16	22	1	10	9	0	2
電話	50	271	106	51	108	5	1
電子メール	5	7	1	2	4	0	0
ケア会議	5	5	2	2	1	0	0
関係機関	4	4	1	2	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	61	363	123	83	146	5	6

９月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	51	83	22	25	32	0	4
来所	11	14	1	9	4	0	0
同行	19	28	6	16	6	0	0
電話	77	391	119	93	149	5	25
電子メール	5	10	4	3	3	0	0
ケア会議	10	10	2	3	3	0	2
関係機関	7	8	1	5	2	0	0
その他	6	8	1	1	2	0	4
合計	100	552	156	155	201	5	35

１０月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	38	88	24	26	36	0	2
来所	7	7	4	3	0	0	0
同行	22	37	8	13	15	0	1
電話	45	215	82	36	95	0	2
電子メール	2	2	1	1	0	0	0
ケア会議	8	9	1	2	6	0	0
関係機関	6	8	3	4	1	0	0
その他	3	4	2	0	2	0	0
合計	60	370	125	85	155	0	5

11月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	37	63	16	9	37	0	1
来所	4	6	1	3	2	0	0
同行	17	31	3	5	20	0	3
電話	49	211	37	26	129	1	18
電子メール	2	4	2	0	2	0	0
ケア会議	3	3	0	1	2	0	0
関係機関	10	11	4	1	5	0	1
その他	1	1	0	0	1	0	0
合計	67	330	63	45	198	1	23

12月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	41	41	14	10	16	0	1
来所	7	7	1	2	3	0	1
同行	12	23	3	1	18	0	1
電話	65	319	100	74	137	1	7
電子メール	3	4	2	1	0	0	1
ケア会議	4	4	0	2	2	0	0
関係機関	11	12	3	3	5	0	1
その他	1	2	0	2	0	0	0
合計	78	412	123	95	181	1	12

1月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	38	81	34	21	25	0	1
来所	6	8	0	2	4	2	0
同行	9	14	2	2	10	0	0
電話	49	243	71	68	81	19	4
電子メール	4	5	0	3	2	0	0
ケア会議	6	8	5	0	3	0	0
関係機関	15	23	10	4	9	0	0
その他	2	2	1	0	1	0	0
合計	60	384	123	100	135	21	5

２月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	43	75	15	20	36	4	0
来所	10	13	0	1	6	6	0
同行	12	20	0	5	15	0	0
電話	55	232	62	80	67	23	0
電子メール	3	4	0	1	3	0	0
ケア会議	21	23	13	2	0	8	0
関係機関	4	15	3	6	6	0	0
その他	3	3	0	1	1	1	0
合計	85	385	93	116	134	42	5

３月	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	42	85	22	20	36	5	2
来所	10	21	1	0	11	9	0
同行	10	29	5	11	13	0	0
電話	64	284	71	84	116	9	4
電子メール	0	0	0	0	0	0	0
ケア会議	6	7	1	2	4	0	0
関係機関	24	35	9	11	15	0	0
その他	3	3	1	1	1	0	0
合計	70	464	110	29	196	23	6

26 年度合計	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	480	844	228	222	366	9	19
来所	93	138	12	62	42	19	3
同行	172	286	46	91	140	0	9
電話	700	3327	993	832	1355	72	75
電子メール	35	55	15	25	14	0	1
ケア会議	94	101	34	21	29	13	4
関係機関	102	147	44	50	49	0	4
その他	34	52	10	10	27	1	4

合計	892	4950	1382	1313	2022	114	119

住宅コーディネーター

4 月(赤澤)	**実利用者数**	**延利用者数**	**身体**	**知的**	**精神**	**児童**	**その他**
訪問	27	73	11	10	51	0	0
来所	2	2	0	1	1	0	0
同行	8	15	0	3	12	0	0
電話	5	5	1	0	4	0	0
電子メール	0	0	0	0	0	0	0
ケア会議	4	4	1	2	1	0	0
関係機関	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	2	0	0	2	0	0
合計	30	101	13	16	71	0	0

5 月(赤澤)	**実利用者数**	**延利用者数**	**身体**	**知的**	**精神**	**児童**	**その他**
訪問	35	79	20	11	48	0	0
来所	1	1	0	0	1	0	0
同行	6	11	3	0	8	0	0
電話	22	83	27	7	49	0	0
電子メール	0	0	0	0	0	0	0
ケア会議	2	4	0	2	2	0	0
関係機関	1	1	0	0	1	0	0
その他	1	1	0	0	1	0	0
合計	37	180	50	20	110	0	0

6 月(赤澤)	**実利用者数**	**延利用者数**	**身体**	**知的**	**精神**	**児童**	**その他**
訪問	25	88	19	1	68	0	0

来所	0	0	3	0	0	0	0
同行	8	11	0	0	8	0	0
電話	19	72	23	3	46	0	4
電子メール	0	0	0	0	0	0	0
ケア会議	4	4	0	1	3	0	0
関係機関	1	1	0	0	1	0	0
その他	1	4	0	0	0	0	0
合計	31	180	45	5	126	0	4

7 月(赤澤)

	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	21	83	11	7	65	0	0
来所	3	3	0	0	3	0	0
同行	4	9	0	0	7	0	0
電話	20	98	35	3	60	0	0
電子メール	0	0	0	0	0	0	0
ケア会議	6	6	1	2	3	0	0
関係機関	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	3	3	0	0	0	0
合計	32	202	50	12	138	0	0

8 月(赤澤)

	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	23	52	9	5	38	0	0
来所	3	3	1	1	1	0	0
同行	9	12	1	1	10	0	0
電話	11	65	27	1	37	0	0
電子メール	0	0	0	0	0	0	0
ケア会議	4	4	1	1	2	0	0
関係機関	0	0	0	0	0	0	0

その他	1	1	1	0	0	0	0
合計	28	137	40	9	88	0	0

9 月(赤澤)	**実利用者数**	**延利用者数**	**身体**	**知的**	**精神**	**児童**	**その他**
訪問	29	69	16	6	47	0	0
来所	7	8	1	2	5	0	0
同行	1	3	0	0	3	0	0
電話	21	49	17	4	28	0	0
電子メール	0	0	0	0	0	0	0
ケア会議	1	1	0	0	1	0	0
関係機関	2	2	0	0	2	0	0
その他	1	2	2	0	0	0	0
合計	34	134	36	12	86	0	0

10 月(小橋)	**実利用者数**	**延利用者数**	**身体**	**知的**	**精神**	**児童**	**その他**
訪問	16	27	4	8	14	0	1
来所	4	6	0	4	2	0	0
同行	4	5	0	5	0	0	0
電話	37	154	22	55	67	7	3
電子メール	6	13	1	11	1	0	0
ケア会議	3	3	0	2	1	0	0
関係機関	0	0	0	0	0	0	0
その他	4	4	0	1	3	0	0
合計	46	212	27	86	88	7	4

11 月(小橋)	**実利用者数**	**延利用者数**	**身体**	**知的**	**精神**	**児童**	**その他**
訪問	8	8	1	1	6	0	0
来所	6	7	1	6	0	0	0
同行	4	4	0	3	1	0	0
電話	24	62	6	31	24	0	1

電子メール	3	5	0	5	0	0	0
ケア会議	5	5	0	1	0	0	4
関係機関	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	36	91	8	47	31	0	5

12 月小橋	**実利用者数**	**延利用者数**	**身体**	**知的**	**精神**	**児童**	**その他**
訪問	14	20	6	3	11	0	0
来所	3	3	0	2	1	0	0
同行	5	7	0	6	1	0	0
電話	35	142	23	34	75	2	8
電子メール	5	5	1	1	3	0	0
ケア会議	11	11	2	0	2	0	7
関係機関	1	1	0	1	0	0	0
その他	1	1	0	0	0	0	1
合計	48	190	32	47	93	2	16

1 月小橋	**実利用者数**	**延利用者数**	**身体**	**知的**	**精神**	**児童**	**その他**
訪問	7	9	1	2	4	1	1
来所	3	3	0	1	2	0	0
同行	5	9	2	2	3	2	0
電話	47	154	4	54	74	16	6
電子メール	4	11	2	7	2	0	0
ケア会議	2	2	0	0	1	1	0
関係機関	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	1	0	0	1	0	0
合計	52	189	9	66	87	20	7

2 月小橋	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	16	18	1	5	11	1	0
来所	3	3	0	1	1	1	0
同行	4	5	0	3	2	0	0
電話	44	125	6	20	69	29	1
電子メール	3	2	1	0	1	0	0
ケア会議	6	6	0	1	4	1	0
関係機関	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	3	0	0	2	1	0
合計	52	162	8	30	90	33	1

3 月小橋	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	13	14	1	4	7	2	0
来所	3	7	0	6	0	1	0
同行	3	4	0	3	1	0	0
電話	37	131	11	47	60	13	0
電子メール	6	12	2	9	0	1	0
ケア会議	1	3	0	1	2	0	0
関係機関	2	2	0	0	1	1	0
その他	2	2	0	0	2	0	0
合計	43	175	14	70	73	18	0

26 年度合計	実利用者数	延利用者数	身体	知的	精神	児童	その他
訪問	226	532	99	62	364	4	2
来所	32	39	5	18	17	2	0
同行	57	91	6	23	55	2	0
電話	298	1078	196	228	569	67	22
電子メール	24	43	7	28	7	1	0

ケア会議	44	48	5	12	22	2	7
関係機関	7	7	0	1	5	1	0
その他	18	24	6	1	11	1	1
合計	433	1862	324	373	1050	80	32

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
花見散歩	４月８日	マスカットスタジアムで花見後、つねまつにて食事	利用者　４名 利用者負担　2000 円 （昼食代実費）
たこやきパーティー	５月20日	たこ焼きを	利用者　９名 利用者負担　300 円
ボーリング大会	６月24日	招待ボーリングを利用しサンフラワーボウルにてボーリングを行なう。	利用者　４名 利用者負担　320 円
みんなでうどん打ち	７月29日	うどんを１から調理	利用者　８名 利用者負担　300 円
そうめん流し&バーベキュー	９月16日	地域交流行事として開催	利用者　４名 地域　　４名 職員　　８名 利用者負担　800 円 法人負担額　14916 円
県北日帰りツアー	10 月 19 日	井倉洞、ＪＡ阿新で食事を行なう	利用者　６名 職員　　３名 利用者負担 ・交通費 500 円 ・昼食 500 円～1600 円 ・ガソリン代　500 円
芋ほり	11 月 18 日	やさい畑クムレにてさつまいもほり	利用者　４名 職員　　２名 利用者負担額　500 円
クリスマス会のおしらせ	12 月 24 日	カラオケにて、山手ヴィレッジのお弁当とクラシスケーキとお	利用者　５名 職員　　４名 利用者負担額　1000 円

		菓子を持ち込み開く	
お餅つき	１月８日	地域交流行事。地区で不孝があったため参加される方が折られなかったが、うすと杵を使い行なう	利用者　10名 職員　　６名 ボランティア　１名 利用者負担額　250円 法人負担金額　309円
節分豆まき	２月３日	独居でなかなかできない方に季節行事を開催。	利用者　　６名 職員　　２名
ひなまつり・てまき寿司	３月13日	職員との交流をしながら、手巻き寿司を行なう。	利用者　　５名 職員　　６名 利用者負担額　350円 法人負担金額　-256円

4. 保護者（家族）との交流計画

なし

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善計画

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	30件
意見・苦情	未対応0件	６件
事故	発生0件	１件

上記を受けての具体的改善活動

・公用車の鍵の持ち帰り対策として、ホワイトボードの活用。公用車使用中のボードの作成。
・実績報告書の送付市町村間違い対策として、書式に提出市町村の明記等実施。

6. 地域公益活動・地域との交流計画

４月　生坂地域の清掃活動への参加
11月　菅生学区のコミュニティまつりへの参加

7. 人材育成計画

①事業所研修について

研修項目	実施月	主催者	対象者	結果
訪問相談の振り返り	毎月 第１金曜日 （５，８，１月は第２） １０:００～	ＳＭ	正規職員	事例の共有と、新たな視点での意見をもらい、支援の妥当性を検討する。 事例検討までのことができず、状況の共有にとどまっている。
勉強会（発達障がい者支援センターと合同）	毎月 第１金曜日 （５，８，１月は第２） ９:００～	正規職員が輪番。	正規職員	職員が相互に講師役を務めることで、学術的知識の習得のみならず、プレゼンテーション能力の向上が図れた。
職員交換研修	８月　赤澤	ＳＭ	正規職員のうち、事業所に１年以上所属している者	法人内の他事業所と交換研修を行うことで、法人内の他の事業について学ぶとともに、顔の見える連携を行えるようになっている。しかし、年度当初にくらべ、対象職員が退職、育児休暇に入る等あり、実施ができていない。

8．防災・安全・衛生活動

なし

9．施設整備講師及び高額什器備品購入

パーテーション工事

１０．その他特記事項

なし

１１．総括及び次年度の課題

職員の入れ替わりが多く、当初予定していた事業内容と実施内容が異なっているものの、相談の件数は当初の計画通りに対応できている。また、新任職員の割合が高い分、朝礼等の意見交換は活発にあり、事業所全体で一人ひとりの職員のフォローを行えている。次年度は、職員の経験を活かしてより質の高いサービスを提供できるように、職員会議、朝礼をより有効に活用していきたい。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：倉敷発達障がい者支援センター】【事業所責任者 ： 近藤友佳子】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
地域との相互理解を深める取り組み	・同敷地内の事業所、倉敷地域生活支援センターと合同で、地域の方と交流できる行事を 2 回企画した。初めての試みであったが、参加いただいた地域の方と直接交流できたによって、事業所のことについて知っていただく機会を持てた 1 年であったと言える。
サービスの向上	・昨年度十分でなかったケース検討の機会を定期的に持つことが定着した。年度後半に実施でき始めたことであるが、事業所の相談傾向の把握には役立ち、また支援について相談することで、サービス向上につながるため、引き続き行っていきたい。
人材育成	・外部研修へ参加する機会は昨年度に比べ少なかったものの、業務へ活かせる内容のものに参加することができた。実際学んだことを活かしきれてはいないため、学びを意識して業務に当たる必要は感じている。 ・事業所内研修では、直接業務に関係する内容の研修を数多く受けることができた。また発表者自身が知識を得、またプレゼンテーション力を養える機会でもあった。各自のスキルアップにつながる良い機会であった。

（説明）

職員は現職場２年目であった。他機関との関係は昨年度である程度できていたので、今年度は事業所内の力を上げていくことを重点的に考えた。特に各職員のスキルアップと、事業所内での情報共有・検討事項に時間を割いた。定期的な相談者が成人期の方が

半数以上を占めているが、青年期の相談が少し増えた年であった。学校との連携、発達期への知識など、学びを得る場を広げる必要性を感じている。

② 中期経営計画に対する今年度の取組み

目標（値）	施策及び結果
ケース会議の実施(随時)	・会議を主催しコーディネートしていく機会が増え、職員の自信につながっていると思う。ただ、まだ十分役割が果たせているとは考えられないため、引き続き関係機関との連携を強化し、コーディネート機能を発揮させたい。
ボランティアの育成	・ペアレントメンターへの同行支援が 11 月から 5 回あった。初めて活動を行ったメンターもいた。今後もメンター活動の場の拡大が見込まれる。
講演の実施	・5 回目を迎えたフォーラム開催に加え、研修講師として 9 回の活動を行った。

（説明）

ケース会議のコーディネート機能、研修講師など、職員のスキルを求められる機会が増した 1 年であった。場数を踏むことでスキルは上がっていると考えているが、今後も向上していく必要性を感じている。ケース数の増加に伴い、他機関との連携も必然的に増えた。この連携を密にすることで、コーディネート機能がよりスムーズに働くことを実感した。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	相談支援(訪問/来所/電話/その他)		機関コンサルテーション		調整会議		個別支援計画の作成	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
４月	100	161	0	0	2	1	20	14
５月	100	157	0	1	2	5	20	11
６月	100	184	0	0	2	6	20	10
７月	100	173	0	0	2	4	20	11
８月	100	156	0	0	2	3	20	10
９月	100	163	0	0	2	9	20	10
10月	100	191	1	0	2	6	20	12
11月	100	166	0	0	2	4	20	18
12月	100	184	0	0	2	4	20	20
１月	100	148	1	0	2	9	20	15
２月	100	164	0	0	2	6	20	15
３月	100	168	0	0	2	5	20	13
合計	1,200	2,015	2	1	24	62	240	159

（説明）

相談件数は目標を大幅に上回った。また、月によって多少ばらつきがあるものの、調整会議も必要なケースも多くあった。反省点としては、個別支援計画作成数が目標の７割に満たなかったところである。継続相談者には必ず目標を立てるようにしているが、目標の更新数が少ないケースが多かったためである。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
子育て応援講座Ⅰ	５月	診断を受け間もない幼児の保護者を対象にした勉強会	８人参加
社会福祉法人クムレ自立支援事業部専門研修	６月	自閉スペクトラム症について	35 人参加
社会福祉法人クムレ自立支援事業部専門研修	７月	自閉スペクトラム症について	44 人参加
そうめん流し・バーベキュー	９月	地域交流行事	９人参加
水島分区保護司会	９月	自閉スペクトラム症のある触法少年･者への関わり	60 人参加
岡山県立古城池高等学校	10 月	自閉スペクトラム症について	100 人参加
子育て応援講座Ⅱ	10 月	診断を受け間もない幼児の保護者を対象にした勉強会	12 人参加
倉敷地域自立支援協議会精神部会	11 月	自閉スペクトラム症について	28 人参加
倉敷分区保護司会	12 月	自閉スペクトラム症のある触法少年･者への関わり	68 人参加
くらしき発達障がい支援フォーラム	１月	自閉スペクトラム症の就労について	204 人参加 倉敷市民対象に行う。保護者に加えて教育・就労関係の方々の参加が目立った。
もちつき	１月	地域交流行事	17 人参加 地域交流行事であったが、町内での急な出来事

			のため地域の方は参加できず、地活サロン利用者と行う。
かさおかわかもの就労支援しおん	３月	自閉スペクトラム症について	２人参加

4. 保護者（家族）との交流事業

１月に開催したくらしき発達障がい支援フォーラムでは、テーマが保護者に身近な問題である就労であったため、多くの相談者の家族が来場くださった。普段直接お話できる機会の少ない家族とも情報交換できる貴重な時間を持つことができた。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	12 件
意見・苦情	未対応０件	３件
事故	発生０件	４件

上記を受けての具体的改善活動

今年度は、仕事が重なった時や時間にゆとりのない時のヒヤリはっとが多くあった。ゆとりのない時こそ、あわてず確認することを改めて思い、また互いに意識付けできるよう朝礼で報告することを習慣づけている。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

同敷地の倉敷地域生活支援センターと合同で、地域の方を招いてバーベキューや餅つきを企画した。
また毎月始めに、事業所周辺の清掃活動を職員全員で取り組んでいる。

7. 人材育成計画

①事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
障がい者総合支援法の改正点について	４月	近藤・太田	法改正の部分を学ぶ
生活保護制度	５月	近藤・太田	生活保護制度の基本について学ぶ
岡山障害者職業センターについて	６月	近藤・太田	障害者職業センターの機能について学ぶ
療育手帳制度と重心判定について	９月	近藤・太田	児相の業務である療育手帳制度と重心判定について学ぶ
倉敷市生活自立相談支援センター	12月	近藤・太田	倉敷市生活自立相談支援センターを設立した経緯、センターの機能について市担当課より学ぶ
フードバンクについて	12月	近藤・太田	フードバンクの組織について学ぶ
電話対応について	３月	近藤・太田	電話対応のあり方について学ぶ

8. 防災・安全・衛生活動

救急法講習を７月、避難訓練を11月に実施した。また、安全衛生管理点検として、事務所内の温湿度測定し快適な環境作りをしている。

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

１１.総括及び次年度の課題

目標達成に向けて、各自地道に取り組んできている。ケースについての検討時間を増やしたことで、より相談者へ合った支援が提供できつつあるようにも考えている。ただ新規ケースはどんどん増えており、支援が十分行き届いていないと思われるケースや個別支援計画の作成が計画通りに進んでいないことは、次年度の課題として残されている。次年度は、今年度以上に相談事業所との連携は増していくため、他機関との情報共有をより強化し、良い支援につなげていきたい。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：居宅介護支援事業所クムレ庄新町】【事業所責任者:池田知里 】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
職員の率先した挨拶から始まる、地域との関係強化	毎月の和気藹々座談会の参加する事で、住民との触れ合い、交流が多くなった。又庄新町民生委員と毎月の情報交換を行い、独居老人、見守りが必要な高齢世帯の見守り、相談を実施。 町内の行事(たこ焼き出店)を今年から町内の人たちに協力を仰ぎ、共同で出店した事でより一層交流が深まった。
支援の充実、サービスの質の向上	法人内事業所間との連携を密にし、会議の参加に加わる事で、切れ目のない支援が行えた。又情報交換を行う事で、総合支援法から介護保険法へスムーズな移行が出来た。
人材育成	法人内の階層別研修・専門研修に参加し、又法人外では倉敷市内のケアマネ事例検討研修会(みずきの会)・県民局主催の医療連携強化研修へ参加を行う事で、専門性とチームケアの重要性を学べることが出来た。

（説明）

地域との関係強化では、和気藹々座談会、町内の行事に参加する事で町内との交流も活発になってきた。又法人内外の障がい相談事業所から、総合支援法から介護保険法への移行相談が少しずつ増えてきた。スムーズな移行が出来る様、他事業所との情報交換を密に行い、切れ目のない支援を目指して行えた。人材育成では、一人事業所の為みずきの会に参加し、事例検討を通してスキルアップを行った。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画				実績			
	定員	現員	要支援1，2	要介護1，2	要介護 3～5	合計	要支援1，2	要介護1，2	要介護 3～5	合計
４月	1	1	4	7	5	16	3	6	4	13
５月	1	1	4	9	5	18	4	6	5	15
６月	1	1	4	10	7	21	3	7	5	15
７月	1	1	5	11	7	23	3	7	5	15
８月	1	1	5	12	8	25	3	7	7	17
９月	1	1	5	14	9	28	3	6	8	17
10月	1	1	6	16	10	32	4	8	7	19
11月	1	1	6	17	12	35	3	9	7	19
12月	1	1	6	18	14	38	2	10	6	18
１月	1	1	6	19	15	40	2	10	6	18
２月	1	1	6	19	15	40	2	10	6	18
３月	1	1	6	19	15	40	2	10	6	18
合計			63	171	122	356	34	96	72	202

*職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）前半の月は、相談が途切れる事はなかったが、施設入所、入院等が重なり大き　　な利用者獲得には繋がらなかった。総合支援から介護保険への移行の相談が主だった為来年度は、他相談事業所へアピールを行う。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
第12回和気藹藹座談会	４月	生活習慣病について学ぶ	19名参加
第13回和気藹藹座談会	５月	低カロリー高たんぱくの食事について	20名参加 やさい畑クムレ販売
第14回和気藹藹座談会	６月	認知症について	32名参加 やさい畑クムレ販売

第 15 回和気藹藹座談会	７月	健康長寿について ・第４回ハワイアンコンサート	48 名参加 やさい畑クムレの野菜販売も大好評
第 16 回和気藹藹座談会	８月	福島県復興支援について	23 名参加 やさい畑クムレ販売
第 17 回和気藹藹座談会	９月	認知症について	21 名参加 やさい畑クムレ販売
第 18 回和気藹藹座談会	10 月	立ち上がり等の基本動作について	20 名参加 やさい畑クムレ販売
第 19 回和気藹藹座談会	11 月	冬に流行する感染症について	19 名参加 やさい畑クムレ販売
第 20 回和気藹藹座談会	12 月	嚥下（飲み込み）について	18 名参加 やさい畑クムレ販売
第 21 回和気藹藹座談会	１月	失禁（尿漏れ）予防体操について	23 名参加 やさい畑クムレ販売
第 22 回和気藹藹座談会	２月	脳トレーニングについて	22 名参加 やさい畑クムレ販売
第 23 回和気藹藹座談会	３月	災害に強い街作りについて	23 名参加 クラシスケーキ販売
庄新町盆踊り大会	８月	町内の方と協力してたこ焼き屋台出店	町内の方たちの協力のもとたこ焼き屋台出店。当日は、町内のご利用者も手伝いに来られる。
庄新町文化祭	10 月	町内の方と協力してたこ焼き屋台出店	町内の方たちの協力のもとたこ焼き屋台出店。

4. 保護者（家族）との交流事業

なし

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	５件
意見・苦情	未対応０件	４件
事故	発生０件	０件

上記を受けての具体的改善活動

サービス事業所とご利用者との間のズレ等の間に入り修正を行う事で、より良い支援の構築を目指した。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・８月　庄新町夏祭り(たこ焼き出店)
・10月　庄新町文化祭(たこ焼き出店)
・11月　人権フェスタ庄参加
・プラザ庄にて無料血圧測定(毎週木曜日)

7. 人材育成計画

①事業所研修について

研修項目	月	参加者	結果
受講した専門研修についての落とし込み	各受講後	渡邊・山下・宮根	認識を合わせる。

8. 防災・安全・衛生活動

なし

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

なし

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

今年度より、居宅クムレ庄新町１か所で通所と連携して相談事業を行ってきた。庄新町に移り１年３か月が経過し、座談会、町内の行事に参加する事で気軽に相談も来るようになった。又民生委員との情報交換を行う事で、又法人内外の障がい相談事業所から、総合支援法から介護保険法への移行相談が少しずつ増えてきた。スムーズな移行が出来る様、他事業所との情報交換を密に行い、切れ目のない支援を目指して行えた。しかし、高齢者の為体調悪化等により、施設入所、入院といった事もあり数字は横ばい状態。

来年度は、居宅クムレの特徴を活かし総合支援から介護保険へ移行をスムーズに行えるよう、又他相談事業所へもアピールを行っていく。

cumre クムレ

平成 26 年度事業報告書

【事業所名：通所介護事業所　クムレ】【事業所責任者:渡邊　哲也】

平成 26 年度事業について下記のとおり報告します。

1. はじめに

① 年次事業実施概要

目標（値）	施策及び結果
職員の率先した挨拶から始める 地域との関係強化	毎月の独居世帯、高齢世帯への訪問を行い座談会や町内のサロン活動や和気藹藹座談会等への参加を促している。座談会には毎月開催しているが 20 名前後の方の参加もありともに学び関係の強化と情報交換に繋がっている。町内行事にはクムレだけでの出店から、町内の方の協力もお願いし共同で参加している。
支援の充実、サービスの強化	家族会の開催を年 2 回行っているが参加されるご家族は 2～3 家族にとどまっている。参加されないご家族には担当者会議等でお邪魔して話す機会は年 2 回確保している。
人財育成	タクティールケアの実践とその効果について研究発表で振り返りをしている。自立の専門研修の受講とパートさんへの申し送りを行っている。和気藹藹座談会で参加者さんにわかるようにテーマに沿った講演を交代で行うことでわかりやすく伝える経験を積んでいる。

（説明）

利用者の拡大を図っておりますが、ぎりぎりの線での在宅生活を支えての利用者も多く利用者の入院等もあり大きな拡大になっていない。土曜日の開所については利用ニーズが無い為見送る。地域との関係強化として庄新町でのサロン活動や町内行事等に関しては毎月の和気藹藹座談会を中心に広がりが出来てきている。町内の方にも活躍していただき、町内行事に参加できるようになった方も出来ている。民生委員共情報交換しながらピンポイントに関わることで生活が改善してきているケースも見られる。家族会に関しては開催してもなかなか参加される方が少ない為工夫が必要である。

2. 職員配置と利用者状況

〔単位：人〕

月	職員数		計画と実績				
	定員	現　員	開所日計画	開所日実績	利用者計画（単位：人）	利用者実績（単位：人）	利用者計画・実績比
４月	3	3	22	22	110	103	93．6
５月	3	3	22	22	115	106	92．2
６月	3	3	21	21	120	115	95．8
７月	3	3	23	23	125	125	100
８月	3	3	21	21	130	115	88．5
９月	3	3	22	22	135	114	84．4
10月	3	3	23	23	140	113	80．7
11月	3	3	20	20	145	106	73．1
12月	3	3	21	21	150	107	71．3
１月	3	3	24	20	160	106	66．3
２月	3	3	24	20	165	100	60．6
３月	3	3	26	22	170	98	72．6
合計			269	257	1665	1308	78．5

※　職員数は、常勤換算で記入してください。

（説明）

５、６、７、８月と新規利用者が順調に増えて計画に沿って行っていたが
ご家族の体調不良や、施設入所、入院などで冬場にかけて利用者の落ち込みに繋がった。見学などもあるがすぐの利用には繋がらない方が多く秋以降の新規利用者受け入れが出来ていない。

3. 行事報告

行事名	実施月	内容	結果
第 12 回和気藹藹座談会	４月	生活習慣病について テーマに学ぶ	19 名参加
第 13 回和気藹藹座談会	５月	低カロリー高たんぱくの食事について	20 名参加 やさい畑クムレ販売
第 14 回和気藹藹座談会	６月	認知症について	32 名参加 やさい畑クムレ販売
第 15 回和気藹藹座談会	７月	健康長寿について ・第４回ハワイアンコンサート	48 名参加 やさい畑クムレの野菜販売も大好評
第 16 回和気藹藹座談会	８月	福島県復興支援について	23 名参加 やさい畑クムレ販売
第 17 回和気藹藹座談会	９月	認知症について	21 名参加 やさい畑クムレ販売
第 18 回和気藹藹座談会	10 月	立ち上がり等の基本動作について	20 名参加 やさい畑クムレ販売
第 19 回和気藹藹座談会	11 月	冬に流行する感染症について	19 名参加 やさい畑クムレ販売
第 20 回和気藹藹座談会	12 月	嚥下（飲み込み）について	18 名参加 やさい畑クムレ販売
第 21 回和気藹藹座談会	１月	失禁（尿漏れ）予防体操について	23 名参加 やさい畑クムレ販売
第 22 回和気藹藹座談会	２月	脳トレーニングについて	22 名参加 やさい畑クムレ販売
第 23 回和気藹藹座談会	３月	災害に強い街作りについて	23 名参加 クラシスケーキ販売
庄新町盆踊り大会	８月	たこ焼き屋台として町内の方の協力もあり参加	町内在住の利用者の方も屋台に来られお手伝いして下さる。 町内の男性 4 名の方が練習にも来てくださり活躍される
庄新町文化祭	10 月	利用者の作品展示とたこ焼き屋台	ブーケの会の方にも協力いただき飛び入りで焼きもお手伝いいただ

			く。 ・利用者様の手工芸作品を掲示しやり方を教えてと危機に来られた方もおられた。

4. 保護者（家族）との交流事業

家族会の開催を年２回行ったが参加者は少ない。６か月に一度は担当者会議で自宅へ訪問して話し合いと情報共有できている為必要性を感じていない様子もうかがえる。和気藹藹座談会への参加も進めるが利用者のご家族の参加はほぼゼロである。町内の利用者さんは時々参加していただいている。

5. 「事故」「意見・苦情」「ヒヤリハット」の改善件数

	目標	発生件数
ヒヤリはっと	出来るだけ多く報告	20
意見・苦情	未対応０件	0
事故	発生０件	0

上記を受けての具体的改善活動

認知症の利用者さん同士のトラブルの仲裁等で事前に予測して対応することや、依存心の強い方に対しての介護方法と考え方の認識を合わせることを日々続けている。

6. 地域公益活動・地域との交流事業

・毎月、和気藹藹座談会を開催し介護教室を行い、座談会新聞の配布、訪問、情報収集。民生委員さんとの情報共有につなげていく。
・毎週木曜日に地元のスーパープラザ庄にて 10 時 30 分～11 時 30 まで血圧測定と介護相談を無料で開催している。
・庄新町町内行事への積極参加と共同参加で盛り上げる。
・庄中学校区人権学習推進委員会に参加し人権フェスティバルへの参加と事業所体験受け入れ。

7. 人材育成計画

研修項目	月	参加者	結果
受講した専門研修についての落とし込み	各受講後	渡邊・山下・宮根	認識を合わせる。

8. 防災・安全・衛生活動

・毎月　食事に関わる職員の検便
・避難訓練　自宅での災害時の対応についての指導（４月、１０月）

9. 施設設備工事及び高額什器備品購入

庭木の剪定（年２回）

10.その他特記事項

なし

11.総括及び次年度の課題

利用人数が現利用者の入院や家庭環境の悪化から減少したため計画通りに伸びていない。
小規模デイサービスの小回りの利く利点を生かしながらより安心し快適な在宅生活の支援を目指している。サービスを利用していない方への見守りや安否確認、情報収集などから町内サロン活動への参加につなげたり民生委員、町内会とも協力したりして住みよい街づくりを目指してきて、賛同いただける協力者も増えてきている。
次年度は、地域の志をお持ちの方々にますます活躍していただける仕掛けをしていきたいと計画している。相互扶助の街づくりを目指していきます。

委員会活動報告書

教育・研修
リスクマネジメント
広報
交通安全・防災
人権倫理
業務推進
安全・衛生

平成２６年度　教育・研修委員会　年間報告書

（2015.3 中谷　出）

1、　　委員会の目的

キャリアパス制度における人材育成の視点に立ち、階層別研修、専門研修、ＯＪＴ、ＯＦＦ－ＪＴ、あるいはＳＤＳ（自己啓発活動）の取組みを行い、クムレ職員への育成支援を行う

2、　　開催日日時・場所

（1）　毎月　第４回目木曜日　１５：００～１７：００

（2）　実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	24	22	26	24	28	25	16	27	25	22	26	26

（3）場所　法人本部２階会議室または小ざくら保育園２階会議室

3、　　委員会責任者　　委員長　中谷成美　　副委員長　岡本初江

4、　　委員会メンバー　理事長・副理事長・本部長

子育て支援事業部：岡本・中谷・田口

発達支援事業部：篠原・原田

自立支援事業部：上村・樋口

本　部：福迫・内村

5、　　活動内容

	主な活動内容
４月	２６年度年間計画、活動内容についての確認
５月	事業部専門研修の実施と振り返り 実践発表について ・題数、助言者、今後のスケジュールについて確認
６月	事業部専門研修の実施と振り返り ・ファイル管理の方法について検討 実践発表について ・進捗報告と次月の予定確認
７月	事業部専門研修の実施と振り返り 実践発表について

	・発表テーマ及び発表形式について ・進捗報告と次月の予定確認
８月	事業部専門研修の実施と振り返り 実践発表について ・発表テーマ及び発表形式、助言者等について ・進捗報告と次月の予定確認
９月	事業部専門研修について ・実施と振り返り ・次年度の計画について 実践発表について ・発表テーマ及び発表形式、助言者等について ・進捗報告と次月の予定確認
10月	事業部専門研修の実施と振り返り ・次年度の計画について 実践発表について ・進捗報告と次月の予定（課題等） ・今後の予定について 次年度の委員会計画について
11月	事業部専門研修の実施と振り返り ・次年度の計画について 実践発表について ・進捗報告と次月の予定（課題等） ・今後の予定について 次年度の委員会計画について
12月	事業部専門研修の実施と振り返り ・次年度の計画について 実践発表について ・進捗報告と次月の予定（課題等） ・今後の予定について 次年度の委員会計画について
１月	事業部専門研修の実施と振り返り ・次年度の計画について 実践発表について ・進捗報告と次月の予定（課題等） ・今後の予定について 次年度の委員会計画について
２月	事業部専門研修について ・次年度の計画について

	実践発表について ・今年度の反省及び次年度の課題等 次年度の委員会年間計画書（案）について
３月	１年間の振り返りと２７年度の計画について

6、　活動内容（補足）

（１）事業部専門研修の推進

・実施内容の振り返りと次月に向けての確認を行い、改善が必要な事柄について随時検討

・研修資料、感想と課題をファイル管理

・次年度の研修計画（案）の検討（１年目職員、２・３年目職員対象）

（２）実践発表の推進

・スケジュールに沿って月１回の各事業部会議で進捗管理を行っていくとともに困りどころをおさえ、事業所責任者にコンタクトをとり、必要なサポートを実施

・実践発表当日まで（冊子作成等含む）の作業工程（案）について検討し、必要な協力を各部署に依頼

7、　活動を通じ得られた成果

・情報の共有と事業部専門研修、実践発表会を終えての問題点（改善が必要な事柄や判断に迷う事柄）についてメンバー間で認識を合わせることがその都度できた。

8、　浮上した問題点

・各事業部（事業所）によって、研修への参加態度等に差異があること

・研修に参加する職員の意欲や意識を高める働きかけが必要であること

9、　問題点に対する対応策（案）

・事業部会議（次年度は事業グループ会議）において事業所責任者と協議を行いながら、必要な働きかけやサポートを行っていく。

10.　次年度以降の活動計画（概要）

・専門研修の推進…次年度計画案の作成と実施

・実践発表の推進と発表会の開催（企画・運営）

実践活動のアドバイス（進捗管理）と助言者とのパイプ役

発表会に関するマニュアルの作成と整備

学会発表への推進（岡山県保健福祉学会）

11、　反省点、感想

人財育成プロジェクト（ワーキングメンバー）と役割を兼務している委員は、どの立場で関わるのか（関わっているのか）、やや混乱した。次年度はそうしたことは明確になる予定

であるので、担う役割を着実に果たしていくことが必要だと感じている。
また、懸案となっている「発表会に関するマニュアルの作成と整備」は、次年度の早い時期に取りかかり、次年度の発表会の開催（企画・運営）には役立つようにしていきたいと思う。また、学会発表への推進（岡山県保健福祉学会）については、助言者との協議・サポート体制のパイプ役となっていく。

平成 26 年度　リスクマネジメント委員会　年間報告書

（20153.9　尾崎　暁代　出）

1、　委員会の目的

（1）リスクマネジメントの基本である、報告、連絡、相談ができやすい風通しの良い職場作り

（2）委員会メンバーがリスクマネジメント研修において学んだ事、委員会の中で深めた事を各事業部の事業所責任者、法人の職員に伝え、自己研鑽を図る

（3）リスクマネジメント研修を実施し、法人内の職員に福祉施設におけるリスクマネジメントのあり方を学び、気づきの視点を向上させる

2、　開催日日時・場所

（1）　毎月第3回目の金曜日　15：00　～　17:00

（2）　実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	17	16	20	18	8	25	16	21	15	16	13	13

（3）場所　法人本部２階会議室

3、　委員会責任者　　委員長　尾崎　暁代

4、　委員会メンバー　財前理事長、江草本部長、久保、樋口、岩藤、小橋、武政、
岩佐、大隅、五嶋、尾崎

5、　活動内容

	主な活動内容
４月	１７日（金）委員会（自己紹介、今年度の活動について、ヒヤリはっとの書式の見直しなど）
５月	１６日（金）委員会（ヒヤリはっと書式の決定、懇親会について）
６月	１日（日）懇親会（子育て）専門研修後に実施 １３日（金）懇親会（自立）地域交流を兼ねてのバーベキュー ２０日（金）委員会（階層別研修を終えて、懇親会の振り返り） ２７日（金）懇親会（発達）ボウリング
７月	８日（火）２９日（火）子育て専門研修（リスクマネジメント） １８日（金）委員会（発達懇親会の振り返り、リスクパトロールの実施について）
８月	８日（金）委員会（子育て専門研修の振り返り、リスクパトロ

	ールについて）
９月	２５日（木）委員会（リスクパトロールのチェック項目について）
10 月	16 日（木）委員会　　リスクパトロールの実施
11 月	21 日（金）委員会 出張報告（岩藤さんより　リスクマネジャー養成研修）
12 月	１５日（金）委員会　リスクパトロールの報告 リスクマネジャー養成講座初級参加（小橋ＳＭ）
１月	１６日（金）委員会
２月	１３日（金）委員会、次年度の活動計画について
３月	

6、　活動内容（補足）

・各事業部ごとの懇親会にて、今年度の委員会の取り組み、趣旨を伝え、コミュニケーションや報告、連絡、相談の必要性を伝える機会を持った。

・階層別研修のリスク研修では、講師に村岡先生を招いての研修であった為、委員会メンバー全員参加した。新しくコミュニケーションリスク、チームステップス等学ぶ機会を持った。

・書式を変更することで、ヒヤリの件数を挙げ、気づきの視点が高まるようにしていく。

活動を通じ得られた成果

・意思の疎通の円滑化を委員会の活動として取り入れ５回目となり、少しずつだが職員への理解が得られたように感じる（毎回趣旨を伝える事で）

・事業所責任者を担うサブマネ、チーフ層に同じ土俵でリスクマネジメントについて認識の統一ができた。

・書式を変更後、うまく PDCA のサイクルが回っているか、リスクパトロールなど取り入れて確認、把握を行っていきたい。

⇒・８月末で３か月試行した為再度書式の見直し改善をし、１１月より改善した新書式にて再度試行していく⇒１月末新書式の見直し

・事故発生処理報告書、意見要望苦情発生処理報告書の見直し⇒平成２７年度より新書式にて実施予定

・リスクパトロールは、１０月より実施、１２月終了

7、　浮上した問題点

・外部講師を招いて、研修を行うことで、リスクにおける認識がサブマネ、チーフに伝える事はできたが、今後それをどう捉え、事業所責任者として深めていくかを浸透、確認していくか委員会で検討したい

・委員会同士の連携で検討し、協力し行っていける事があった為、情報交換しながら進めていきたい。

・事故、苦情対策だけでなく、個人情報の管理や緊急時の対応などの統一化

8、　8、問題点に対する対応策（案）

・事業所責任者が階層別研修にて学んだことを実践し、それをグループ会議など通して確認、

抑えを確実に行っていける体制作り

・個人情報の管理や緊急時の対応についてのマニュアル化及び定期的な研修の実施

10. 次年度以降の活動計画（概要）

・各事業グループにおいてのリスク管理、改善策などをより深く、タイムリーに情報の共有及び水平展開ができる体制作り（委員会メンバーが投げかけ、確認、抑えをしていく）

・緊急時の対応研修の実施

11、反省点

・今年度は、書式を統一して使用する事で、リスクに対する意識も全体的に少しだが高まり、リスク管理も定着しつつあるように感じたが、パトロールを実施することで事業所によっての取り組みの差は大きくなっている。そのあたりの事が事業部会議にて調整することはできなかった。報告のみではなく深めていける場としたい。

12、感想

・今年度初めての取り組みのリスクパトロールは、リスクマネジメントのサイクルの確認（書式）と風通しの良い風土作りとして、スローガンにちなんだ挨拶や笑顔など職場の雰囲気や報・連・相などの周知状況などに絞ってパトロールを行った。そして良い取組みのみ取り上げるという事は、委員会としても法人の職員としても他事業所の取り組みを知るきっかけとなったように感じる。次年度も視点を変えてパトロールを続けていきたい。

平成２６年度　広報委員会　年間報告書

（2015.3.10　吉田　美恵子　出）

1、　委員会の目的

（1）広報誌を通して、クムレの取り組みやこれから取り組むことを分かりやすく発信する。

（2）ホームページを通して、各事業所からの具体的な取り組みをタイムリーに情報発信する。

2、　開催日日時・場所

（1）　隔月（偶数）水曜日　１6:00　～　１7:00

（2）　実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	23		25		27		22		24	28	25	

（3）場所　本部２階会議室

3、　委員会責任者　　委員長　吉田　美恵子　　副委員長　林　植弘

4、　委員会メンバー　山本・朝島・吉田（子育て）
北村（発達）
林・中山・高尾（自立）
森川（本部）

5、　活動内容

	主な活動内容
４月	・今年度の取り組みについて ・ふれあい広報誌について ・ホームページの更新状況の確認
６月	・ふれあい広報誌の内容 ・ホームページの更新状況の確認 ・マスコミへの情報提供について ・クムレの紹介ＤＶＤについて ・動画の操作方法の勉強会
８月	・ふれあい広報誌について ・ホームページの更新状況の確認

	・マスコミへの情報提供 ・クムレの紹介 DVD について
１０月	・ふれあい広報誌の内容 ・ホームページの更新状況の確認 ・マスコミへの情報提供について ・クムレの紹介 DVD について ・出張報告
１２月	・ふれあい広報誌について ・ホームページの更新状況の確認 ・マスコミへの情報提供 ・クムレの紹介 DVD について
１月	・クムレの紹介 DVD の試写
２月	・ふれあい広報誌について ・ホームページの更新状況の確認 ・クムレの紹介 DVD について

6、　活動内容（補足）

４月・ふれあい広報誌の発行について　第１回５月発行予定のもの校正中
・ホームページのタイムリーな更新（最低でも２ヶ月に１回）していく。
各事業所の更新状況を報告し、声を掛けて更新を促していく。
・ホームページの見直し（文章や写真等）

６月・ふれあい広報誌、第２回１０月発行予定の記事内容の検討、依頼をかけていく。
・マスコミへの情報提供　コトノハ山陽新聞取材（シルクスクリーン、カフェ）
・ふれあい広報誌の部数の確認をしていく。（残数が多い）

８月・ふれあい広報誌　第２回１０月発行予定の記事、ほぼできている。
・ホームページの更新がない事業所に声を掛けていく。
・クムレの紹介 DVD の作成

１０月・ふれあい広報誌、第３回３月発行予定の記事内容の検討、依頼をかけていく。
・クムレの紹介 DVD 作成を進めていく（撮影機材、編集機材を購入）

１１月・DVD の講習会（倉敷ケーブルテレビ水野さんより）

１２月・ふれあい広報誌　第３回３月発行予定の記事、依頼済み
・DVD、自立支援事業部完成（今後、子育て事業部、発達支援事業部の順で作成予定）

１月・完成した DVD の試写

２月・ふれあい広報誌　平成２７年度第１回５月発行予定の記事内容の検討、依頼をかけていく。

7、　浮上した問題点

- ふれあい広報誌の残数が多い。
- ホームページのトピックに古い物が残っている。
- ふれあい広報誌、ホームページ等、文言の統一ができていない。
- ホームページの更新を呼びかけないとできない状況がある。
- DVD 作成にあたり、辞める人はどうするか。
- DVD 作成が初回だった為か時間がかかり、時間外で作成することが多く、個人の負担が大きかった。

8、　問題点に対する対応策（案）

- ふれあい広報誌の部数を各事業所に確認する。配布先の検討していく。（地域に配布）
- 過去のトピックは一定期間（１年程度）を超えた場合は消去していく。必要な記事については、専用欄を作っていく。
- 文言の統一が出来ていないところは、その都度、書き出して、広報委員独自の文言を決めていく。
- ホームページの更新の担当を明確にする。更新の仕方を再度知らせていく。（マニュアルを配布する）
- DVD 作成を計画的に、ストーリーを決めて進めていく。素材集めておく。

９、　次年度以降の活動計画（概要）

- ふれあい広報誌の発行
- ホームページの更新
- マスコミへの情報提供
- DVD 作成
- 法人パンフレットの作成（業務推進委員会とのコラボ）

１０、　反省点

- ホームページの更新が、できにくい事業所がある。更新を持ち回りや担当を明確にすることで、定期的に更新できるようにしていく。
- DVD の作成を計画的に、素材を定期的に集めていくようにする。

平成 26 年度　交通安全・防災委員会　年間報告書

（2015.3.11　村川　出）

1、　委員会の目的

（1）安全運転　①公用車の安全運行、交通事故発生予防

（2）防災　①災害発生時の対応策を策定

2、　開催日日時・場所

（1）　毎月第３水曜日　15：30　～　17:00

（2）　実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	16	28	18	16	20	17	15	19	17	21	18	18

（3）場所　法人本部２階会議室

3、　委員会責任者　　委員長　村川大介　　副委員長　稲垣俊吾

4、　委員会メンバー

子育て：中田、稲垣

発達：高下、羽根岡

自立：村川、手嶋、小西、渡辺、仲山、仲田

本部：久保

5、　活動内容

	主な活動内容
４月	平成２６年度交通安全スローガン選定
５月	防災マニュアル作成開始
６月	他委員会とのコラボレーション内容の検討
７月	公用車の耐用基準案の検討
８月	公用車の運行前ボディチェック案の検討
９月	各事業所の避難訓練の実施状況・手順の確認
10 月	防災マニュアル作成内容検討
11 月	新人職員向け安全運転講習の検討
12 月	安全運転に関する帳票のチェック

１月	事故緊急時対応マニュアルの見直し
２月	次年度計画の策定
３月	年間の振り返り

6、　活動内容（補足）

① 毎月交通安全スローガンを発信している。クムレ版安全運転マップを発信。安全運転マップに関しては、必要に応じて号外を発信している。また、防災の日や交通安全運動の告知、それらに関する情報の提供を、サイボウズ等を用いて行なっている。

② 随時、防災に関する研修に参加、または情報収集をしている。（４月：経営者セミナー、５月：中国・四国地区知的障害関係職員研究協議会、６月：倉敷市福祉避難所協定締結式、７月末～９月末：東日本大震災被災法人への応援職員の派遣、１１月：５法人合同研修・災害時における５法人相互の支援協定締結、１月～２月：岡山県災害救援専門ボランティア研修に参加）

7、　活動を通じ得られた成果

① クラシスにおける公用車の洗車時に、簡易な整備点検・車載書類の確認を行なっており、不備がある場合には、随時事業所へ報告を行なっている。

② 安全運転管理者（マイクロバス所有事業所・車両を５台以上保有する事業所に必置）を各事業所に置いて選任し講習受講、整備管理責任者（マイクロバスを２台以上保有している事業所に必置）は整備士資格保有者を選任している。

③ 被災地派遣（福島県）において、被災者の生の声や現地の状況を体感することで、改めて災害発生時における情報取得の重要性と地域との繋がり（連携・顔なじみの関係）の必要性を知ることができた。

④ 災害支援ボランティア研修（３日間）に参加することにより、10 名がボランティアとして登録することができた。

8、　浮上した問題点

① 公用車の事故状況についての情報がなく、無事故日数の把握ならびに事故分析が出来ていない。また、いつどこで発生したか分からないキズ等があり、修繕費がかさんでいる。

② 職員によっては運転技術にバラつきがある。無事故日数が増えない。

③ 高年式または走行距離の長い公用車が増えており、故障・不具合等による顧客および職員への安全に対しての不安がある。

④ 防災については、事業形態や事業所在地が多岐にわたっており、手をつけるべき点が明確になり難い。

⑤ 避難訓練等が義務化されている事業所以外の災害に対する意識が低い。

9、　問題点に対する対応策（案）

① 交通事故報告が本部に上がってきた場合、委員会にも情報を提供してもらい、分析・検討を行なう。また、車両のキズに関しては、運行前チェックを実施する。

② 各事業グループの専門研修等において、公用車に関する安全運転を啓発する講習を行なう。また、警察署所有の交通安全啓発ビデオ等を用いて、各事業所で視聴することにより、交通

安全への意識を高めていく。

③ 官公庁や一般企業（リース・レンタカー会社等）の車両耐用年数を参考に、公用車の入れ替え基準を策定する。

④ BCP は拠点ごと（倉敷拠点・水島拠点）に作成する。また、非常時に使用する１枚もののフローチャート式簡易マニュアルの作成、BCP 作成に向けて３年～５年をめどに委員会で計画を立てる（見える化）。

⑤ 避難訓練の実施の啓発活動や、職員で簡易的にできる非常器具の日常点検、非常用持ち出し袋の常備化。

１０、 次年度以降の活動計画（概要）

・交通安全：安全運転啓蒙活動、法人内帳票定着活動、マニュアルの見直し

・防災：BCP 策定に向けた中長期計画作成、防災対策の仕組みづくり、災害発生時の連携

１１、 反省点

委員長の交代による影響もあり、前年までの活動がリセットされた感が否めず、特に防災・BCP に関しては遅々として進んでいない印象を委員会内においても感じている。しかしながら、情報収集や各種研修に参加、また理事長からの助言により、光明は見えてきている。交通安全に関しては、眼前の問題として取り組むことが出来たように感じるが、結果として無事故日数が伸びておらず、さらなる啓発活動が必要と思われる。

１２、 感想

具体的な成果がなかなか見えない中、委員全員で研修に参加・活動したことにより、事業部を越えての結束力が強まったように思う。今後はこの関係性を活かし、事業グループ間の連携をさらに強めつつ、他委員会との連携も図りたい。

平成 26 年度　人権倫理委員会　年間報告書

（2015.3.11　森安　出）

1、　委員会の目的

（１）人権、権利擁護について学び、人権、権利擁護についての意識を高める。

（２）法人内の職員の人権、権利擁護についての意識の向上を図る。

（３）利用者の権利を守る活動の促進を図る。

2、　開催日日時・場所

（1）　毎月/隔月（奇数/偶数）**第４金曜日　15：30　～　17:00

（2）　実施日（予定）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	25	23	27	25	22	26	24	28	26	23	27	27

（3）場所　*******

本部２階会議室

3、　委員会責任者　　委員長　森安純一

4、　委員会メンバー

中西　裕子、森宗奈央子、新谷　雅人、

岡　　幸代、郷原　佑太、樋口　由佳

5、　活動内容

	主な活動内容
４月	課題の確認、今年度の活動について検討
５月	昨年度のアンケート結果の考察、虐待対応間マニュアルについて
６月	今後の活動について、研修資料の作成について
７月	研修資料作成について
８月	研修用 PPT 作成
９月	研修用 PPT 作成
10 月	研修会実施報告、自立支援事業部「虐待対応マニュアル」作成について
11 月	自立支援事業部「虐待対応マニュアル」作成について
12 月	自立支援事業部「虐待対応マニュアル」作成（構成等について検討）

１月	自立支援事業部「虐待対応マニュアル」作成 次年度の委員会事業計画について検討
２月	次年度の委員会事業計画について検討
３月	

6、　活動内容（補足）

・人権倫理についての学習

・人権倫理についての研修の実施（研修用ＰＰＴ作成、研修実施：自立支援事業部、発達支援事業部）

・虐待対応マニュアルの作成（自立支援事業部）

7、　活動を通じ得られた成果

・アンケート結果の公表、研修の実施などにより、職員の意識の向上が図れたのではないかと思います（研修後の感想などをもとに）。

8、　浮上した問題点

〇研修会の実施・・・研修用資料（PPT）の作成・・・子育て支援事業部

※自立支援事業部、発達支援事業部は実施済み

〇虐待対応マニュアルの作成・・・自立支援事業部「虐待対応マニュアル」を作成

※子育て支援事業部・発達支援事業部は既に設置

9、　問題点に対する対応策

〇研修会の実施

・子育て支援事業部については来年度、研修資料作成、研修実施

〇虐待対応マニュアルの作成

10、　次年度以降の活動計画（概要）

〇人権・権利擁護についての学習

〇人権・権利擁護についての意識啓発活動（研修、研修資料作成）

〇虐待対応マニュアルの整備

〇ストレスチェックの実施

11、　反省点

〇委員会の活動の目標をより明確にすることが必要。

〇研修等への参加の機会を増やすことが必要。

12、　感　想

委員会の活動の中で、人権・権利擁護は日々の支援の最も基本的な位置を占めるものであることを再確認することができた。また、委員会メンバーが、人権・権利擁護などについて、より理解を深め、活動を行うことが必要であることも感じた。

平成 26 年度　業務推進委員会　年間報告書

（2015.1.14　久保　出）

1、　委員会の目的

（1）法人の事務処理を円滑に進めること

（2）法人の経理、労務、人事管理を円滑に進めること

（3）法人内での業務の推進をはかること

2、　開催日日時・場所

（1）　毎月/隔月　第３水曜日　10：00　～　11：00

（2）　実施日（予定）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	16	21	18	16	20	17	15	-	17	-	18	18

（3）場所　法人本部２階会議室

3、　委員会責任者　　委員長　久保　巨人

4、　委員会メンバー

柴崎、高尾、森川、守屋、岩藤、樋口、内村、福迫、駒井

5、　活動内容

	主な活動内容
４月	年間活動内容確認、研修計画について
５月	グループウェア更新、経費削減について
６月	専門研修（社会福祉について）
７月	専門研修（リスクマネジメントについて）
８月	専門研修（本部職員として）ヒヤリはっと
９月	グループウェア更新と物品購入の効率化について
10 月	専門研修（経理について）
11 月	
12 月	専門研修（労務について）
１月	
２月	新年度事業計画について
３月	新年度に向けた取り組みのすり合わせ

6、　活動内容（補足）

・8 月の委員会から事務のヒヤリはっとの報告を実施。一人毎月２～3 件は挙がっており、事務職でのヒヤリを共有しお互いの改善活動につなげている。

7、　活動を通じ得られた成果

・専門研修について、1 回目に社会福祉について（法令理解含む）として「国際機能分類について」を行った。福祉の勉強をしたことがない人が多いが、福祉の考え方を学ぶ機会になった。今後、福祉全般や専門分野の研修を行う。2 回目はリスクマネジメントについて行い、事務にもヒヤリはっとがある事を学び、毎月の委員会で各自のヒヤリはっとを報告しあい情報共有を行い、改善を実施。「経理について」では貸借対照表と資金収支計算書の見方を学び法人の財務体制を確認した。「労務について」では労働条件通知書に記載すべき内容を学んだ。

8、　浮上した問題点

・グループウェア更新、経費削減（消耗品一括購入）について事前調査及び打ち合わせができておらず進んでいない。

9、　8、問題点に対する対応策（案）

・なぜグループウェア更新や経費削減が必要なのかを提案書にまとめたが、まだ部長会で提案する。

10. 次年度以降の活動計画（概要）

（1）事業部を超えての施設体験。

（2）定期的に全事業所へ訪問しコミュニケーションを図る。

（3）事業所のバックアップ

11、反省点

・グループウェア更新や経費削減の提案書を作ったが、提案する機会を作ることができなかった。2 回開催ができず、全員の予定が会わず振替が出来なかった。

12、感想

・今年度は研修の機会が多くあり、自分の不得意分野や今までの経験だけでしてきたものを改めて研修を受けることで理解が深まった。次年度は切れ目のない支援を実現するために事務員は関係ないではなく、事務員も法人職員に変わりはなく、事務として出来ることは何があるのかを委員で検討し実践していく。

平成 26 年度　安全・衛生委員会　年間報告書

（2015.3.10　福田　里美　出）

1.委員会の目的

（1）　利用者及び職員の健康診断の実施及び健康増進と健康管理(フォロー)を行う。
（2）　感染症の発生予防に努め、感染症発生時には適切な対応を行う。
（5）　施設内の安全及び衛生的な環境づくりに努める。
（6）　栄養士・臨床心理士・看護師など専門職が連携をとりながら活動の充実を図る。

2.開催日時・場所

（1）実施日　毎月　第４　火曜日　15：00　～　17:00

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	22	27	24	22	26	24	29	19	18	27	24	24

（2）場所　法人本部　２Ｆ会議室

3.委員会責任者　　委員長　福田　里美

4.委員会メンバー　管理栄養士：藤原、辻　看護師：岡本　事務：駒井（香取、安達　退職）

5.活動内容

	主な活動内容		主な活動内容
４月	・活動実施に向けてのスケジュール確認 ・ソフト食導入後の評価開始 ・クムレだよりの内容検討 ・生活習慣病予防健診の予約確認 ・救急法のスケジュール管理	７月	・安全パトロールの実施 ・ホームページ掲載（クムレだより） ・クムレだよりの発行 ・実践発表の取り組み ・ソフト食食事介助の実態調査実施
５月	・安全パトロールのスケジュール検討 ・実践発表のテーマ検討 ・救急法の日程確認	８月	・安全パトロールの実施 ・実践発表:ソフト食の実態調査の集計 ・事故対応実技研修（コトノハ） ※リスク、看護師連絡会とのコラボ ・感染症マニュアル見直し（自立） ・ホームページ更新（研修）
６月	・感染症マニュアル改訂後に配布 ・実践発表テーマ決定 ・クムレだより作成（７月発行） ・ホームページ掲載（クムレだより） ・安全パトロールの計画	９月	・実践発表の報告書作成 ・クムレだより作成（11 月発行） ・ホームページ掲載（クムレだより） ・安全パトロールの是正確認 ・職員の健康診断の準備

	主な活動内容		主な活動内容
10月	・安全パトロール是正 ・ソフト食食事介助方法の研修 ※ＳＴとの連携 ・クムレだよりの内容確認 ・健診・インフルエンザの手順確認 ・ソフト食介助の実態調査 ・手洗い研修（サラヤより）	１月	・安全パトロールの是正改善 ・実践発表について ・今年度のまとめ ・他委員会とのコラボ活動について
11月	・職員健診のフォロー ・イベント等における食品取り扱いについて周知 ・実践発表の報告書作成 ・クムレだより発行	２月	・クムレだより発行 ・ソフト食の食事介助について ・口腔体操について ・他職種連携について
12月	・実践発表報告書提出 ・食事提供のマニュアル作成検討	３月	・ソフト食の研修計画 ・メンタルフォローについて

6.活動内容の補足

（1）他の委員会との連携

① 研修・・救急法、感染症、けが、事故の対応

② 看護師連絡会・・看護師としてのスキルアップ

（2）ソフト食提供時の食事介助のリスクを減少させるための介助手順のマニュアル化を検討

①視聴覚に分かる手順書（食事の量、交互嚥下、リズム、口腔内の確認）

（3）情報提供

・ホームページの更新として、年/6 回実施

・救急法、緊急時の対応など広報紙に掲載

・クムレだよりとして年/3 回発行

7.活動を通じ得られた成果

・ソフト食の提供を通じて、他職種（看護師、栄養士、ＳＴ、ＯＴ、支援員）との連携ができている事業所がある

・緊急時の手当ての研修をリスク委員会メンバー、看護師連絡会メンバーで１事業所であったが研修を実施した。

8.浮上した問題点

・委員会メンバーの退職があり、後任が決定していない

・他の委員会とタイムリーに情報交換ができていない

・ソフト食の食事介助方法の手順が周知できていない

9、感想

次年度は、他の委員会とのコラボなど計画的に実施していきたい。ソフト食提供については、調理工程は定着しているが、食事介助の問題が明確にされ次年度、ＳＴ、栄養士、医師、看護師、支援員との連携で正しい食事介助を実施していく予定である。

また、職員の心身の健康増進の為に、メンタルヘルスは必要不可欠として学識者、臨床心理士とのアドバイスをいただきたいと考える。